

鳥取県米子市

よし たに かめ お まえ い セキ
吉 谷 亀 尾 前 遺 跡
ふる いち ろく たん だ い セキ
古 市 六 反 田 遺 跡

2006.3

財団法人 米子市教育文化事業団

吉谷龜尾前遺跡・古市六反田遺跡発掘調査報告書正旗表

頁	名稱	貞	正	頁	名稱	貞	正	頁	名稱	貞	正
66p	遺物番号	5	7	73p	遺物番号	376	379	圓版7	遺物番号	137	136
66p	遺物番号	6	5	73p	遺物番号	377	376	圓版9	遺物番号	210	211
66p	遺物番号	7	8	73p	遺物番号	378	377	圓版10	遺物番号	224	225
66p	遺物番号	8	6	73p	遺物番号	379	376	圓版10	遺物番号	225	224
66p	遺物番号	21	24	73p	遺物番号	384	385	圓版10	遺物番号	227	226
66p	遺物番号	22	25	73p	遺物番号	385	384	圓版10	遺物番号	230	231
66p	遺物番号	23	21	73p	遺物番号	388	389	圓版10	遺物番号	231	230
66p	遺物番号	25	22	73p	遺物番号	389	388	圓版10	遺物番号	228	227
66p	遺物番号	26	27	73p	遺物番号	392	393	圓版11	遺物番号	266	267
66p	遺物番号	27	23	73p	遺物番号	393	392	圓版11	遺物番号	287	266
66p	遺物番号	34	35	73p	遺物番号	394	397	圓版12	遺物番号	284	288
66p	遺物番号	35	37	73p	遺物番号	395	394	圓版12	遺物番号	285	284
66p	遺物番号	36	34	73p	遺物番号	396	395	圓版12	遺物番号	286	287
66p	遺物番号	37	36	73p	遺物番号	397	396	圓版12	遺物番号	287	288
67p	遺物番号	72	73	74p	遺物番号	402	403	圓版12	遺物番号	288	285
67p	遺物番号	73	72	74p	遺物番号	403	402	圓版12	遺物番号	302	301
67p	遺物番号	85	86	74p	遺物番号	411	412	圓版15	遺物番号	375	376
67p	遺物番号	86	85	74p	遺物番号	412	413	圓版15	遺物番号	378	375
68p	遺物番号	119	120	74p	遺物番号	413	411	圓版15	遺物番号	379	378
68p	遺物番号	120	119	74p	遺物番号	414	415	圓版15	遺物番号	384	385
68p	遺物番号	124	125	74p	遺物番号	415	414	圓版15	遺物番号	385	384
68p	遺物番号	125	124	74p	遺物番号	433	435	圓版15	遺物番号	388	389
68p	遺物番号	136	137	74p	遺物番号	434	436	圓版15	遺物番号	389	388
68p	遺物番号	137	136	74p	遺物番号	435	433	圓版15	遺物番号	392	393
69p	遺物番号	163	164	74p	遺物番号	436	437	圓版15	遺物番号	393	392
69p	遺物番号	164	163	74p	遺物番号	437	434	圓版15	遺物番号	394	397
69p	遺物番号	190	193	75p	遺物番号	449	451	圓版15	遺物番号	395	394
69p	遺物番号	191	190	75p	遺物番号	450	449	圓版15	遺物番号	396	395
69p	遺物番号	193	191	75p	遺物番号	451	450	圓版15	遺物番号	397	396
70p	遺物番号	210	211	75p	遺物番号	469	471	圓版15	遺物番号	402	403
70p	遺物番号	211	210	75p	遺物番号	470	469	圓版15	遺物番号	403	402
70p	遺物番号	212	213	75p	遺物番号	471	470	圓版15	遺物番号	412	413
70p	遺物番号	213	212	圓版4	遺物番号	21	24	圓版15	遺物番号	413	411
70p	遺物番号	224	225	圓版4	遺物番号	22	25	圓版15	遺物番号	414	415
70p	遺物番号	225	224	圓版4	遺物番号	23	21	圓版15	遺物番号	415	414
70p	遺物番号	226	227	圓版4	遺物番号	24	26	圓版16	遺物番号	411	412
70p	遺物番号	227	228	圓版4	遺物番号	25	22	圓版16	遺物番号	433	435
70p	遺物番号	230	231	圓版4	遺物番号	26	27	圓版16	遺物番号	434	436
70p	遺物番号	231	230	圓版4	遺物番号	27	23	圓版16	遺物番号	436	437
71p	遺物番号	256	267	圓版4	遺物番号	34	35	圓版16	遺物番号	435	433
71p	遺物番号	267	266	圓版4	遺物番号	35	34	圓版16	遺物番号	437	434
71p	遺物番号	268	269	圓版5	遺物番号	47	60	圓版17	遺物番号	449	451
71p	遺物番号	269	268	圓版5	遺物番号	60	47	圓版17	遺物番号	450	449
71p	遺物番号	284	285	圓版5	遺物番号	72	73	圓版17	遺物番号	451	450
71p	遺物番号	285	284	圓版5	遺物番号	73	72	圓版17	遺物番号	456	457
71p	遺物番号	286	287	圓版6	遺物番号	119	120	圓版17	遺物番号	469	471
71p	遺物番号	287	288	圓版6	遺物番号	120	119	圓版17	遺物番号	470	469
71p	遺物番号	288	285	圓版6	遺物番号	124	125	圓版17	遺物番号	471	470
72p	遺物番号	301	302	圓版6	遺物番号	125	124	圓版1B	遺物番号	503	505
72p	遺物番号	302	301	圓版7	遺物番号	136	137				

頁・名稱	遺物番号	排	圓	種別	地区	法量(cm)	燒成	色調	胎土	調整	備考
76p	503	53	坪	—	—	11.8 3.0	良好	暗青灰色 内有褐色 外有黑色	硬密 而1mm的砂粒存在	ナデ	
76p	513	53	裏	D	28.0	3.8	良好			ナデ	

序

米子市は平成17年の春、隣接する淀江町と合併し、大山の麓に広大な自然と歴史・文化を有する都市に変わりました。

合併に伴って当市では、歴史・文化を踏まえたプロジェクトとして、「伯耆の国よなご文化創造計画」を掲げ、豊かな心を育む教育と文化のまちづくりを、市民・行政が一体になって取り組んでいこうとしています。その中において、文化財の保護と活用も基本計画に掲げられています。

今回、鳥取県から委託を受けて実施した「吉谷龜尾前遺跡、古市六反田遺跡」の発掘調査報告書を刊行することになりました。調査では、主に弥生時代から古墳時代末までの遺物が多く発見されました。この報告書が、今後さまざまな分野で広く活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、今回の調査に当たって多くの方々にお世話になりました。指導、ご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

平成18年3月

財団法人 米子市教育文化事業団

理事長 足 立 操

例 言

- 1 本書は鳥取県西部総合事務所の依頼を受けて、財団法人米子市教育文化事業団が平成16年度と平成17年度に実施した、一般県道米子岸本線地方道路交付金工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 本書の図中の方位は磁北で、表記した座標値は国土地理院第V系の座標地である。またレベルは海拔標高を示す。
- 3 本書に記載した第2図の地形図は平成4年11月1日、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「母里」、平成9年3月1日、国土地理院発行の2万5千分の1地形図「伯耆溝口」、第4図の地形図は平成17年1月1日、国土地理院発行の5万分の1地形図「米子」を加筆して使用した。
- 4 本書に記載した第3図の地形図は昭和63年10月修正米子境港都市計画地図（米子市）を複写して掲載している。
- 5 調査に当たって、出土遺物の保存処理を吉田生物研究所に、自然科学分析を文化財調査コンサルタント隊・吉田生物研究所及び古環境研究所に委託した。
- 6 発掘調査によって出土した遺物は、米子市教育委員会が保管している。
- 7 本書の執筆及び編集は（財）米子市教育文化事業団が行った。

凡 例

- 1 遺物実測のうち、須恵器は断面を黒塗り、その他の遺物は断面を白抜きで示した。
- 2 遺跡の略称は、吉谷龜尾前遺跡をYTKM、古市六反田遺跡をFIRTとした。
- 3 遺物実測図の縮尺は土器・石器を1/3、木器1/4を基本とし、それぞれ大型、小型のものについては適度な縮尺で掲載している。
- 4 本文、挿図及び写真図版中の番号は一致する。
- 5 石器の重量測定には、新光電子社製DJ-3000を使用した。



第1図 米子市位置図

目 次

序

例言

凡例

目次

第1章 調査の経緯	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の体制	2
第2章 位置と環境	3
第1節 位置	3
第2節 歴史的環境	5
第3章 吉谷龜尾前遺跡の調査	7
第1節 調査の経過と方法	7
第2節 調査区内の堆積	8
第3節 遺構について	10
第4節 遺物について	22
第4章 古市六反田遺跡の調査	77
第1節 調査の経過と方法	77
第2節 調査区内の堆積	78
第3節 遺物について	80
第5章 まとめ	80
第6章 特論 「吉谷龜尾前遺跡調査における自然科学分析」	85

文化財調査コンサルタント株式会社

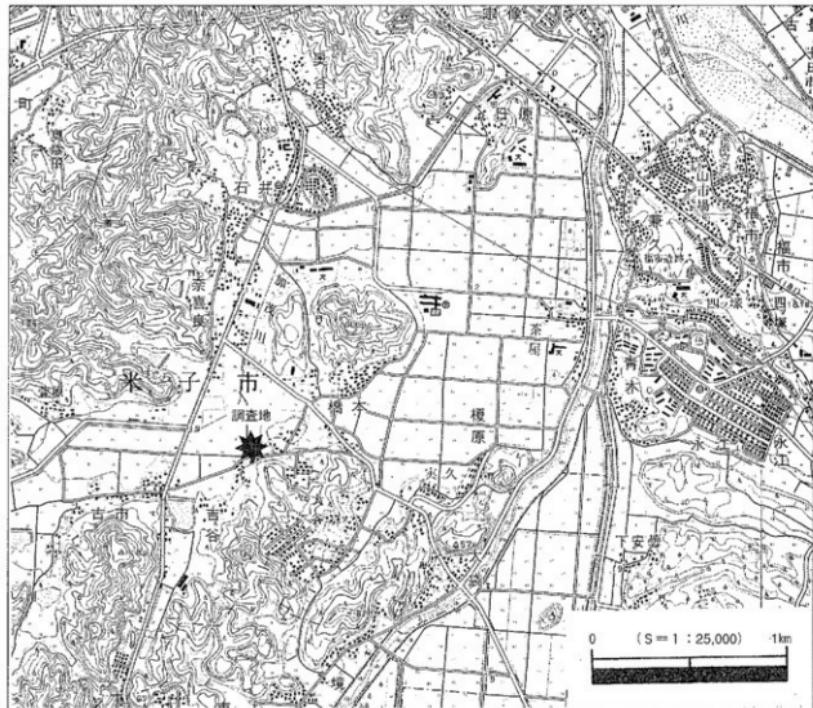
第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、鳥取県が進める一般県道米子岸本線地方道路交付金工事に伴い、文化財の保護を目的とした調査である。この事業に伴う調査として、当事業団では平成12年度に吉谷龜尾ノ上遺跡・橋本徳道西遺跡1区、平成13年度橋本徳道西遺跡4区・5区の調査¹¹⁾が行われ、弥生時代から奈良時代の遺構と遺物が確認されている。また鳥取県においても平成14年度に橋本塗原山遺跡・橋本徳道遺跡の調査¹²⁾を行い、弥生時代から近世までの遺構・遺物を確認している。

これを受けて平成15年度に米子市教育委員会が試掘を行った結果、遺物の包含層が確認され、鳥取県との協議の結果、吉谷龜尾前遺跡及び、古市六反田遺跡の道路側溝部分の調査を平成16年度に、残る古市六反田遺跡の調査を平成17年度に行うことになった。平成16年度調査は、平成16年10月12日から平成17年1月11日まで行い、平成17年度調査は、平成17年6月1日から平成17年6月17日まで行った。

調査の結果、吉谷龜尾前遺跡では溝状遺構1・土壤2の遺構を確認し、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵



第2図 吉谷龜尾前遺跡・古市六反田遺跡位置図

器・石器・木器等が出土した。中でも土師器は集中して出土し、コンテナ約60箱にも及んだ。
古市六反田遺跡では遺構の検出はできなかったが、土師器が多く出土した。

註1 高橋浩樹 「吉谷鬼尾ノ上遺跡・橋本徳道西遺跡」『財団法人米子市教育文化事業団』2003

註2 下江健太他 「橋本遺跡群」『財団法人鳥取県教育文化財団』2003

第2節 調査の体制

平成16年度調査

調査主体 財団法人米子市教育文化事業団

理事長 山岡 宏

埋蔵文化財調査室

室長 比企 裕

調査担当 主任 平木 裕子

臨時職員 森田 静香

非常勤職員 田中 昌子

調査指導 米子市教育委員会

平成17年度調査

調査主体 財団法人米子市教育文化事業団

理事長 山岡 宏（平成17年5月25日まで）

理事長 足立 操（平成17年5月25日から）

埋蔵文化財調査室

室長 比企 裕

調査担当 主任 平木 裕子

臨時職員 森田 静香

非常勤職員 田中 昌子

調査指導 米子市教育委員会

作業員

池本 拓 入沢美智子 石塚祐二 柿佐知子 梅林明子 浦木 燐 大木宏生

大江由美子 大下醇子 加藤晴己 金篠千恵子 木京千尋 桜田孝具 垂水裕之

中原明子 野口 稔 野本 薫 野本次郎 原 孝子 原 満留 福嶋昌子

細田恵美 本田 修 本田勝二郎 本田 弇 本田美雪 宮田紀子 安江満つ美

渡部安子（敬称略）

第2章 位置と環境

第1節 位置

今回調査を行った吉谷龜尾前遺跡と古市六反田遺跡は、米子市の南西部の吉谷・古市地区に広がる弥生時代から古墳時代にかけての遺物散布地である。

米子市は鳥取県の最西端に位置し、古くから「山陰の商都」と称されるように商業で栄えた鳥取県西部の中核都市である。平成17年に東部に隣接する淀江町との合併により総面積132.21m²、人口約15万人となった。

地形的には、米子市は日野川の沖積作用によって形成された山陰では比較的広い平野である米子平野に広がり、周辺部を東側に大山（標高1,729m）とその造山活動によって形成された火山灰台地、南側から西側には中国山地から続くなだらかな丘陵によって囲まれる。北側には日野川の流出土砂の堆積によって形成された弓ヶ浜半島が島根半島へと延び、これらの中間に囲まれた汽水湖中海に面する。

吉谷龜尾前遺跡と古市六反田遺跡は、米子市街地の南西約4kmに位置し、南の丘陵を越えると南部町（旧会見町・旧西伯町）、西の丘陵を越えると島根県という県・市町村の境界の地である。母塚山（標高272m）から派生する丘陵地帯の先端部に位置する。東側には法勝寺平野が広がる。



第3図 吉谷龜尾前遺跡・古市六反田遺跡調査範囲図



第4図 周辺測路分布図

1.立井高尾山通路	25.鶴谷山通路	42.久慈山通路	59.久慈山通路	76.久慈山通路	103.高木山通路	130.東高木山通路	131.東高木山通路
西高木山通路	26.日高山通路	50.下高木山通路	60.久慈山通路	77.久慈山通路	104.高木山通路	132.東高木山通路	133.西高木山通路
2.鶴谷山通路	27.東高木山通路	54.大高木山通路	81.高木山通路	82.高木山通路	105.高木山通路	134.西高木山通路	135.大高木山通路
3.鶴谷山通路	28.宗倉古道跡	55.大高木山通路	83.高木山通路	83.高木山通路	106.高木山通路	136.宮古古道跡	
4.吉田通路	29.大塙山通路	56.鶴木通路	84.高木山通路	84.高木山通路	107.高木山通路		
5.鶴木通路	30.長野高木通路	57.天方通路	85.高木山通路	85.高木山通路	108.高木山通路		
6.鶴木七尾原	31.長野山通路	58.高木通路	86.丸山明治当道跡	86.丸山明治当道跡	109.西高木山通路		
7.宗倉古道跡	32.水道山1通路	59.三郷山通路	87.岸本ノア原通路	87.岸本ノア原通路	110.中西高木山通路		
8.吉谷山通路	33.長野山2通路	60.天方土井原通路	88.高木山通路	88.高木山通路	111.河原田通路		
9.吉谷山通路	34.池ノ原山通路	61.高木山通路	89.高木山通路	89.高木山通路	112.渡りより通路		
10.吉谷山鳥山通路	35.高木山通路	62.高木山通路	90.高木山通路	90.高木山通路	113.新ノア通路		
11.吉谷山通路	36.高木山通路	63.高木山通路	91.日下ノ原通路	91.日下ノ原通路	114.高木山通路		
12.吉谷山通路	37.四日市町通路	64.高木山通路	92.日下平通路	92.日下平通路	115.高木井方古道跡		
13.吉谷山通路	38.鶴見1通路	65.鶴石山原通路	93.日下平通路	93.日下平通路	116.吉田古道跡		
14.鶴山通路	39.鶴見下白糸原通路	66.鶴石古道跡	94.日下平通路	94.日下平通路	117.四十九号後穴古道跡		
15.鶴山通路	40.今立木下升ノ上通路	67.清木谷通路	95.日下平通路	95.日下平通路	118.小堀山古道跡		
16.鶴山通路	41.福地通路	68.高木古道跡	96.日下平通路	96.日下平通路	119.城山古道跡		
17.鶴子大田通路	42.青木通路	69.天王原通路	97.日下平通路	97.日下平通路	120.小社山古道跡		
18.鶴子神谷通路	43.樺ノ口山4通路	70.日方金通路	98.日下平通路	98.日下平通路	121.上淀南寺跡		
19.鶴子神谷通路	44.日方山4通路	71.日方山通路	99.日下平通路	99.日下平通路	122.向山古道跡		
20.鶴子山通路	45.鶴見1通路	72.長野通路	100.板ノ上通路	100.板ノ上通路	123.風見山古道跡		
21.鶴子山通路	46.鶴見山通路	73.鶴見山通路	101.豊島山古道跡	101.豊島山古道跡	124.手神古道跡		
22.鶴子山通路	74.大高木山通路	74.大高木山通路	102.小高木山古道跡	102.小高木山古道跡	125.渡頭通路		
23.鶴子山通路	75.鶴見ヶ丘通路	75.鶴見ヶ丘通路	103.大下通路	103.大下通路	126.今津川の上通路		
24.石井里寶	76.本大成通路	76.本大成通路	104.豊島1通路百段2通路	104.豊島1通路百段2通路	127.北尾至近通路		
	77.豊島通路	77.豊島通路	105.豊島通路	105.豊島通路	128.豊利通路		
	81.豊原通路	78.豊原通路	106.豊原通路	106.豊原通路	129.豊田通路		

第1表 周辺測路一覧表

第2節 歴史的環境

この地で人類の痕跡が見られるようになるのは縄文時代になってからで、奈喜良遺跡⁷・陰田宮の谷遺跡¹⁶でサヌカイト製の有舌尖頭器が出土している。隣接する南部町でも諸木遺跡⁵⁶（旧会見町）・福成石佛前遺跡⁶⁵（旧西伯町）で出土している。その他目久美遺跡⁵⁵では多数の石錘や歯骨、ドングリ貯蔵穴、青木遺跡¹²で落し穴群が検出され、新山山田遺跡¹³、古市遺跡群¹¹においても縄文時代の遺構・遺物は出土しているが、集落としての全体像は不明である。この時期の遺跡の分布の中心は日野川の東岸に見られる。旧淀江地区では、多量の石錘、黒耀石剥片とともに木製漁獵具が出土した早期から前期の渡り上り遺跡⁴⁸、隣接する鮎ヶ口遺跡¹³では曾畠式土器が出土している前期の遺跡である。河原田遺跡¹¹では、後期から晩期にかけての土器が多量出土しているほか、井手脇遺跡¹³¹では漆塗櫛・耳環をはじめとする漆製品が出土している。百塚遺跡群^{104～107}では住居跡・落し穴が検出されている。その他、縄文時代の遺跡としては上福万遺跡¹⁵・清水谷遺跡¹⁶・陰田第1遺跡¹⁶・陰田第7遺跡¹⁵・陰田第9遺跡¹⁵なども知られる。

弥生時代になり海退が進むとともに低湿地が広がり、水田が開かれるようになる。そしてその周辺の微高地では集落が営まるようになる。前期の遺跡としては、日久美遺跡・池ノ内遺跡⁵⁴・長砂第1・2遺跡^{20・31}・錦町第1遺跡³⁸などがある。淀江平野の北部の今津岸の上遺跡¹⁰⁶では前期末の環濠が確認されたほか、初期稻作集落が形成されたことが窺える。

中期になると丘陵にも集落が営まるようになるが、大規模で長期間継続するものと、小規模で短期間で消滅するものとに分かれる。古谷周辺でも前期から後期まで断続的に集落が引き続き営まれている。淀江地区においても平地から微高地にかけて晚田遺跡¹²⁰・北尾宮迫遺跡¹³⁷・角田遺跡¹⁴・福岡遺跡¹³⁹など集落が分散して営まるようになる。中でも角田遺跡で出土した線刻絵画は、当時の生活様式はもちろん精神世界を知るうえにおいても貴重な資料といえる。福岡遺跡で確認された粘土探掘坑は、土器製作に用いられたものと考えられる。

日野側東岸の堤点的遺跡には、目久美遺跡・青木遺跡・越敷山遺跡群⁷¹・橋本遺跡群⁵周辺には、古谷龜尾ノ上遺跡²が挙げられる。

後期になるとムラを統括する首長が出現するようなるが、青木遺跡・福市遺跡・越敷山遺跡など中期から引き続き大規模な集落を形成する。一方、尾高浅山遺跡1号墓⁹⁴や日下1号墓⁹¹で知られる四隅突出型埴丘墓が発達する。

特に淀江地区では国内最大の高地性集落として知られる妻木晚田遺跡¹³¹が出現する。ここでは集落・環濠および埴丘墓が確認されるなど、国家形成期の地方の様相を示す遺跡として注目される。

古墳時代になるとこの辺りにも勢力をもった集団の存在を裏付けるかのように古墳が築かれるようになる。前期の古墳としては、三角縁神獣鏡が出土した普段寺1号墳⁹⁴・2号墳・石州府29号墳⁹⁹、日原6号墳⁹⁹が知られる。普段寺1号墳は前方後円墳、普段寺2号墳・日原6号墳は方墳、石州府29号墳は円墳である。淀江地区においては晚田山古墳群¹⁰⁹において墳墓が確認される。

中期の古墳としては三崎殿山古墳¹⁵などがみられる。また米子平野周辺の丘陵部には多くの古墳群が存在する。周辺部では、陰田・新山遺跡群・新山・古市遺跡群で、数基の古墳が見られのみであるが、日野川西側では、福成早里古墳群⁹⁴・宗像古墳群⁹⁴・東宗像古墳群⁹⁴、日野川東側では、尾高古墳群⁹⁹・日下古墳群⁹⁹・石州府古墳群⁹⁹などの古墳群がみられる。淀江地区においては上ノ山古墳が築造され、ここでは竪穴式石室から、内行花文鏡・滑石製小勾玉・甲冑の出土している。中期後半に

なると向山3号墳¹²や坂ノ上1号墳¹⁰⁰が築造されるが、盾持人などの形象埴輪が多量に出土した井出挾3号墳¹³や径40mを測る日吉塚古墳¹⁴などが含まれる中西尾古墳群¹⁵において、淀江平野を支配した首長墓の系譜が窺える。

後期になると米子平野において横穴式石室を主体部とする古墳と、横穴墓の両方が展開するいくつもの古墳群が形成されるようになる。中でも石州府古墳群¹⁶、東宗像古墳群¹⁷、宗像古墳群¹⁸、陰田古墳群¹⁹などがよく知られる。淀江地区においても古墳の数は増え広く分布するようになるが、首長の系譜は向山古墳群¹²に移ったようで、石馬谷古墳、長者ヶ平古墳、岩屋古墳などが築造される。一方茶畠遺跡¹³、宮内遺跡¹⁶、平遺跡¹³、長田遺跡¹⁴、城山遺跡¹⁹、稻吉遺跡¹³、四十九谷遺跡¹⁷、高井谷遺跡¹⁵、中西尾遺跡¹⁴、西尾原遺跡¹⁰、百塚遺跡¹⁰、壺瓶山遺跡¹⁰、小波上遺跡¹⁸、中間遺跡¹⁹など古墳群・横穴墓群などが多く造営される。平野部においては、集落は弥生時代から引き続いて営まれるもののに他に、新山山田遺跡・新山延石山遺跡¹⁸、古市カワラケ田遺跡¹⁵などがみられる。

一方集落遺跡は、福市遺跡¹¹、青木遺跡など日野川東岸の丘陵上に多く展開するが、吉谷古市周辺においても、奥谷掘越谷遺跡²⁰、奈喜良遺跡、吉谷上ノ原山遺跡⁹、吉谷トコ遺跡⁸、新山延石山遺跡、新山山田遺跡などが知られる。

奈良時代以降の遺跡としては、墨書き土器や木簡など官衙に關する遺物が出土している陰田・新山遺跡が知られているが、吉谷銭神遺跡¹¹、吉谷中馬場山遺跡¹⁰でも墨書き土器や赤色塗彩土師器などが出土している。その他福市・青木遺跡、淀江地区的百塚遺跡群で集落跡が確認されている。

白鳳期には全国的に多くの寺院が建立されるようになるが、国内最古級の仏教壁画が出土したことで注目された上淀廐寺跡¹⁵が有名である。

中世遺跡の城館跡としては、中世の拠点であったと思われる尾高城¹⁵が米子平野の丘陵上にある。吉谷古市周辺では山名氏支配下の国人によって構築されたと思われる新山要害¹⁵、石井要害¹⁵、橋本七尾城¹⁵などがある。そのほか、中世の遺跡としては、青木古墓、諏訪1号墳⁶、別所長峰古墓⁵¹、長砂経塚、中山経塚などがある。

近世になると米子は中村氏→加藤氏→池田氏→荒尾氏と支配されるようになり、その過程で米子城周辺に城下町が発展する（米子城跡¹⁵）。

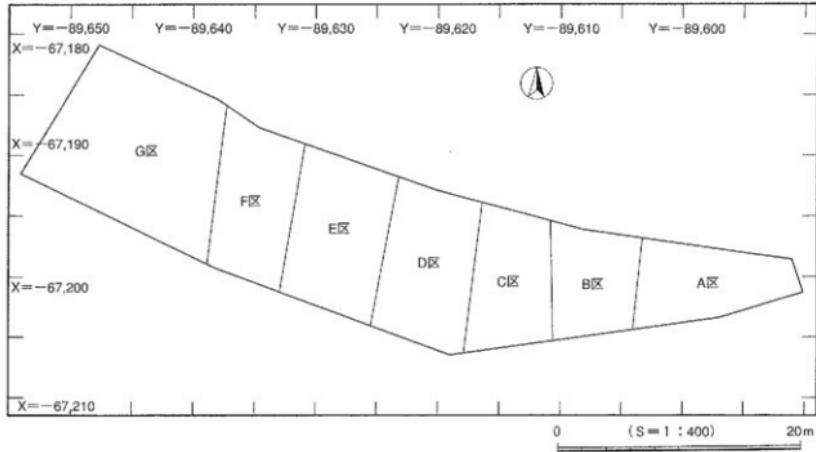
第3章 吉谷龜尾前遺跡の調査

第1節 調査の経過と方法

現地調査は、平成16（2004）年10月12日から開始し、平成16（2004）年12月28日まで行った。調査面積は490m²で、現地表面から約1.5mの深さまで掘り下げた。調査地は南側に位置する丘陵の裾野に当たり、調査地の東側A区では約30cm掘り下げたところで地山である白色粘土の岩盤が検出され、岩盤は北西方向に向かって緩やかに傾斜する。調査地の東南には平成13年に調査された、吉谷龜尾ノ山遺跡・橋本徳道西遺跡がある。調査地は標高12mで水田として利用されていた。

地表面から50～60cmまでの現在の耕作土を重機によって除去した後、かなりの湧水が考えられたため、周囲及び調査地を横断する溝を設定したうえで、人力により1面ずつ掘り下げていった。調査区の区割りは、排水のための横断排水路ごとに7分割し、東端をA区とし、西端G区までを設定した。南側の壁面で土層観察を行い、主だった層では自然化学分析を行った。分析結果については後述する。

遺物の取上げ、遺構の実測については、トータルステーションを使用した。調査の結果、遺構としては平安時代のものと考えられる池状遺構、時期不明の土壙及び溝上遺構を検出した。遺物は大量の土師器のほか、弥生土器、須恵器、陶磁器、木製品、石製品等が出土した。



第5図 吉谷龜尾前遺跡調査区設定図

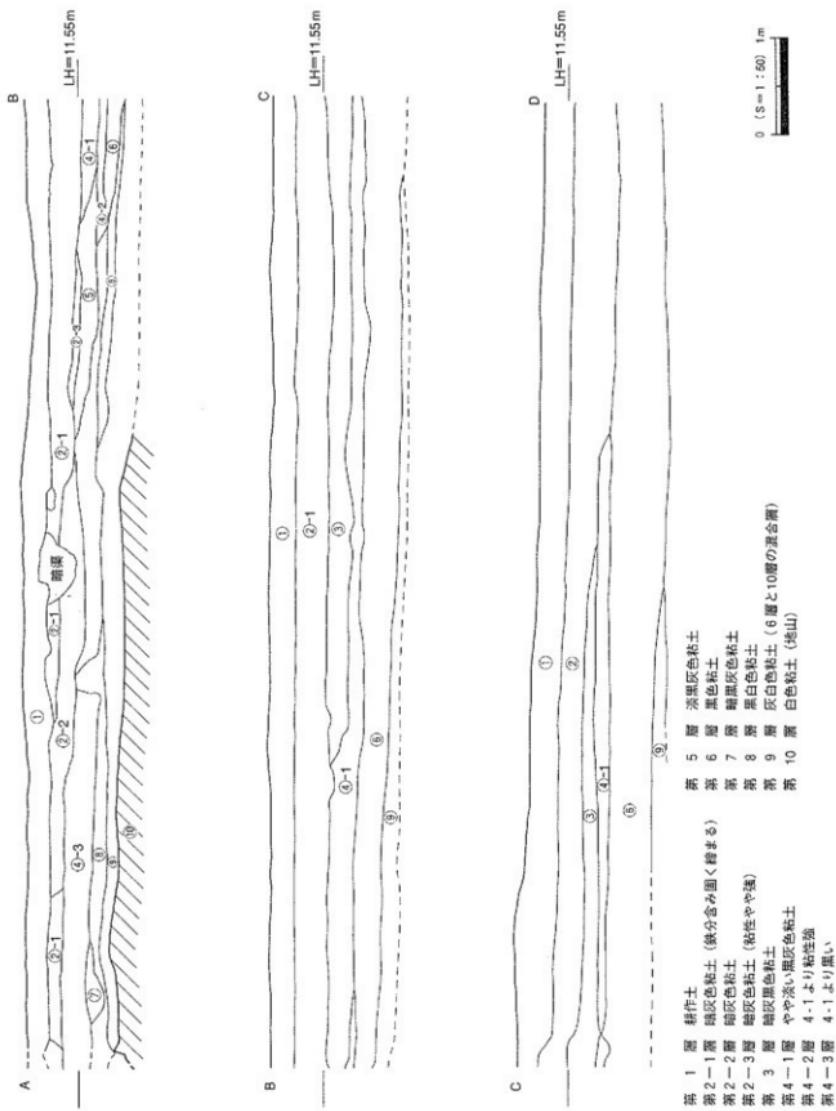
第2節 調査区内の堆積（第6図）

調査地の地形は、母塚山から派生する小丘陵の裾野にあたることから、調査地の南東側から北西側に向けて緩やかに傾斜する。土層観察は調査地の南側壁面で行った。

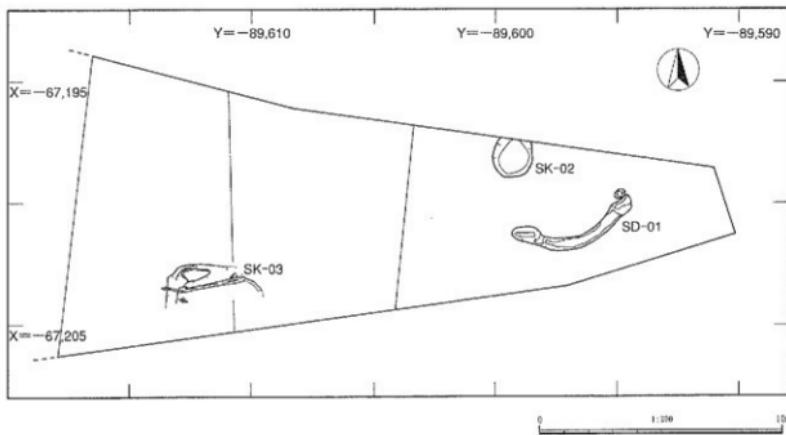
調査区の堆積は、旧耕作土までは水平に堆積している。A区では地山が高い位置で検出され、A区の半分は耕作土の下がすぐ地山であった。その下は傾斜によって厚みは北西側に行くにしたがつて次第に厚くはなるが、層序はほぼ同じである。

- 第 1 層 耕作土
- 第2-1層 暗灰色粘土（鉄分含み固く締まる）
- 第2-2層 暗灰色粘土
- 第2-3層 暗灰色粘土（粘性やや強）
- 第 3 層 暗灰黒色粘土
- 第4-1層 やや淡い黒灰色粘土
- 第4-2層 4-1より粘性強
- 第4-3層 4-1より黒い
- 第 5 層 淡黒灰色粘土
- 第 6 層 黒色粘土
- 第 7 層 暗黒灰色粘土
- 第 8 層 黑白色粘土
- 第 9 層 灰白色粘土（6層と10層の混合層）
- 第10 層 白色粘土（地山）

第1層は現在の耕作土、第2層は旧耕作土と思われるが上層部分は鉄分を多く含み大変固い層である。第3層は暗灰黒色粘土で、第4層及び第5層は遺物包含層である。第6層黒色粘土で、第7層暗黒灰色粘土で、第8層と第9層は混じりのない安定した粘土層である。第10層は真白な粘性の大変強い層である。



第6図 吉谷龜尾前遺跡土層断面図



第7図 吉谷龜尾前遺跡遺構配置図

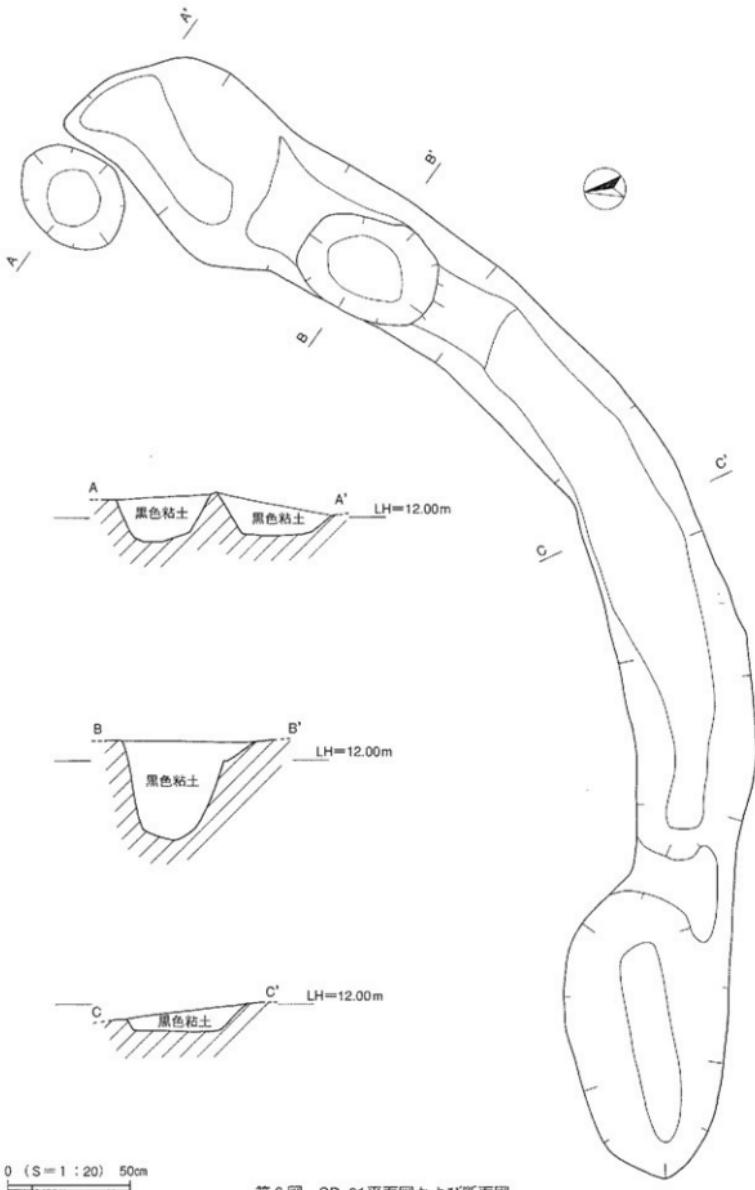
第3節 遺構について

A区で溝状造構（SD-01）と土壙（SK-02）を1基ずつ、C区で池状造構（SK-01）を1基検出した。

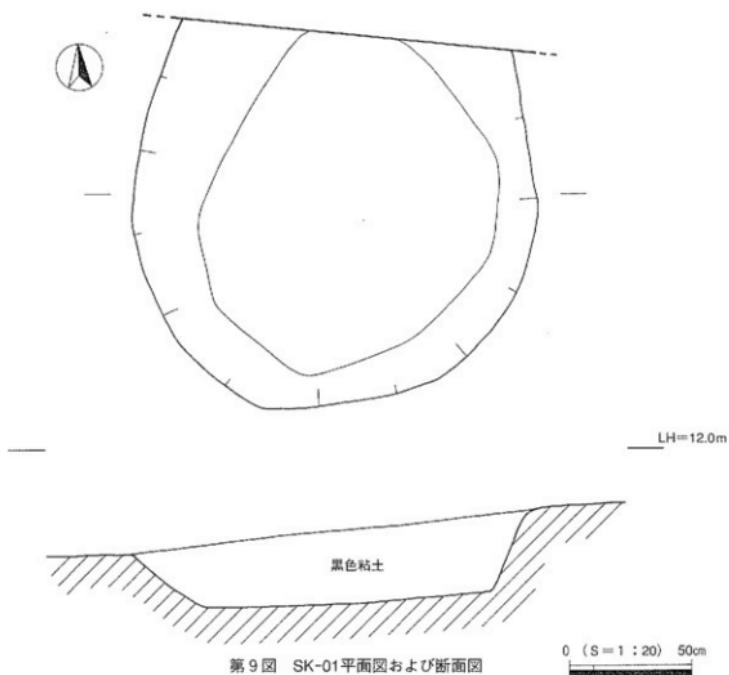
SD-01 A区のほぼ中央にやや弧を描くように地山を掘り込む状態で検出された。幅40cmから70cm・深さ約10cmの断面は逆台形を呈する溝である。溝の西端は自然消滅しており、東端も途中で途切れた状態で、はっきり溝と分かれる長さは約5.58mであった。溝の途中には長径60cm・短径42cm・深さ40cmの楕円形を呈するPit状の落込みを、また、溝の北東端には長径50cm・短径38cm・深さ約20cmの楕円形を呈するPit状の落込みを確認した。住居跡等の可能性も考えたが、それに結びつくようなものを確認することはできなかった。溝の東側では多数の小穴を検出したが、直上が水田だったことから恐らく樋穴と考える。遺物としては、須恵器と土師器の小片が溝の中から出土している。

SK-02 A区の溝状造構の北西側で検出した。北側の一部を溝によって切られているが、径166cm・深さ29cmのほぼ円形を呈する土壙を検出した。中からは何も検出されず、時期及び性格については不明である。

SK-01 B区・C区の南端部で検出した。調査区の境界での検出のため全体を調査することができなかっただため、その全容を明らかにすることはできなかった。検出最大長は東西方向で3.9m、南北方向は南側が調査区外にかかるが検出長約1.9m・深さ約40cmの不整形な形を呈する土壙状の落込みである。検出時の状況は、壁面に白色粘土を貼り付けた状態で、床面には壁に立掛けるように長さ298cm、幅21cm、厚み5~10cmの横木（W8）が、杭によって固定されていた。



第8図 SD-01平面図および断面図



第9図 SK-01平面図および断面図

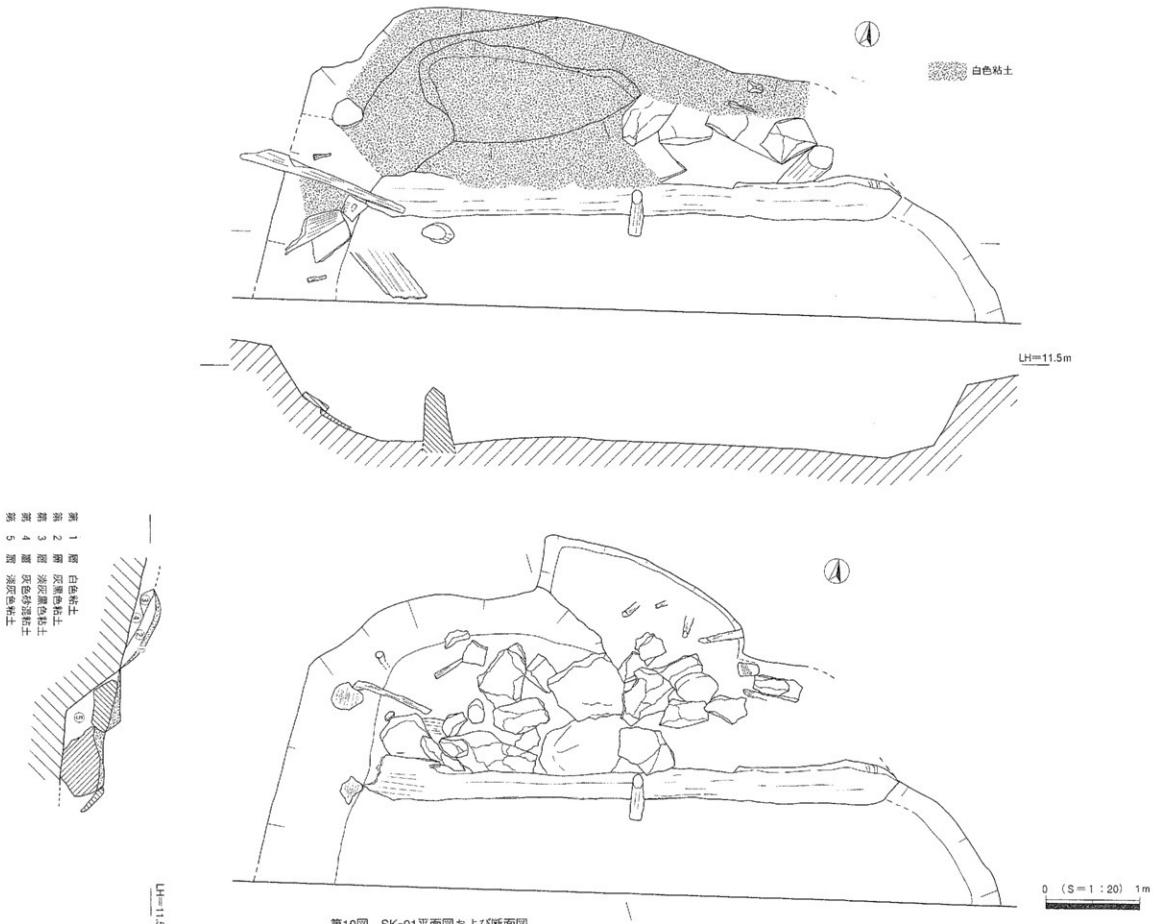
この横木の一方は、丁寧な加工が施されており、建築材の転用と考えられる。次に壁面の粘土を除去すると、30cm前後を中心にして、大きいもので50cm位の石が詰め込まれていた。また、北側の一部には上部から15cm付近にテラス状のものが見られた。これがこの土壤を利用するためのものか、次の作業のためのものは不明であるが、ステップとして使用されていたのではないかと考えられる。白色粘土は、厚いところで5cmも貼り付けるという大変丁寧な作業が施されている。おそらく水が染み出ないようにするためのものと考えられることから、この土壤は池のような水をためておく施設と考えられる。今回検出したような規模のものは類例を見出せなかったが、神門房下遺跡C地点^㉑・市谷加賀町二丁目遺跡^㉒において、壁面に粘土を貼り付けた水溜用と思われる土壤が検出されている。また、花粉分析の結果から、この地が水田であった可能性が高いことからも農業用施設の可能性が考えられる。恐らくは山の下がり水であろうが、調査中も絶えず湧き出る水に困難を窮めるほどで、十分な水量は確保されていたのではないだろうか。

時期は木材の年代時期から8世紀から10世紀ごろのものと考えられる。

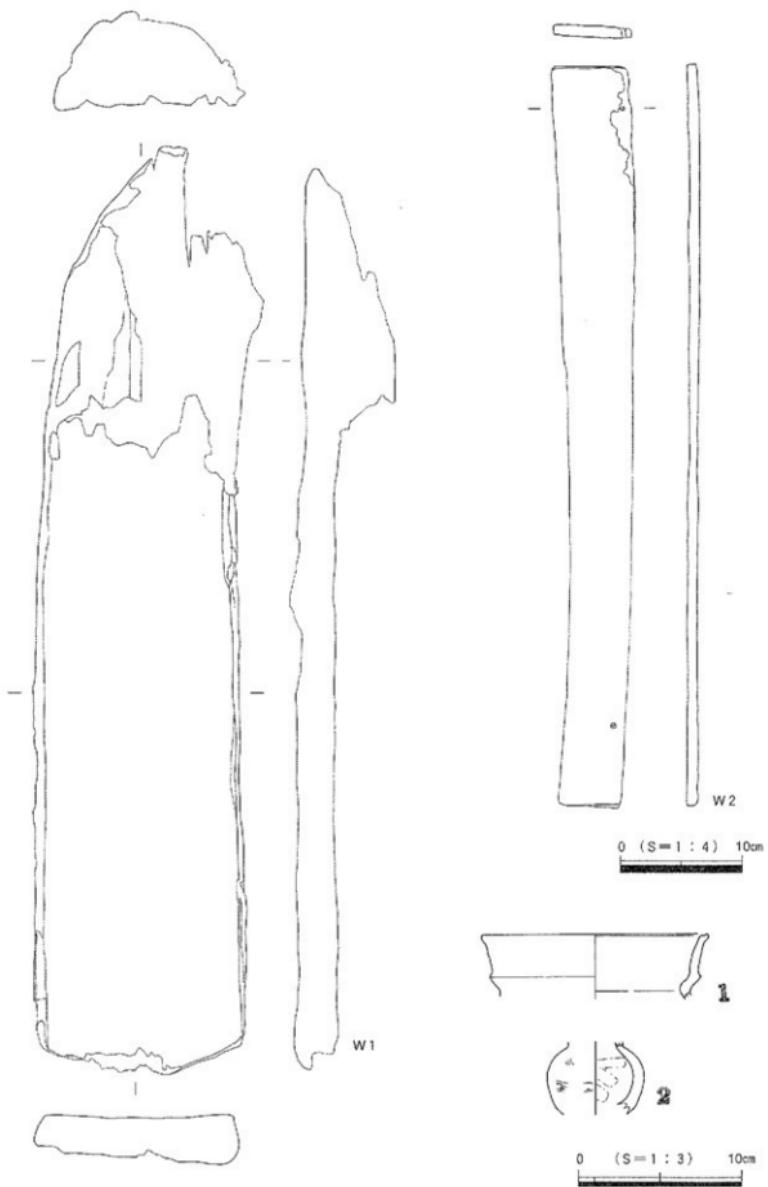
遺物は遺構に伴うものとして、石組みの中からNo.1・No.2を検出したほか数点の土師器小片を検出した。木製品は、W1～W4流れ込みか破棄されたもの、W5・W6は杭、W7は石を除去した跡出土したものである。

註1 「神門房下遺跡」『(財)印旛都市文化財センター発掘調査報告書』2004.3

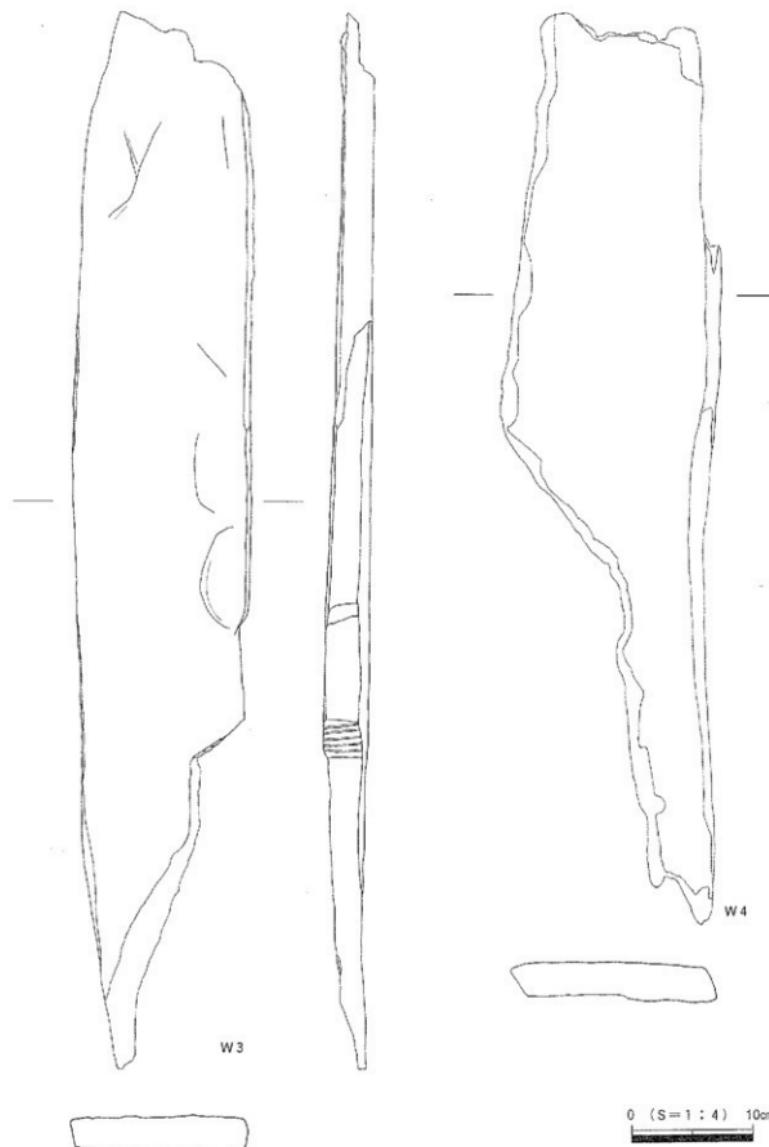
註2 「市谷加賀町二丁目遺跡」平成17年に東京都埋蔵文化財センターによって調査。



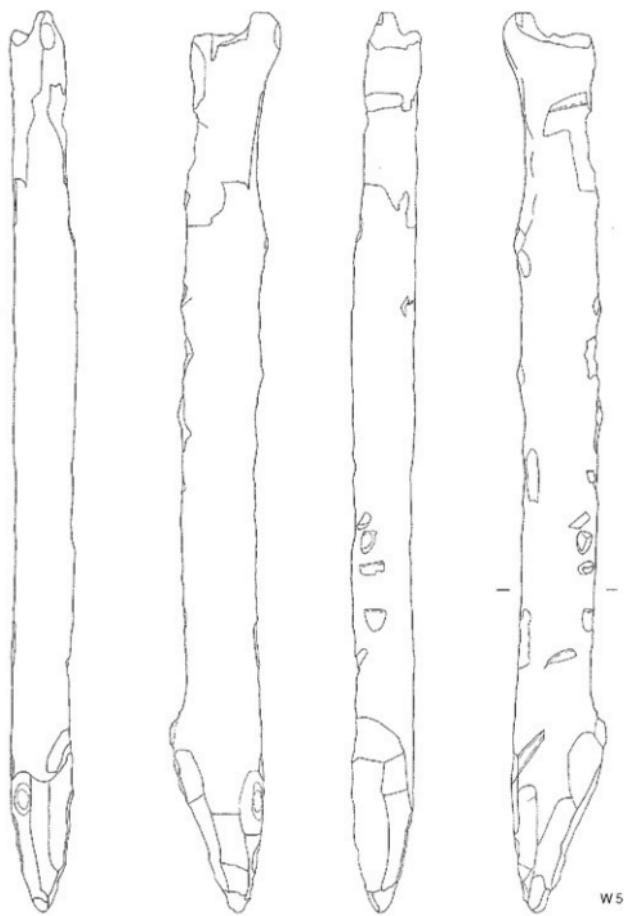
第10図 SK-01平面図および断面図



第11図 SK-01出土遺物実測図



第12図 SK-01出土遺物実測図



0 (S = 1 : 4) 10cm

第13図 SK-01出土遺物実測図



第14図 SK-01 出土遺物実測図

第4節 遺物について

遺物は遺構に伴うものはSK-01から出土したものが若干みられるのみで、他はすべて流れ込みの遺物である。C区で特に集中して出土しているが、今回調査した範囲では全体的に緩やかな傾斜にはなっているのみで、C区で集中している地形的な要因等は不明である。遺物は第5図の設定区ごとに取上げ、特に出土量の多いC区においては、さらに区画を分けて取上げを行った。

図は各時期一括して器種ごとに掲載しているが、土師器については各設定区において器種ごとに掲載し、各設定区の遺物実測図の前頁にその出土状況を弥生土器とともに、弥生土器■・土師器○で図示した。なおD～G区については、地山まで掘り下げていないため、下場のラインは第9層灰白色粘土で図示している。

縄文時代の遺物（第16図）

今回の調査ではC区で検出された1点のみで、外面に太い貼付突帯を付した変形土器の一部である。（No.3）。

弥生時代前期の遺物（第17図・第18図）

壺形土器（No.4～No.9・No.37～No.40） No.4～No.7は口縁部が

緩やかに外反し、頸部にはヘラ描沈線を施し、No.4・No.7はその下方に円形刺突文を施す。No.8・No.9は口縁部がラッパ状に大きく外反する。No.36～No.39は緩やかに「くの字」状に屈曲する口縁部を呈し、全体的に器壁が厚いものである。

変形土器（No.10～No.36） No.10からNo.15は口縁部を緩やかに外反させ、端部に刻目を施す。またNo.15以外は口縁部の下方に数条の沈線を施す。No.16～No.19はL字に屈曲する口縁を呈し、No.16は端部に刻目を施す。口縁部下方には数条の沈線を施す。No.21～No.33は大きく「くの字」状に屈曲する口縁を呈し、No.21は端部に刺突文を施す。

鉢形土器 No.35・No.36は浅型の鉢形土器である。

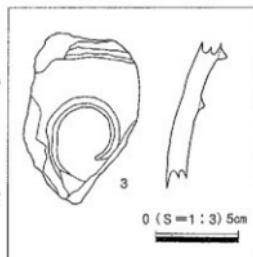
弥生時代中期の遺物（第19図～第22図）

壺形土器（No.41～No.76・No.194・No.195） いずれも口縁部を大きく外反させたもので、No.41～No.62は比較的大型のもので、口縁部端部は肥厚させ、No.50以外はその外面には口縁端部に凹線を施し、さらに刻目を施し、ボタン状・紐状の浮文（No.41・No.42・No.48・No.49・No.55・No.56・No.57）を付す。No.63・No.66は口縁部を上あるいは下方に伸ばし、前者は外面に凹線を施し、後者は格子文およびボタン状の浮文を施す。No.67～No.74は小型のもので、口縁部端部は肥厚させ、凹線・刻目・貝殻文を施す。No.67には指頭圧痕文を付す。No.76・No.194・No.195は無頸壺で、口縁部外面に突帯を施し、更にNo.194・No.195は、円孔を施す。

変形土器（No.77～No.96） No.78～No.85は頸部に指頭圧痕文を付すもので、口縁部端部はやや肥厚させ、外面には凹線或いは貝殻文を施す。No.86は口縁部をやや肥厚させ端部に貝殻文を施す。No.87～No.91は、口縁部を「くの字」に屈曲させたもので、No.87・No.90・No.91は口縁端部に刻目を施す。

鉢形土器（No.98） 口縁部外面に先刻を施す。

高坏（No.99～No.114） No.99～No.104は坏部で、口縁端部は平面を成し、No.104以外は刻みを施す。No.105～No.114は脚部である。No.104とNo.105は同一固体である。



第16図 出土遺物実測図 1

弥生時代後期の遺物（第23図・第24図）

壺形土器（No.115～No.120） No.115・No.116は口縁端部を上部に立ち上げ、No.117～No.120は上下に短く肥厚させ、No.121は複合口縁を呈する。口縁端部外面には数条の凹線を施す。

壺形土器（No.121～No.147） No.122～No.124は口縁端部を上部に短く、No.125は上下に長く、No.126～No.133は上下に短くそれぞれ肥厚させる。No.134～No.137は口縁端部を短く立ち上げる。その外面には数条の凹線を施す。

弥生時代末～古墳時代以降の遺物

土師器（第26図・第28図～第40図・第42図～第46図・第48図・第50図～第52図）

第26図はB区及びB・C間水路、第28図～第40図はC区、第40図はC・D区間溝、第42図～第46図はD区、第48図・第50図はE区、第50図はF区・G区、第51図は南水路、第51図・第52図は北水路から検出された遺物である。

壺形土器 口縁部の形態から次のように分類した。

A 複合口縁を呈し大きく「八」の字に広がる口縁部を呈するもの（No.158～No.173・No.358～No.363・No.432～No.439・No.468・No.479）

A-1 口縁端部は丸くおさめるもの No.158・No.160・No.169・No.173・No.358・No.360・No.361・No.433～No.439・No.468

A-2 面取りを施すもの No.159・No.161～No.167・No.170～No.172・No.359・No.362・No.363・No.432・No.479

また、No.171・No.172・No.173・No.363は頸部、No.360・No.362（同類のものとしてNo.174）は肩部にそれぞれ綾杉文を施したもののが見られる。またNo.174・No.362は頸部と肩部の境に突帯をめぐらしている。

B 複合口縁を呈し短く立ち上がる口縁部を呈するもの（No.176～No.182・No.366・No.480） 口縁部は直立或いはやや内傾し、その端部は丸くおさめるものが多い。No.176～No.178以外は複合口縁がほとんど退化している。

C 直口壺（No.183～No.188・No.367・No.368・No.369・No.440・No.469）

C-1 「逆八の字」にやや広がる口縁部を呈するもの No.183～No.188・No.367・No.440・No.469、端部は丸くおさめるか面取りを施している。No.186は口縁端部を面取りの後沈線を施し、肩部には綾杉文を施している。No.188はほぼ直口に近い口縁部を呈する。

C-2 外反する口縁部を呈するもの No.368・No.369

C-3 複合口縁を呈するもの No.469

D 小型壺（No.189～No.193・No.196・No.369・No.370・No.371・No.372・No.441・No.481） No.189は直口壺で肩部に波状文を施す。No.190・No.193・No.371・No.372・No.441は「くの字」に屈曲し短い口縁部を呈する。No.191・No.192は「逆八の字」に開く口縁部を呈する。No.369・No.370は複合口縁の様相を呈する。

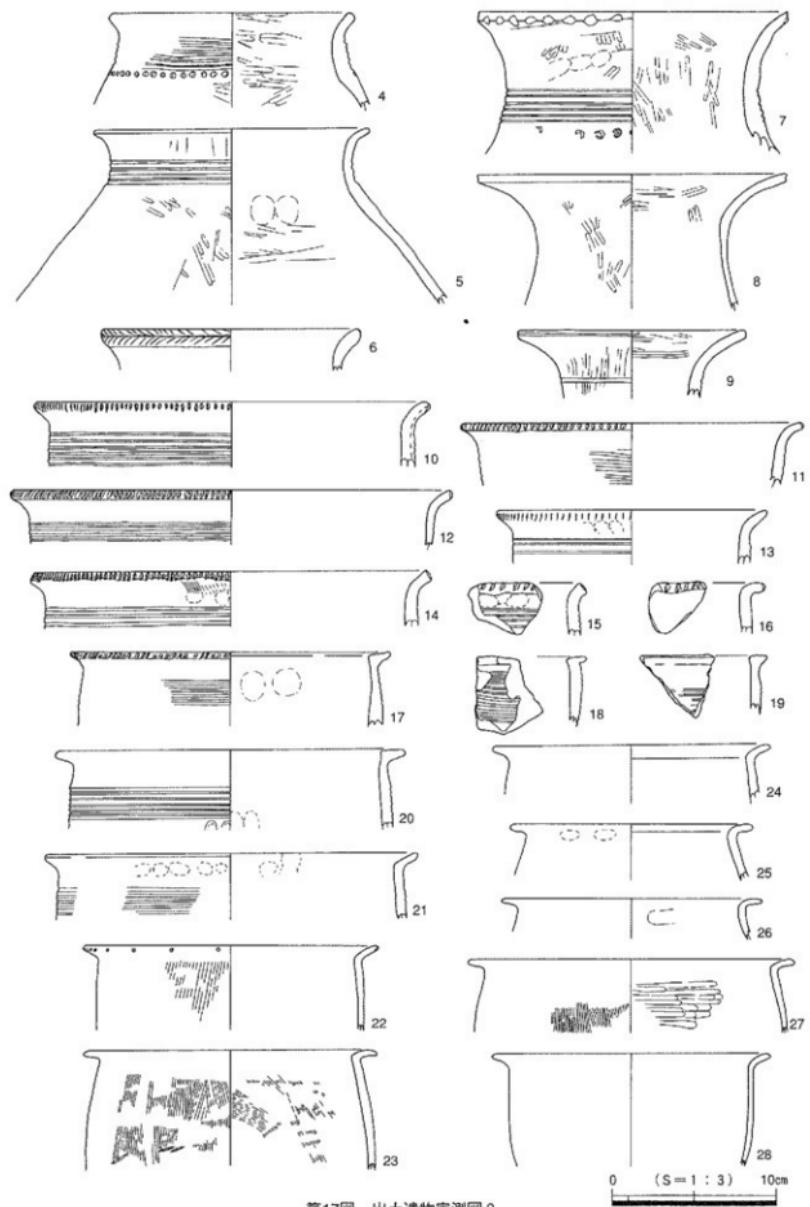
F 注口土器（No.349・No.373） いずれも注口部分である。

壺形土器 口縁部形態から次のように分類した。

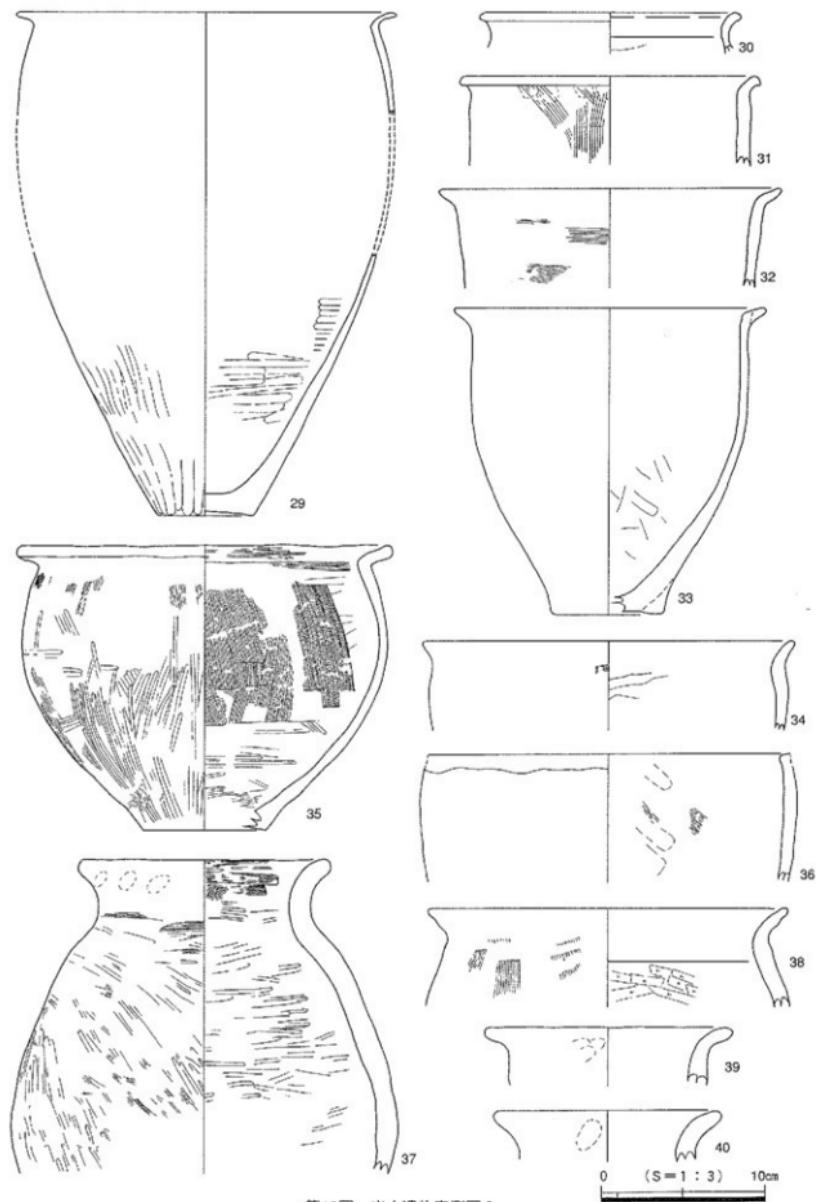
A 複合口縁を呈し「八」の字に広がる口縁部を呈するもの

A-1 口縁端部は丸くおさめるもの No.148～No.151・No.200～No.232・No.352～No.354・No.374～No.380・No.422・No.442～No.447・No.461・No.462・No.470・No.471・No.482～No.486

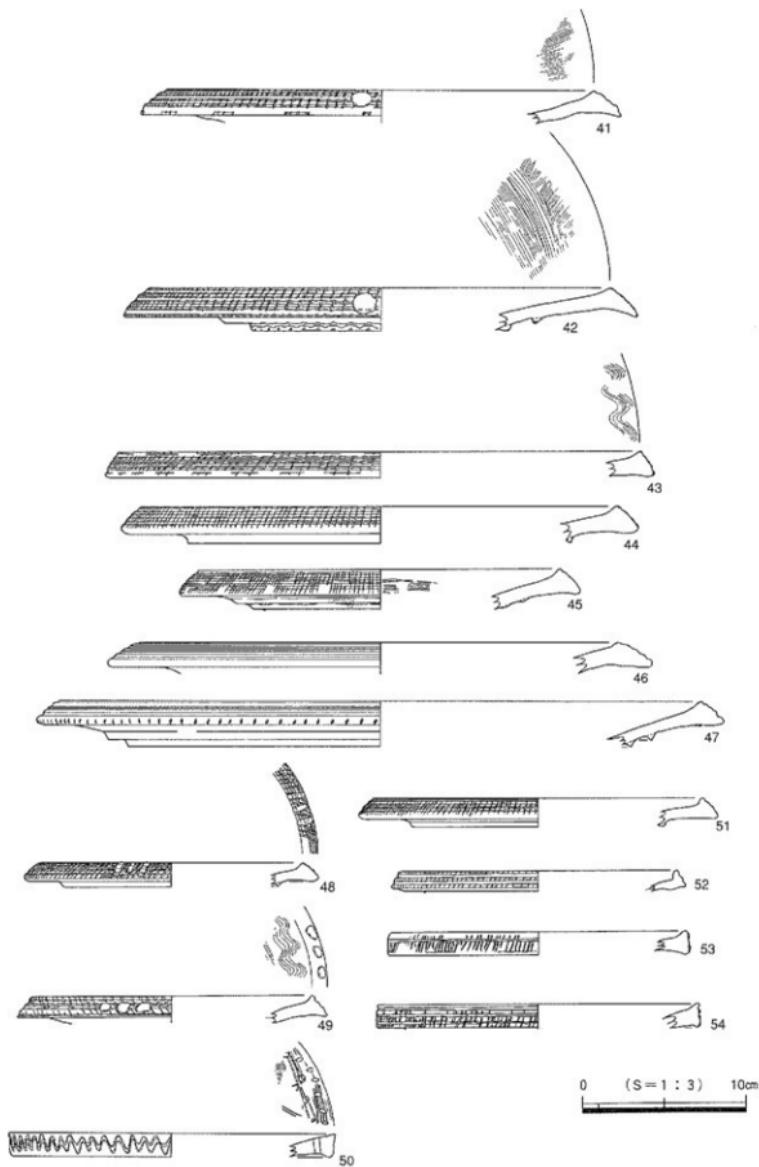
- A-2 面取りを施すもの No155・No233～No292・No381～No397・No423・No463・No472～No474・No487～No490
- B 複合口縁を呈し直立あるいは内傾して立ち上がる口縁部を呈するもの
- B-1 立ち上がりの長いものNo152・No293～No305・No398～No403・No424・No464・No475・No476・No491
- B-2 立ち上がりの短いものNo306～No312・No404～No408・No425・No448～No451・No477
- C 頸部が「くの字」に屈曲するもの No153・No317～No327・No355・No409～No413・No426・No197～No199・No370は壺或いは甕の底部である。
- 高坏** No328～No330・No356・No414・No415は坏部で口縁部は大きく開く。No331～No334・No416・No455・No492・No493は脚部である。
- 低脚坏** No335は坏部、No336～No339は脚部である。
- 器台** (No340～No346・No419・No420・No453・No454・No465～No467・No478) いずれも鼓形器台で、器高は低く筒部の短いものである。
- 坏** (No347・No417・No427) No427は底部に回転糸切りがみられる。
- その他** No156・No157・No459・No460は甑型土器の取手、No348は壺の取手、No350・No351・No421・No429・No431・No457手づくね土器、No430はミニチュア土器、P1・P2・P3は土錘、P4は紡錘車である。
- 須恵器** (第53図) No495～No50・No508・No509は坏蓋で、No508は擬宝珠のつまみ、No509は環状つまみである。No501～No507・No510は坏身でNo501・No502はかえりの付くもの、No505～No507は底部に回転糸切り痕が残る。No511は小型椀、No512は小型壺の口縁部、No513は甕の口縁部、No514・No515は横瓶の口縁部である。
- 瓦質土器** (第53図) No516・No517は擂鉢、No518は高台付坏である。
- 石器** (第54図・第55図) S 1～S 4は石斧で、S 1は無斑晶安山岩製の打製・S 2・S 3は磨製で前者は緑色片岩製で、赤色顔料が付着し、後者は安山岩製である。S 4は安山岩製の環状のものである。S 5は花崗斑岩製の砥石、S 6は安山岩製の石錘、S 7は用途不明で安山岩製である。S 8は砂岩製の石皿、S 9・S 10は敲き石で前者は花崗岩製、後者は安山岩製である。S 11・S 12は黒耀石製の錐である。S 13は斑晶安山岩製の石鎌である。
- 木製品** (第56図・第57図) W 9は三角板の側板、W10・W11建築材の一部と思われる。W12・W13・W20は用途不明。W15・W16は漆器の椀、W17・W18は曲物の底、W19は下駄の歯である。
- 銅錢** (第57図・P 5) E区南側壁面精査中検出。「祥符元寶」大中祥符年間(貞宗1008～1017年)に鑄工された北宋錢である。



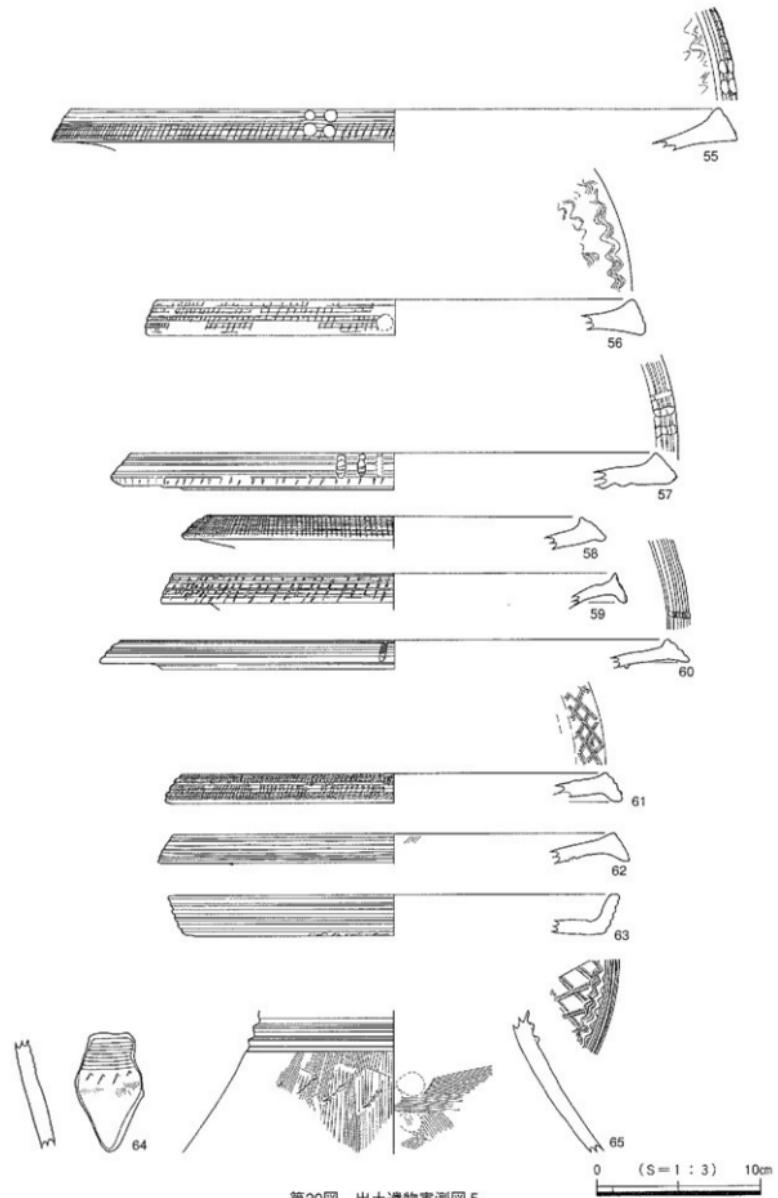
第17図 出土遺物実測図2



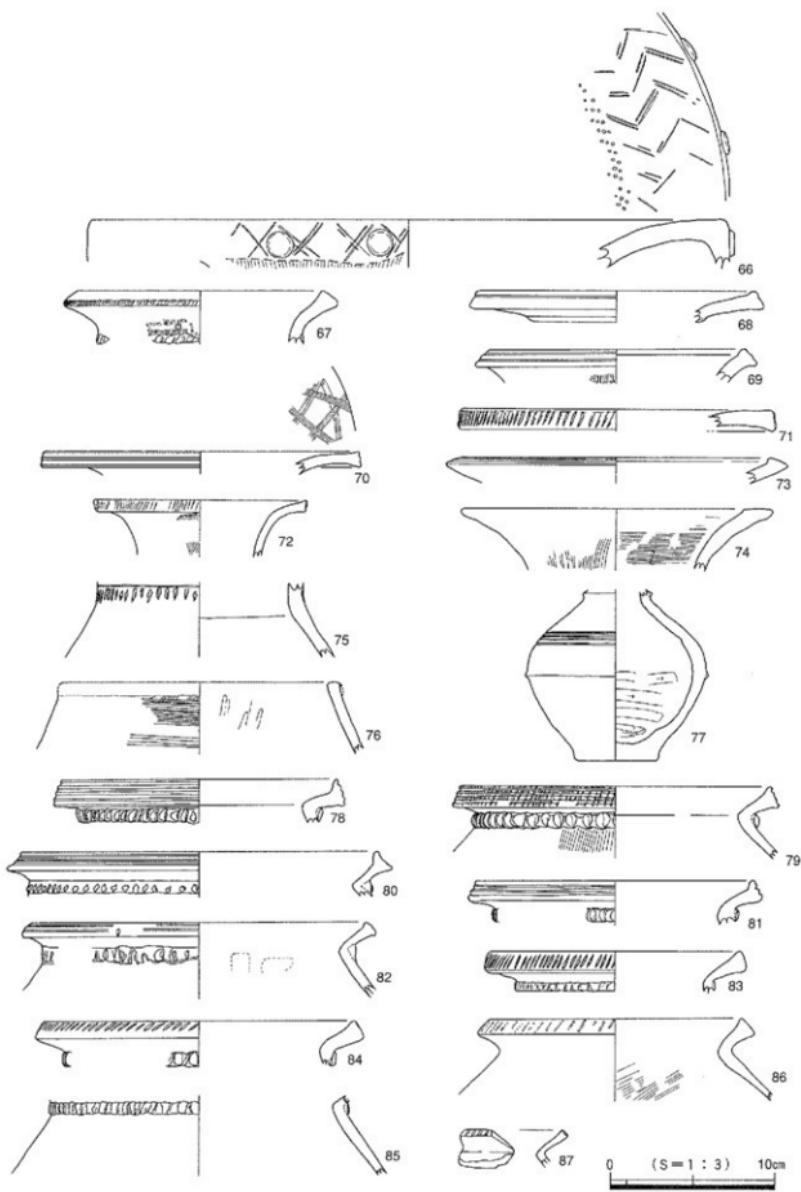
第18図 出土遺物実測図 3



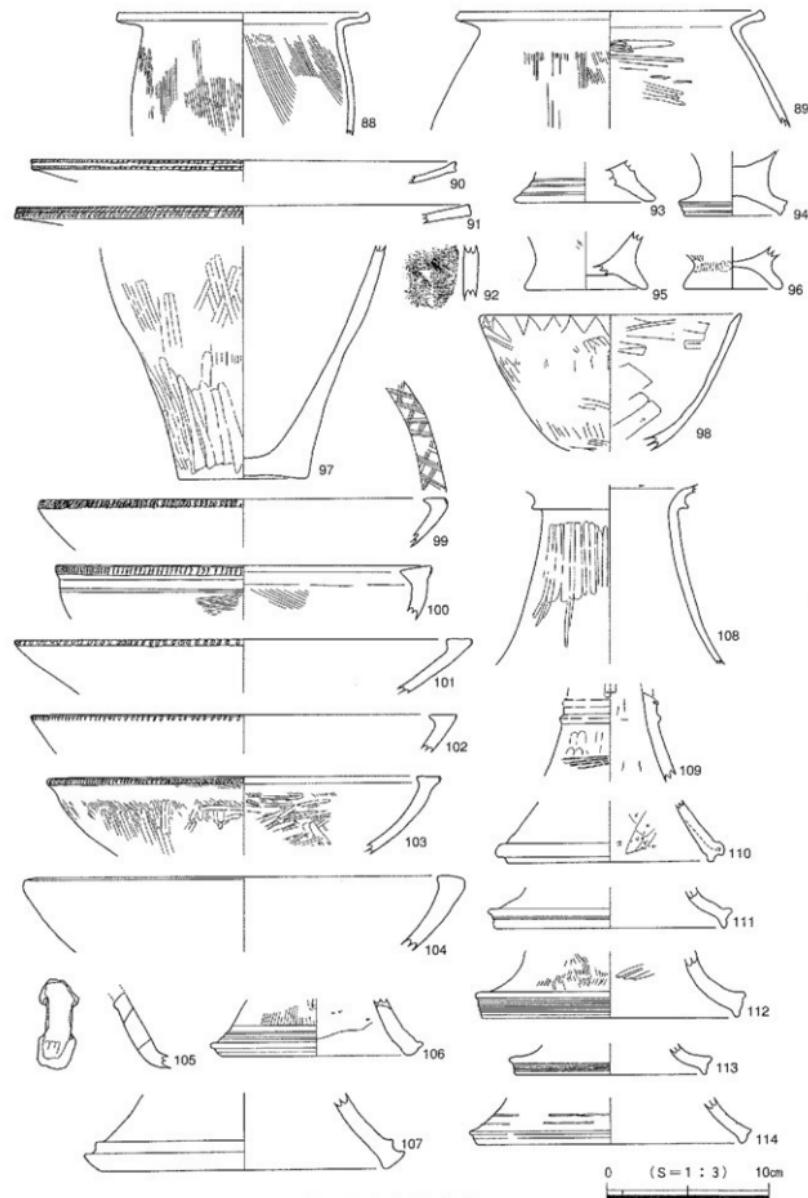
第19図 出土遺物実測図 4



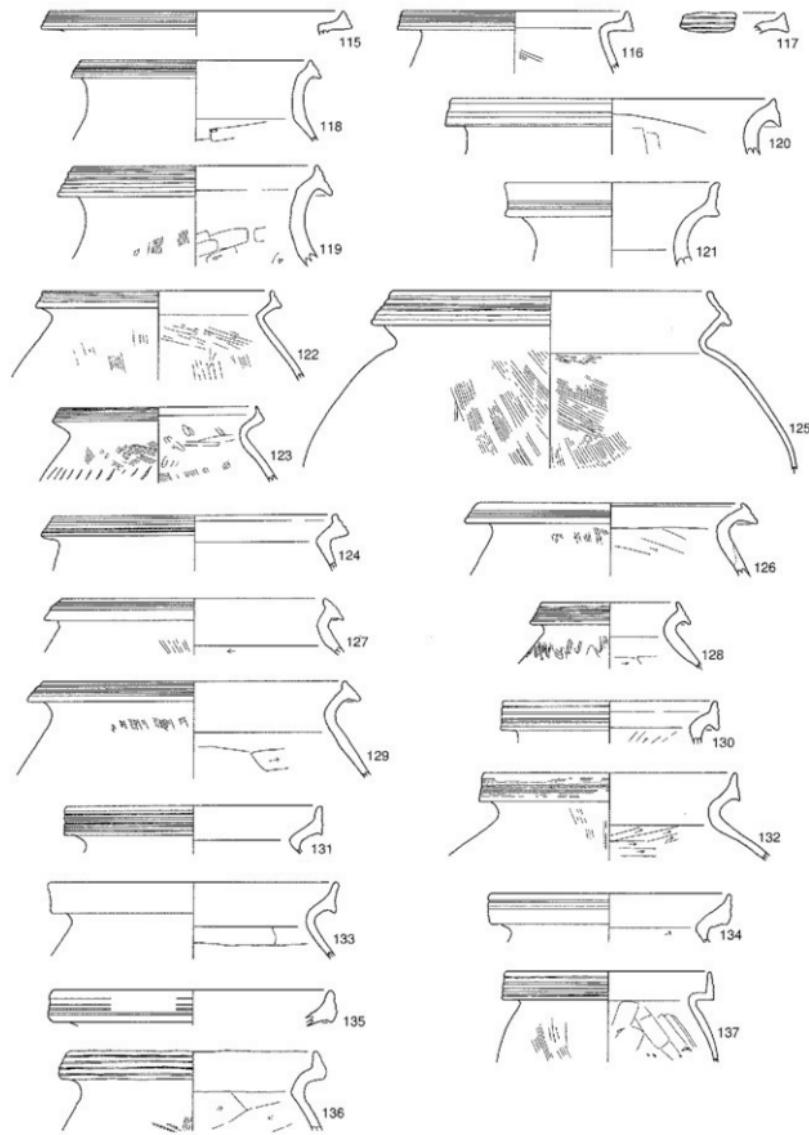
第20図 出土遺物実測図 5



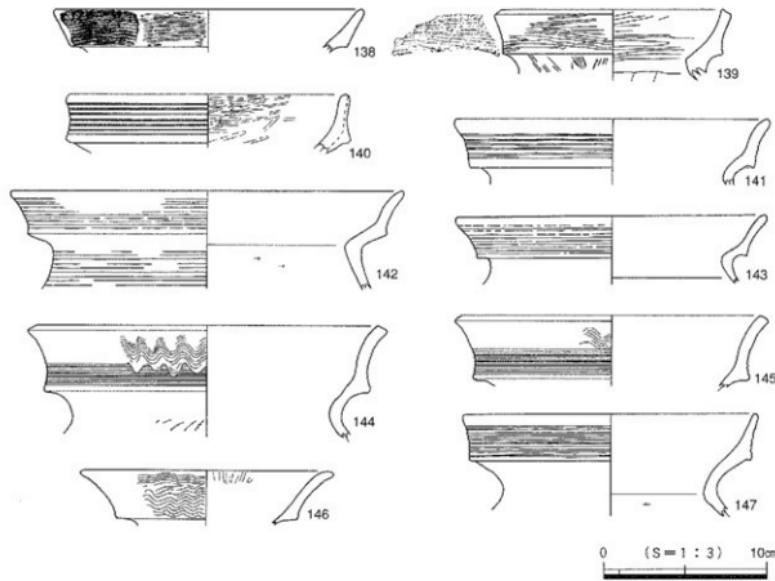
第21図 出土遺物実測図 6



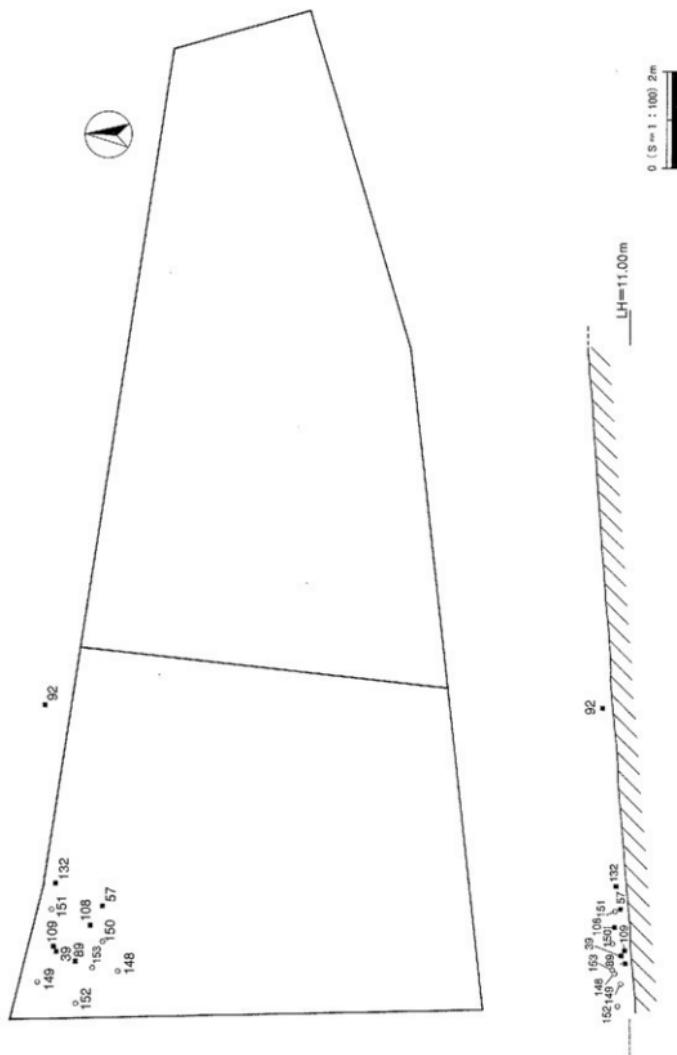
第22図 出土遺物実測図 7



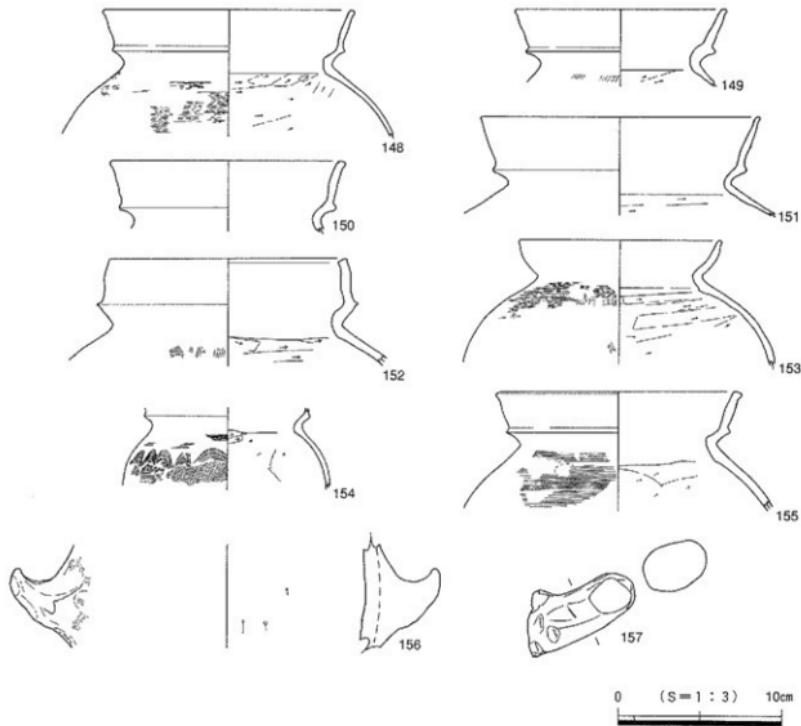
第23図 出土遺物実測図 8



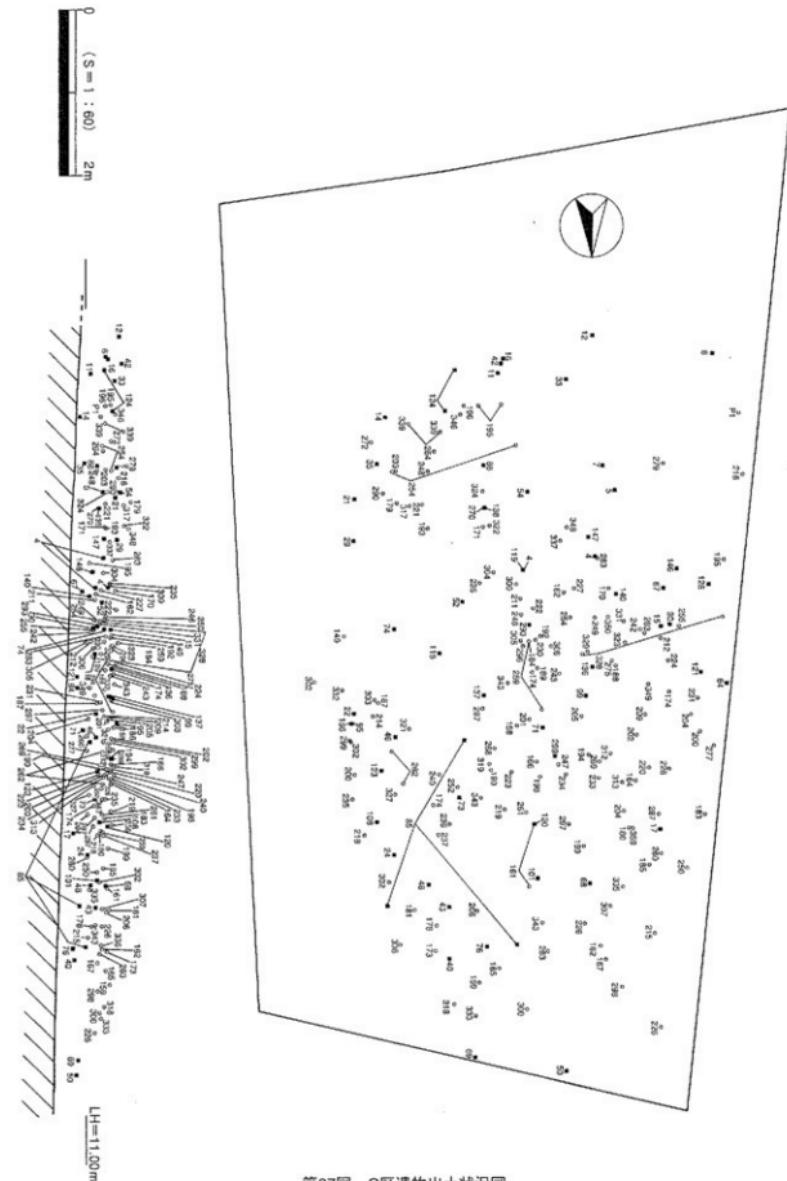
第24図 出土遺物実測図 9



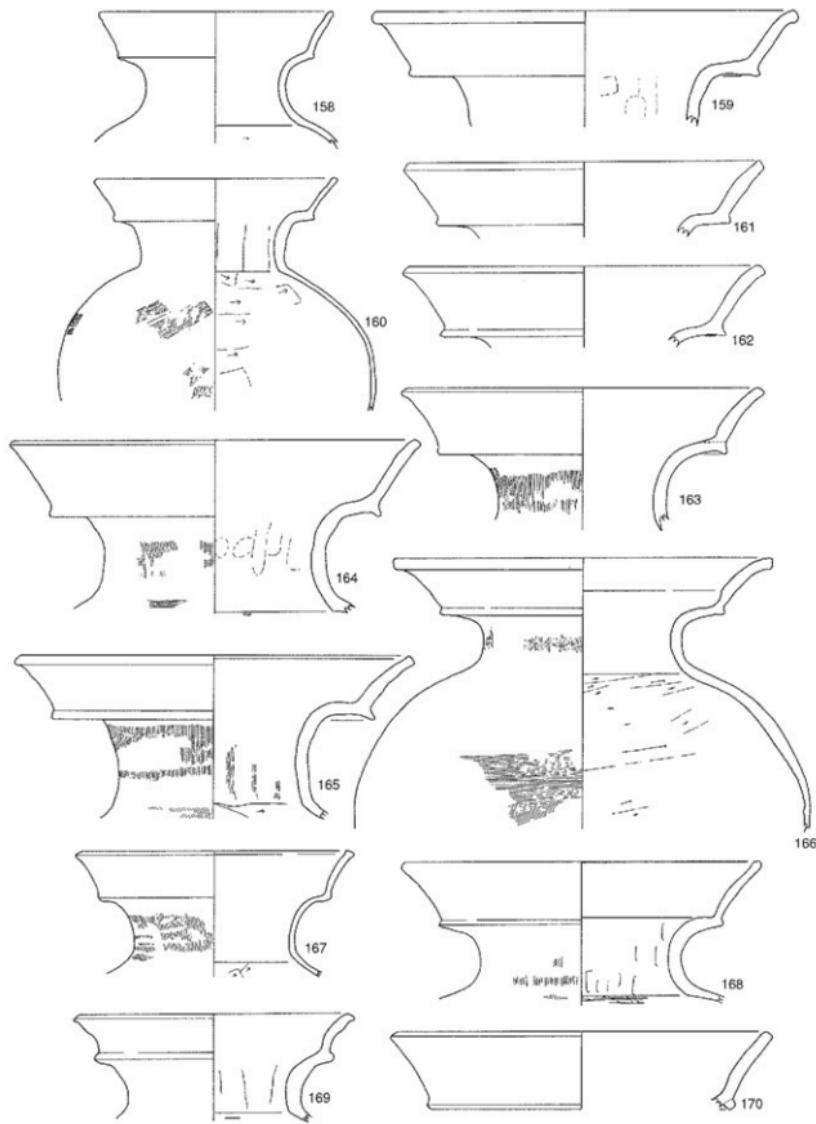
第25図 A区・B区遺跡出土状況図



第26図 出土遺物実測図10 (B区・BC間溝)

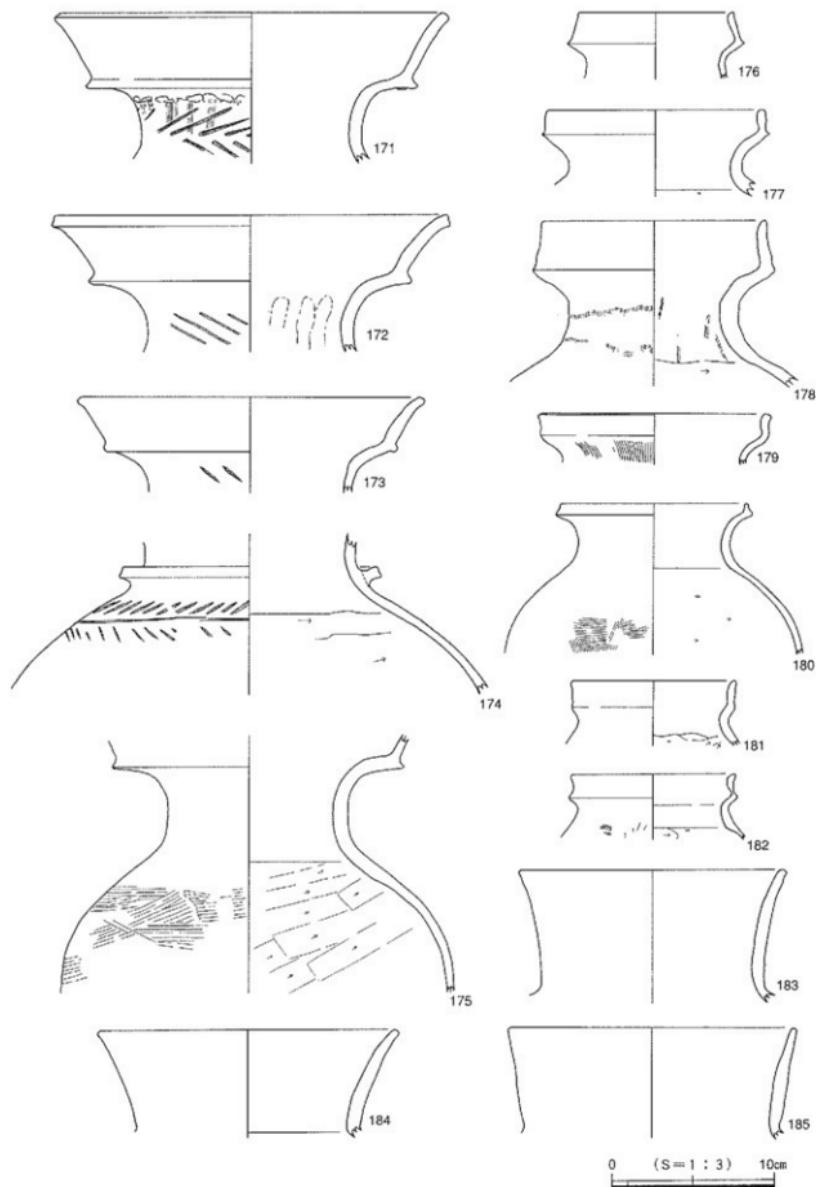


第27図 C区遺物出土状況図

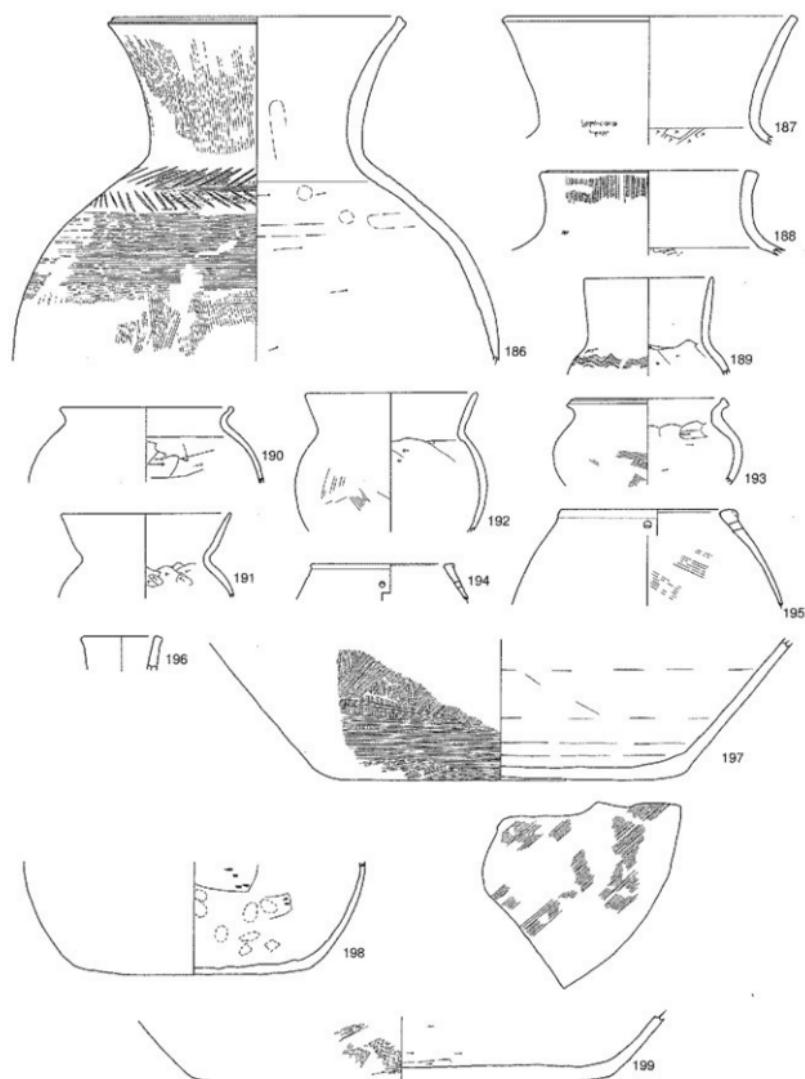


第28図 出土遺物実測図11 (C区)

0 (S = 1 : 3) 10cm

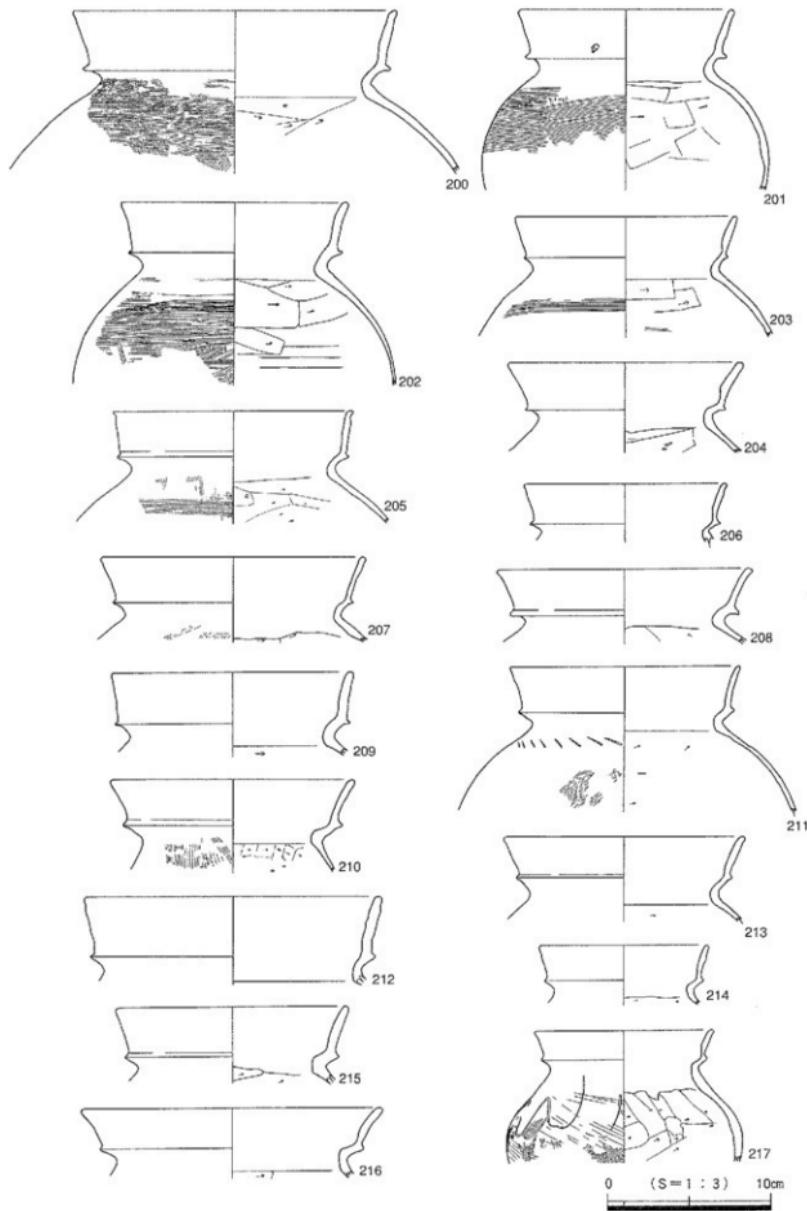


第29図 出土遺物実測図12 (C区)

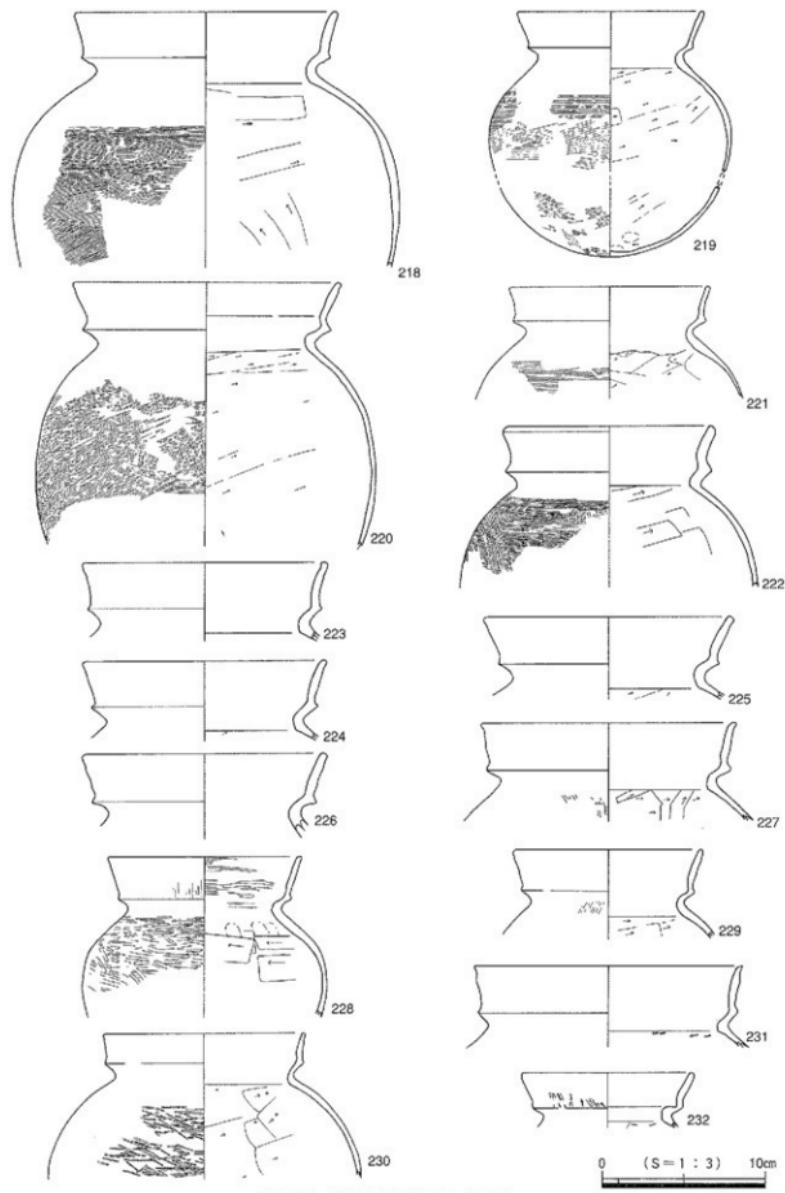


0 (S = 1 : 3) 10cm

第30図 出土遺物実測図13 (C区)

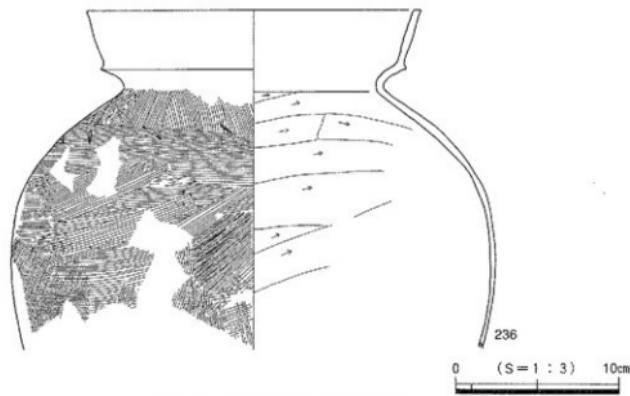
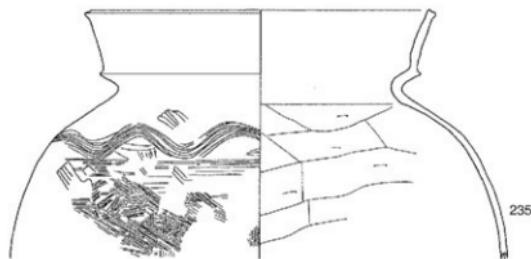
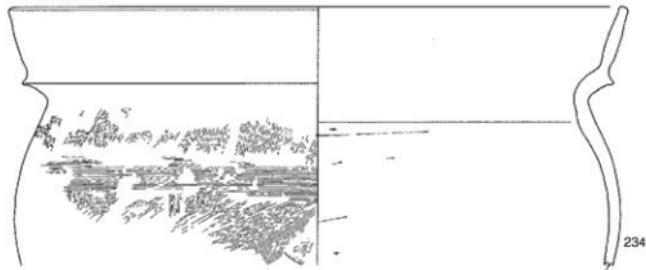
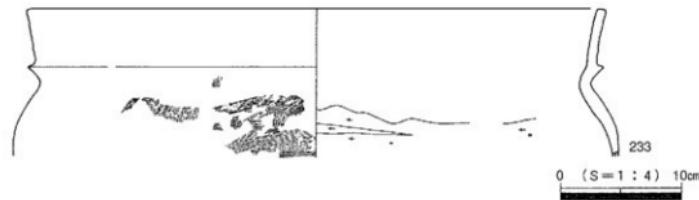


第31図 出土遺物実測図14（C区）

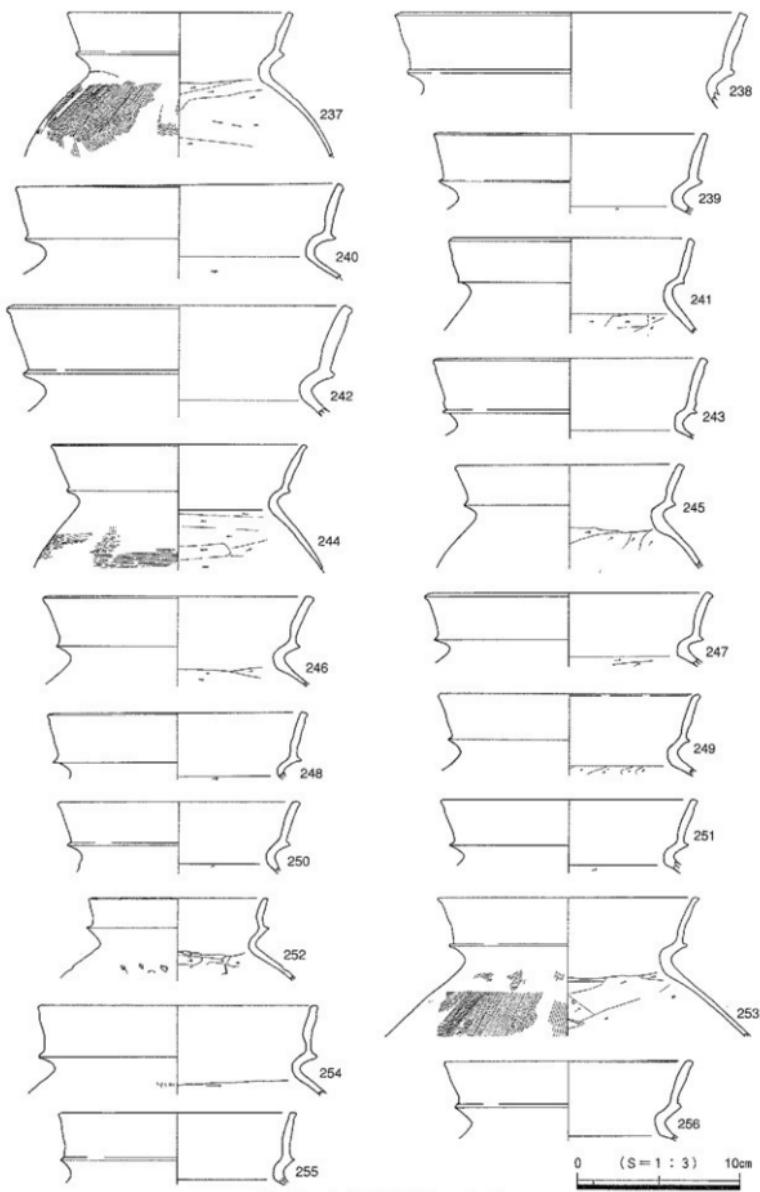


第32図 出土遺物実測図15（C区）

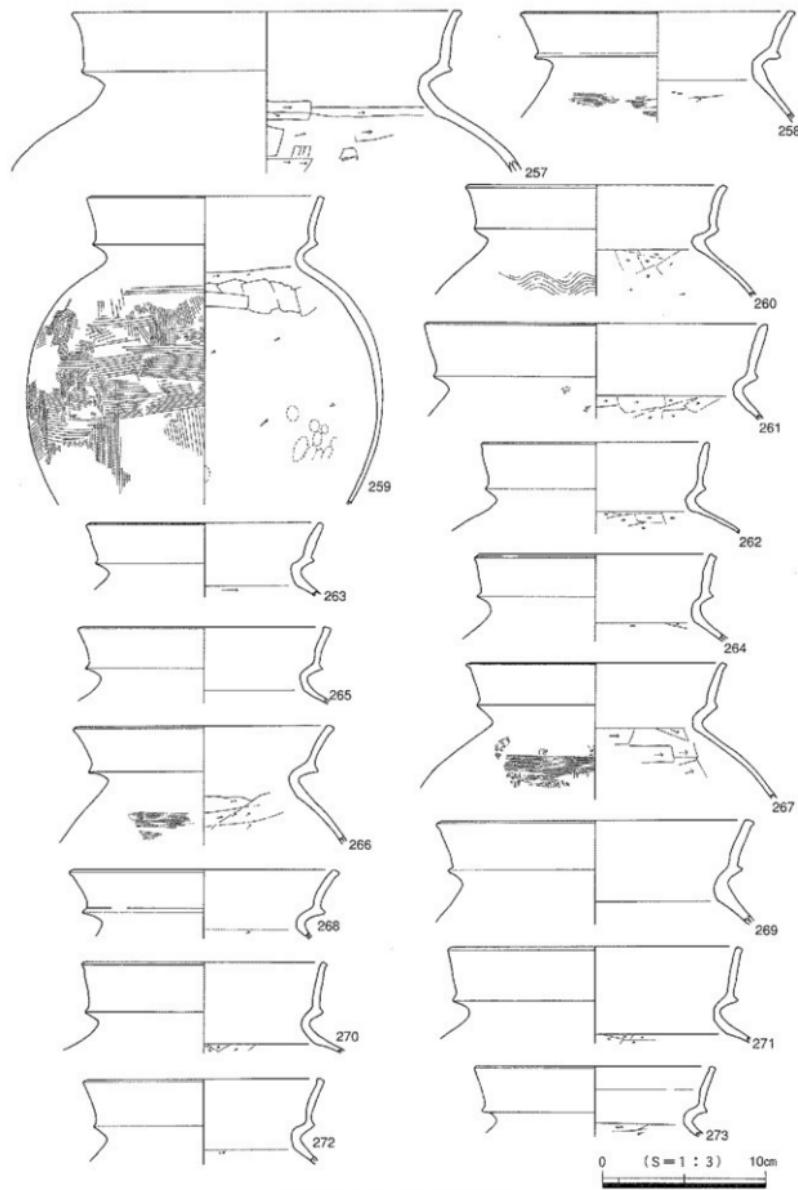
0 (S = 1 : 3) 10cm



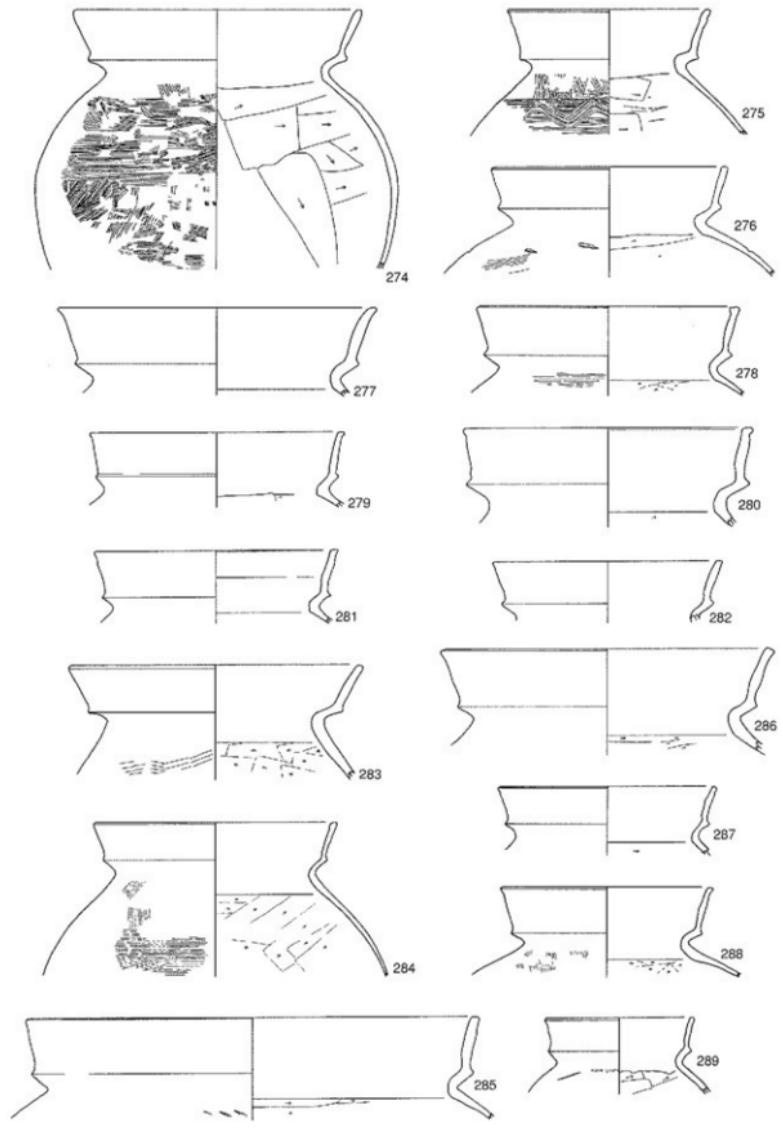
第33図 出土遺物実測図16（C区）



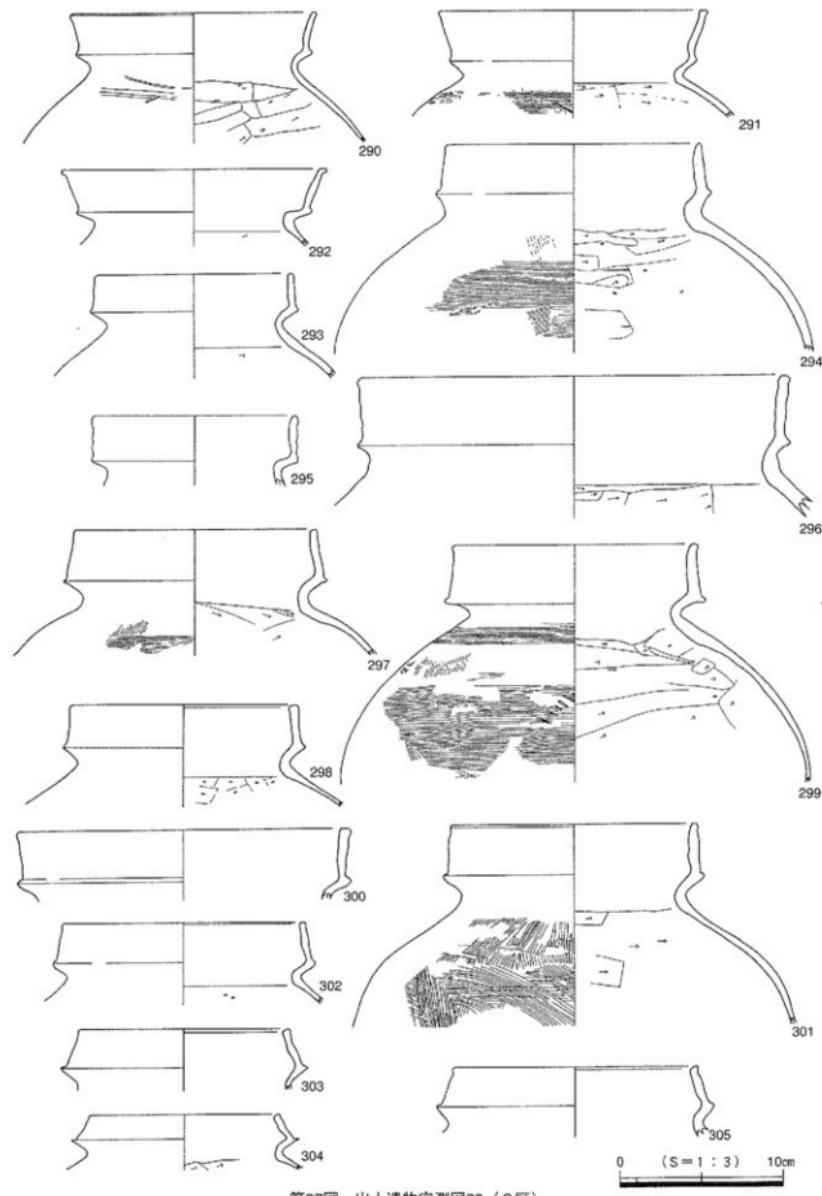
第34図 出土遺物実測図17 (C区)



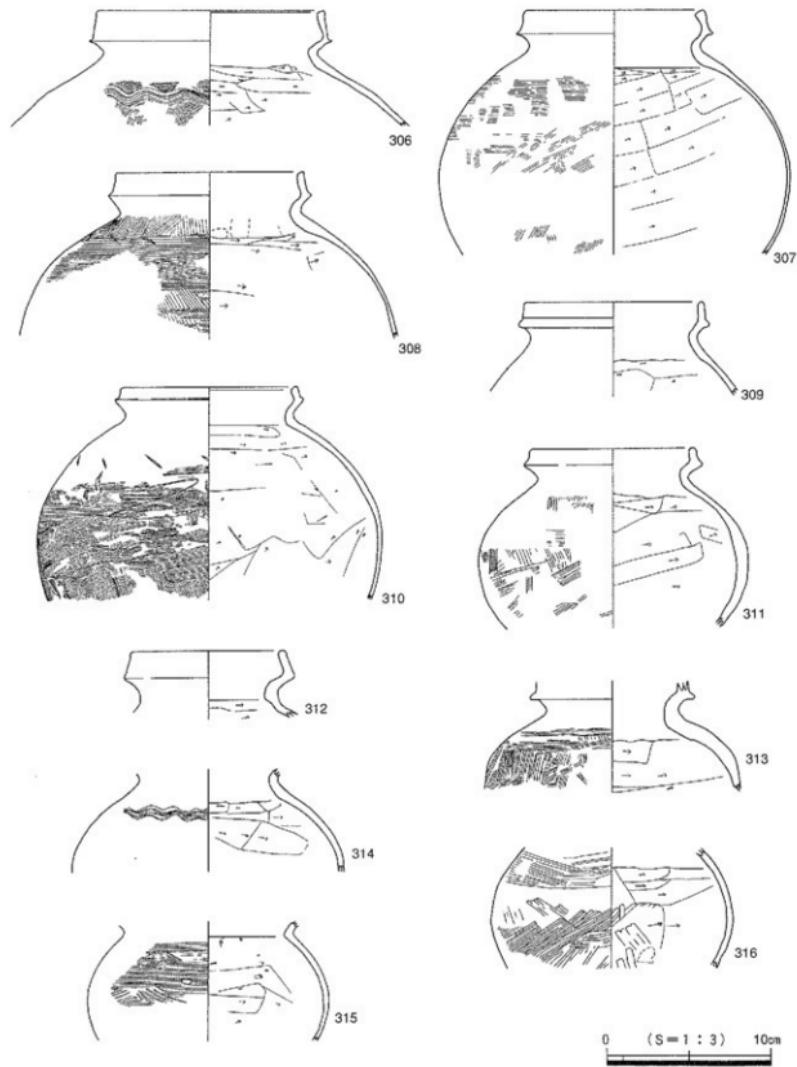
第35図 出土遺物実測図18 (C区)



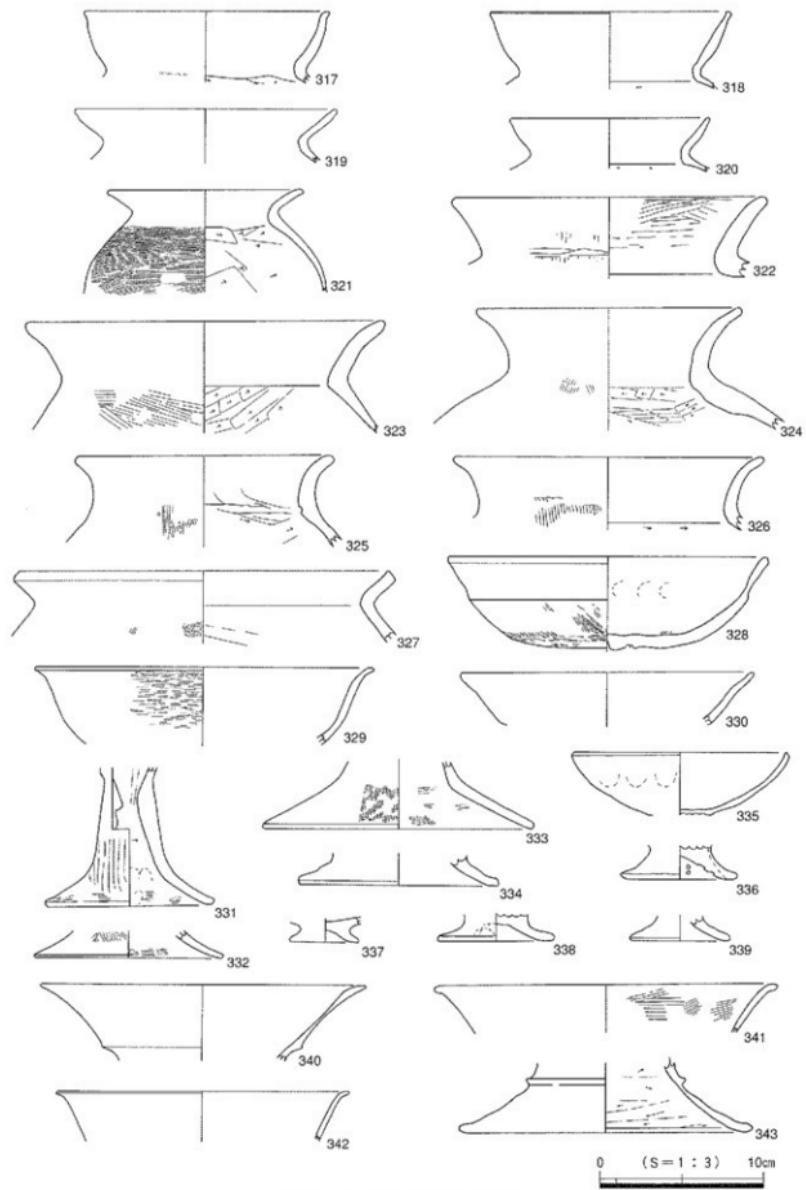
第36図 出土遺物実測図19 (C区)



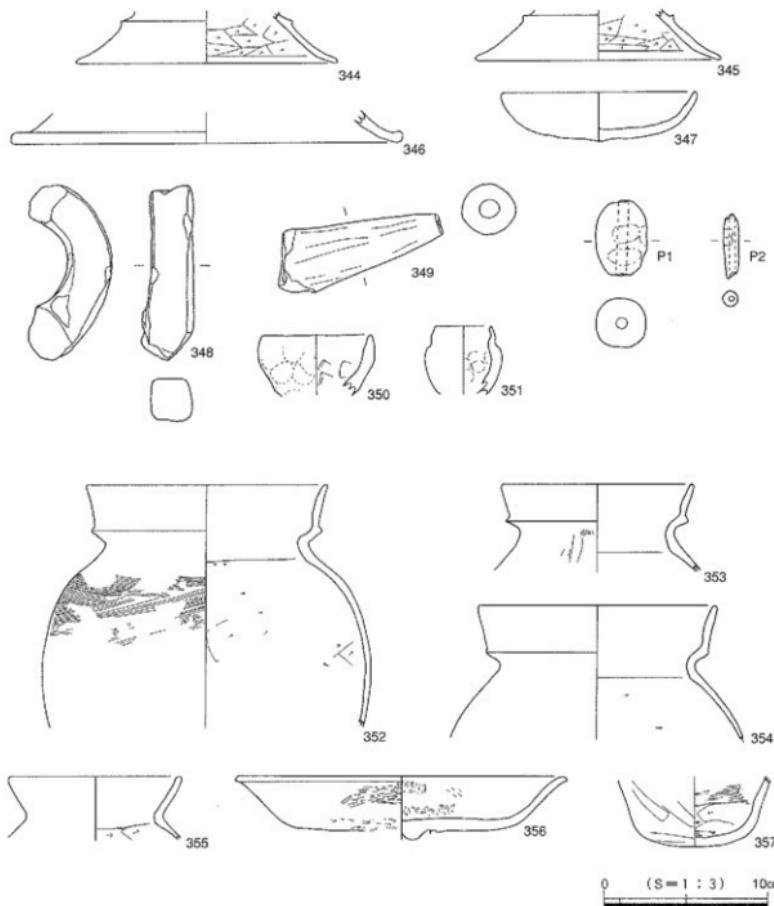
第37図 出土遺物実測図20 (C区)



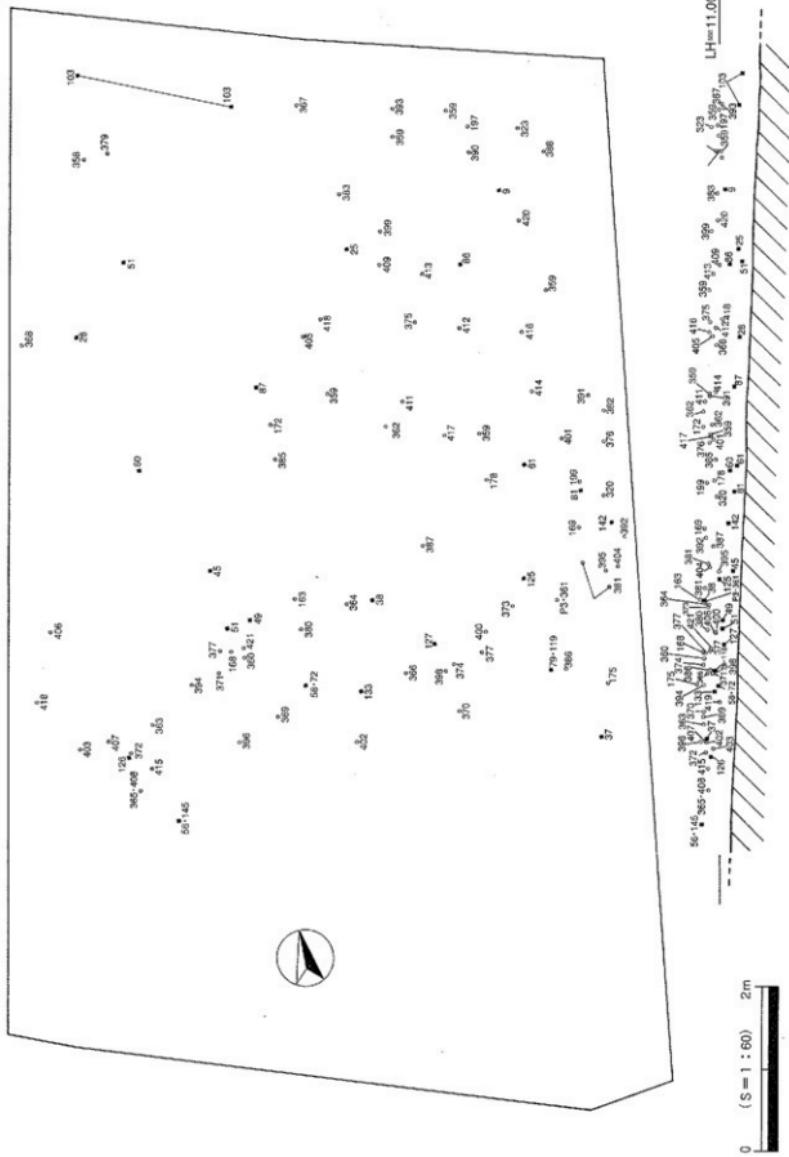
第38図 出土遺物実測図21 (C区)



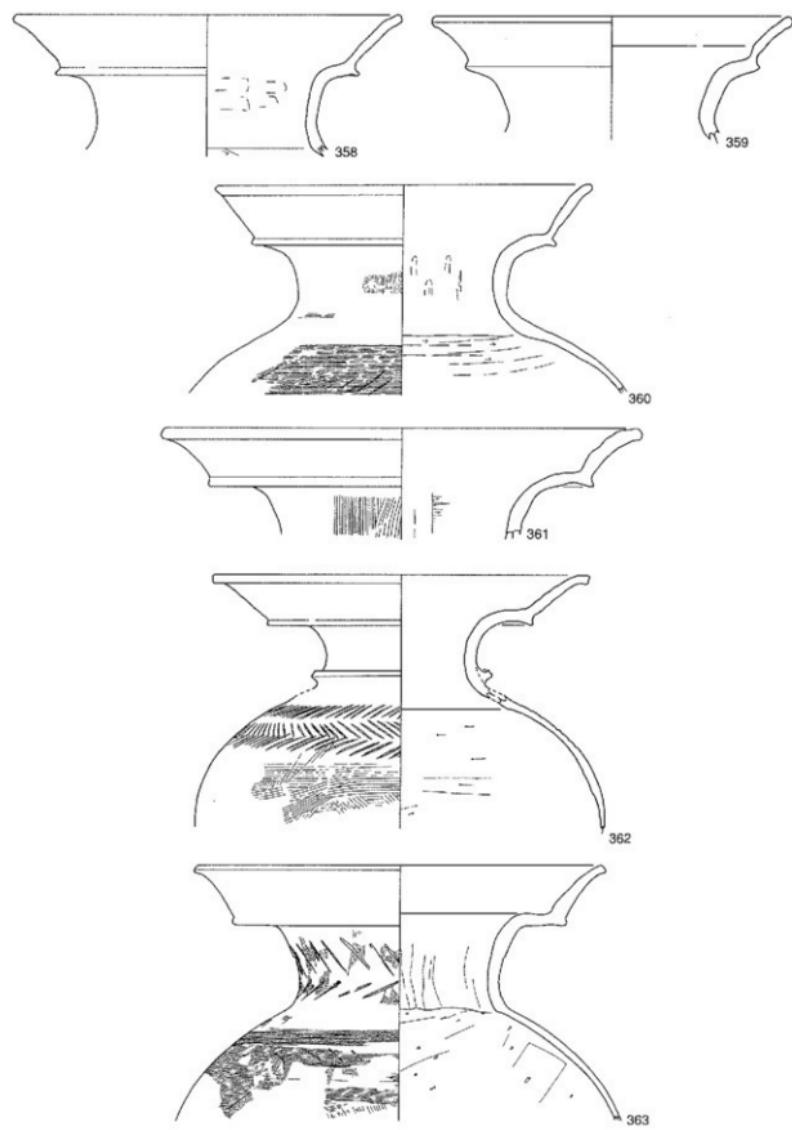
第39図 出土遺物実測図22 (C区)



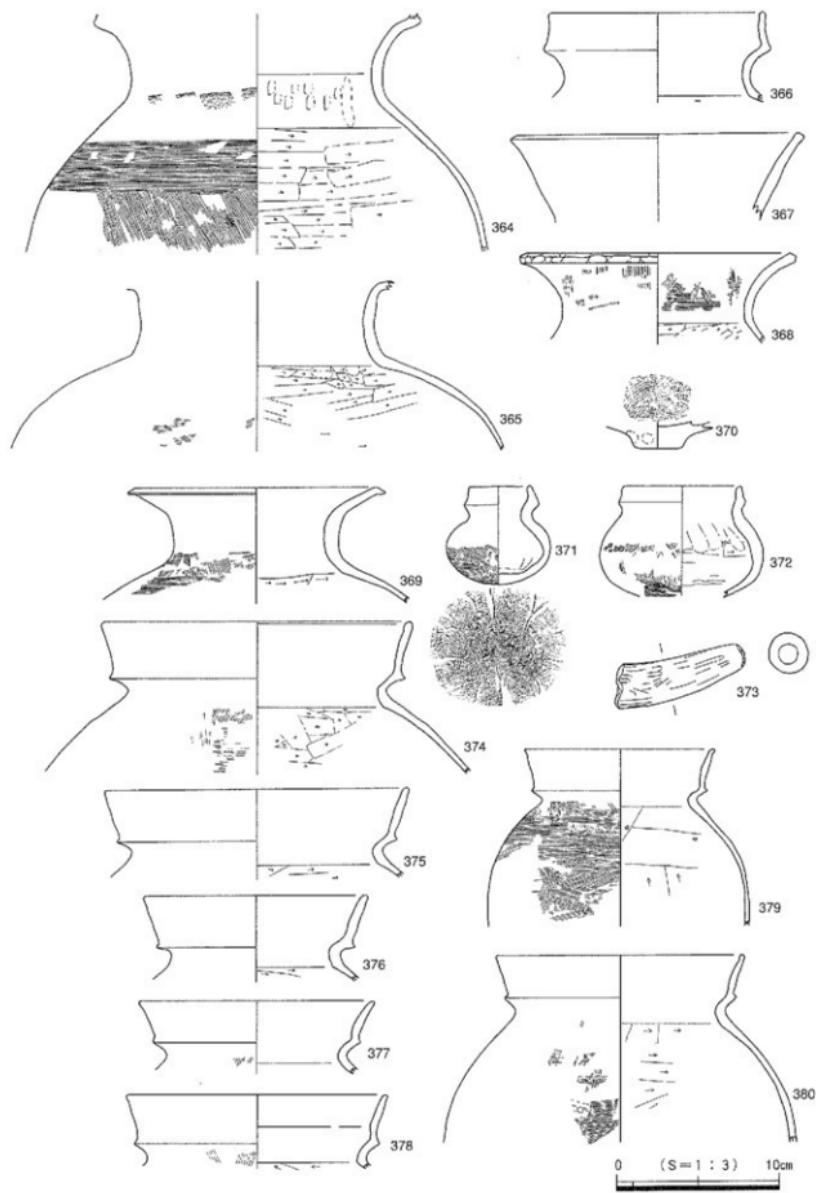
第40図 出土遺物実測図23 (C区/C・D間溝)



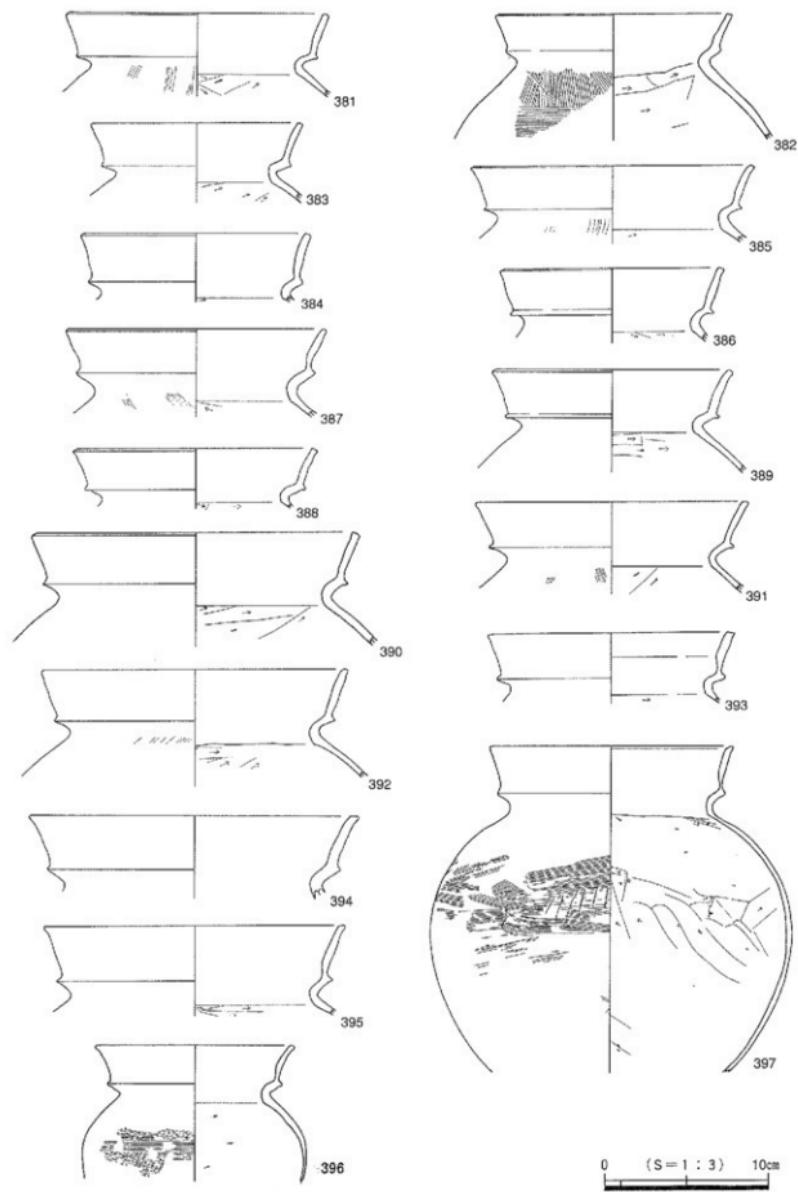
第41図 D区遺物出土状況図



第42図 出土遺物実測図24 (D区)

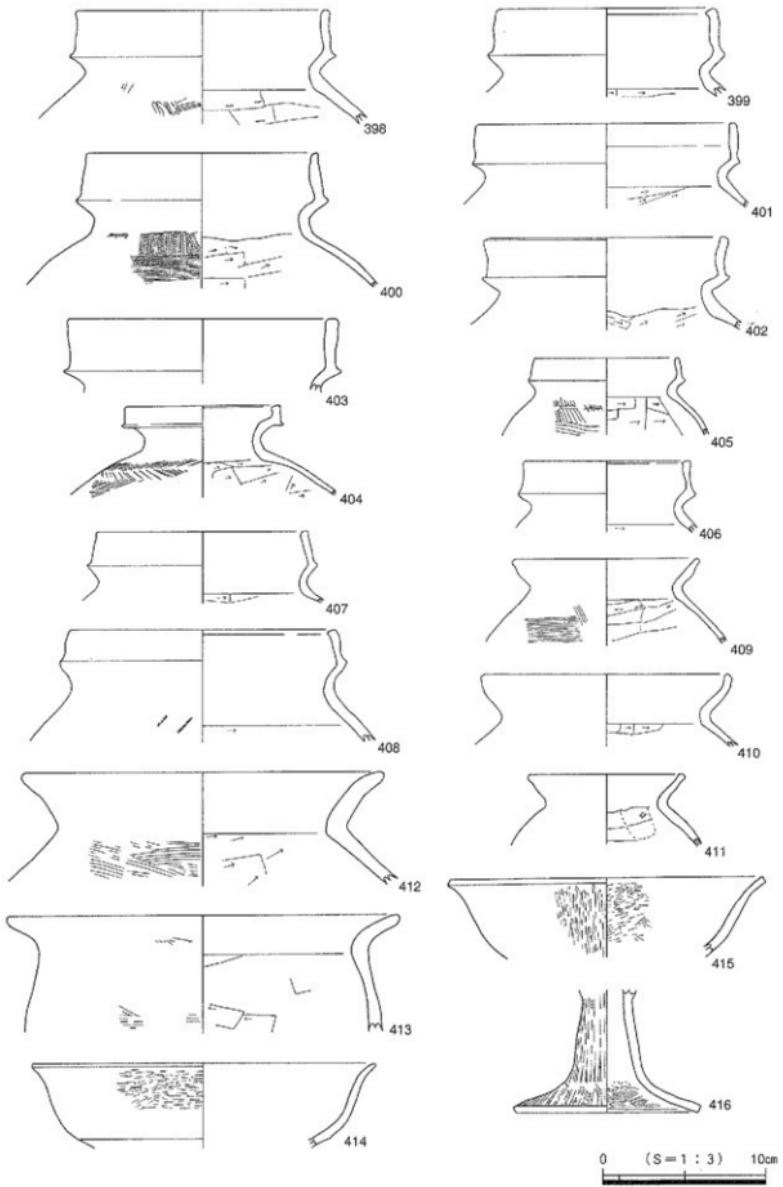


第43図 出土遺物実測図25 (D区)

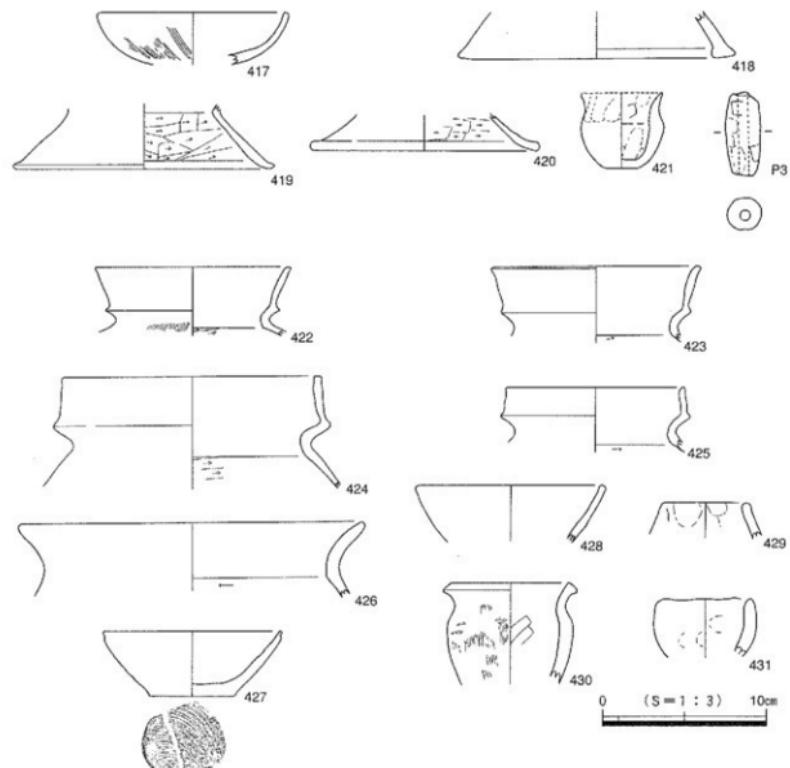


第44図 出土遺物実測図26 (D区)

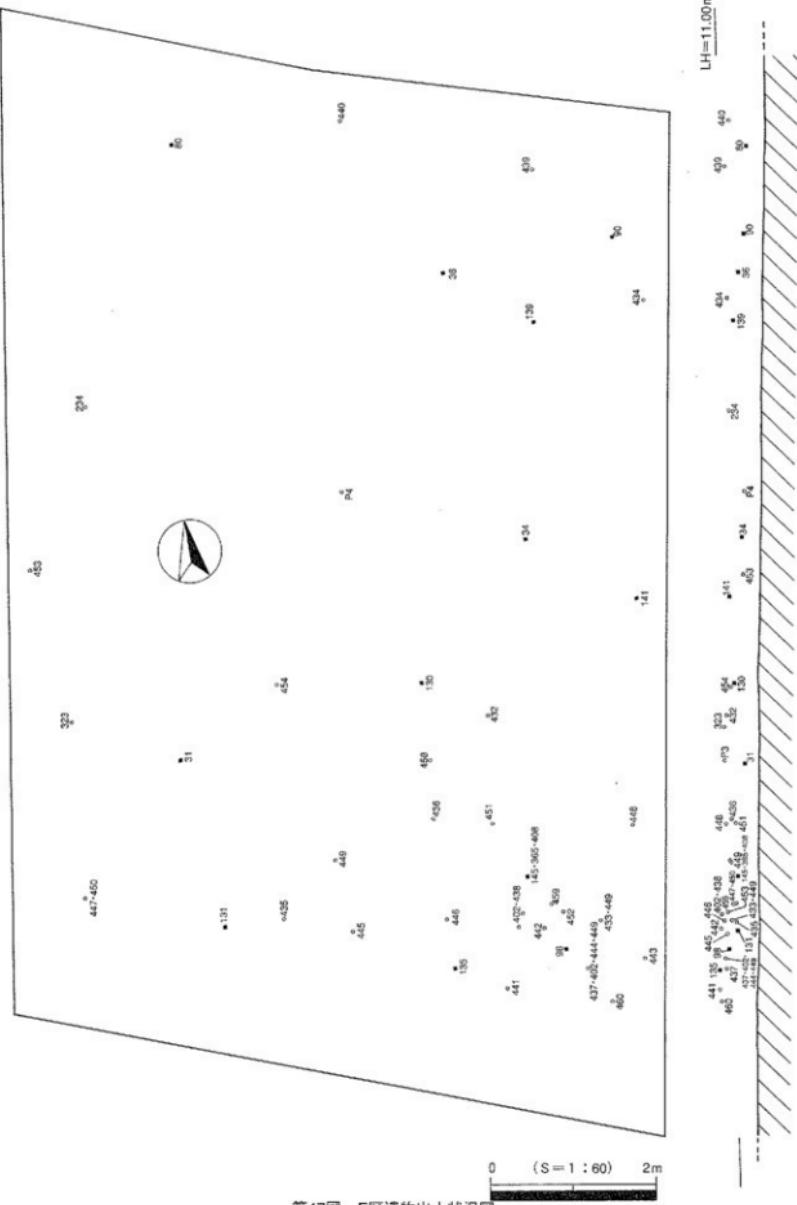
0 (S = 1 : 3) 10cm



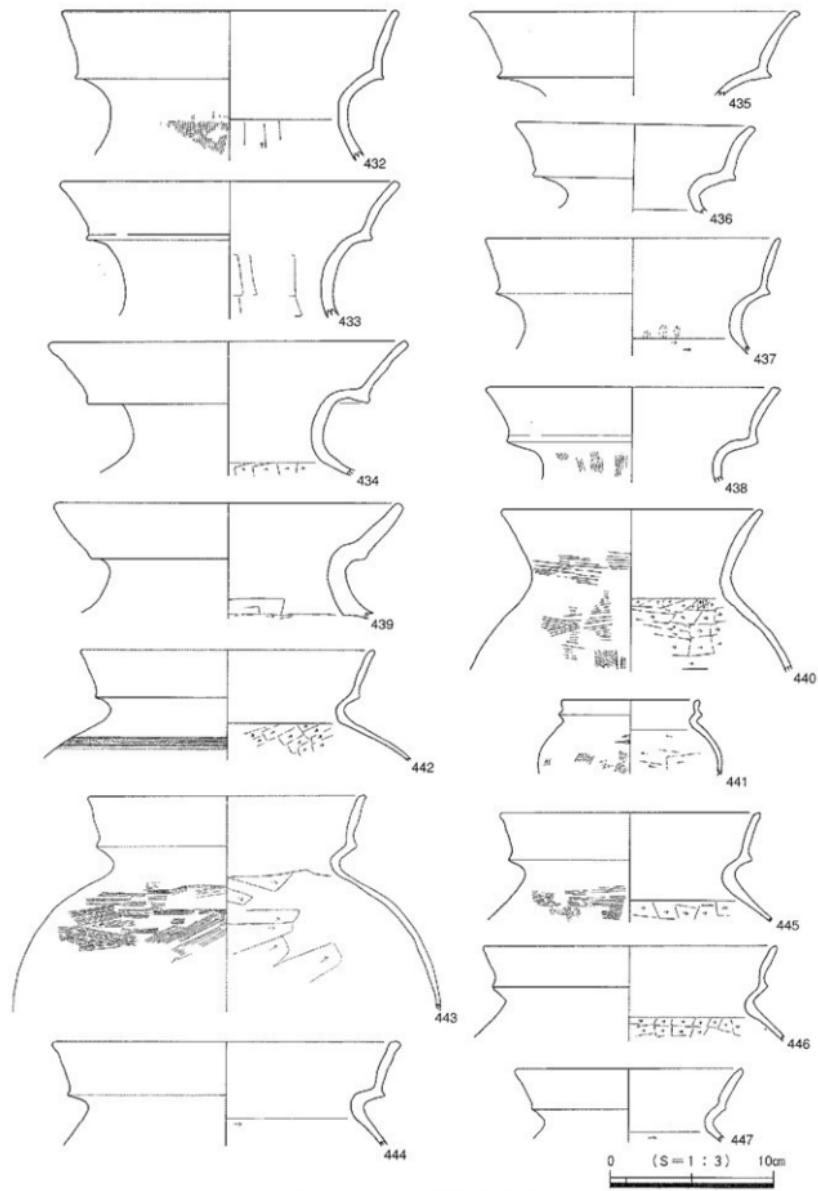
第45図 出土遺物実測図27（D区）



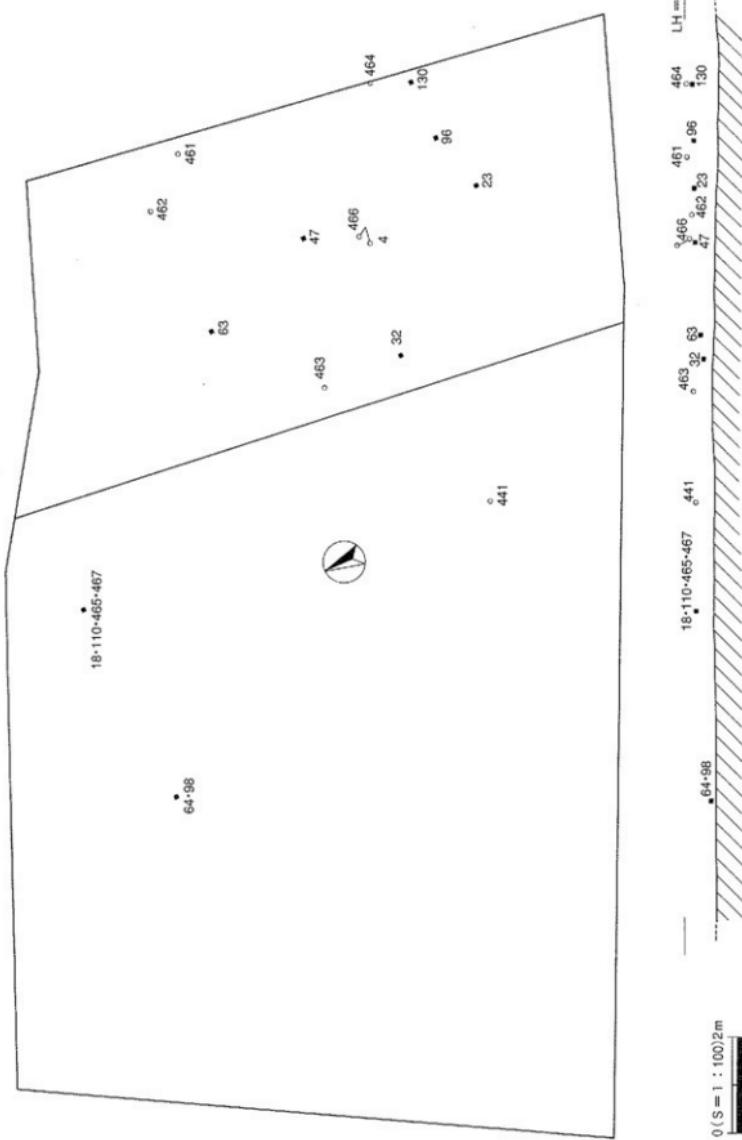
第46図 出土遺物実測図28（D区）



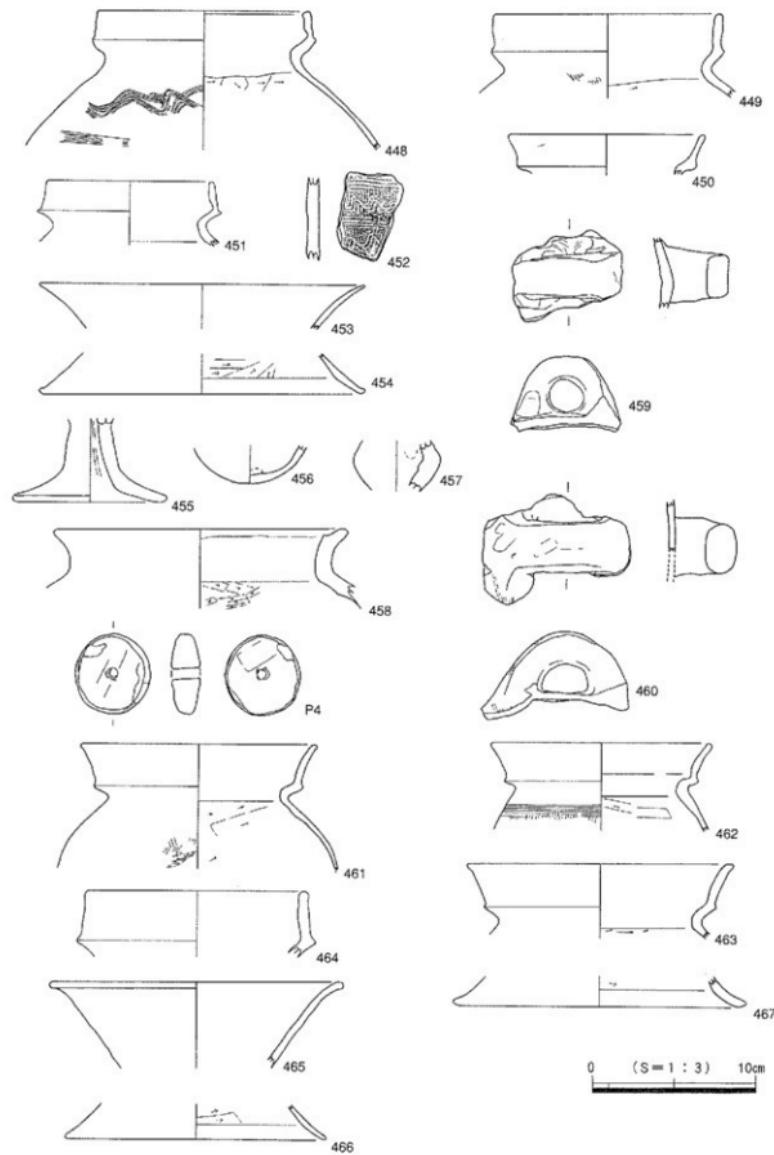
第47図 E区遺物出土状況図



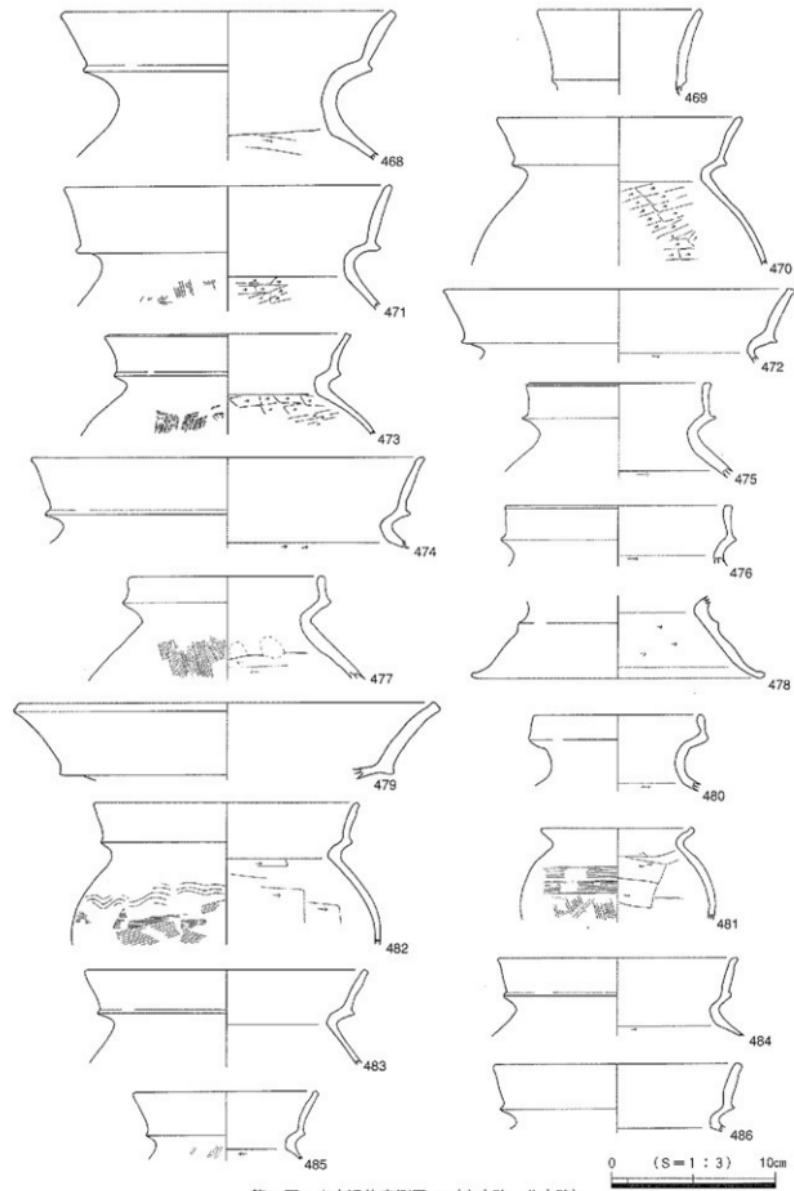
第48図 出土遺物実測図29（E区）



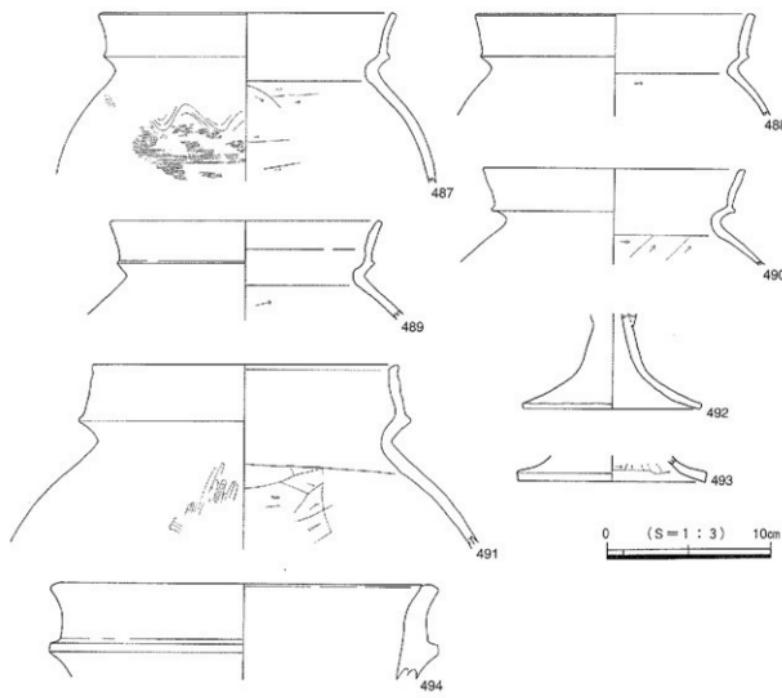
第49図 F区G区遺物出土状況図



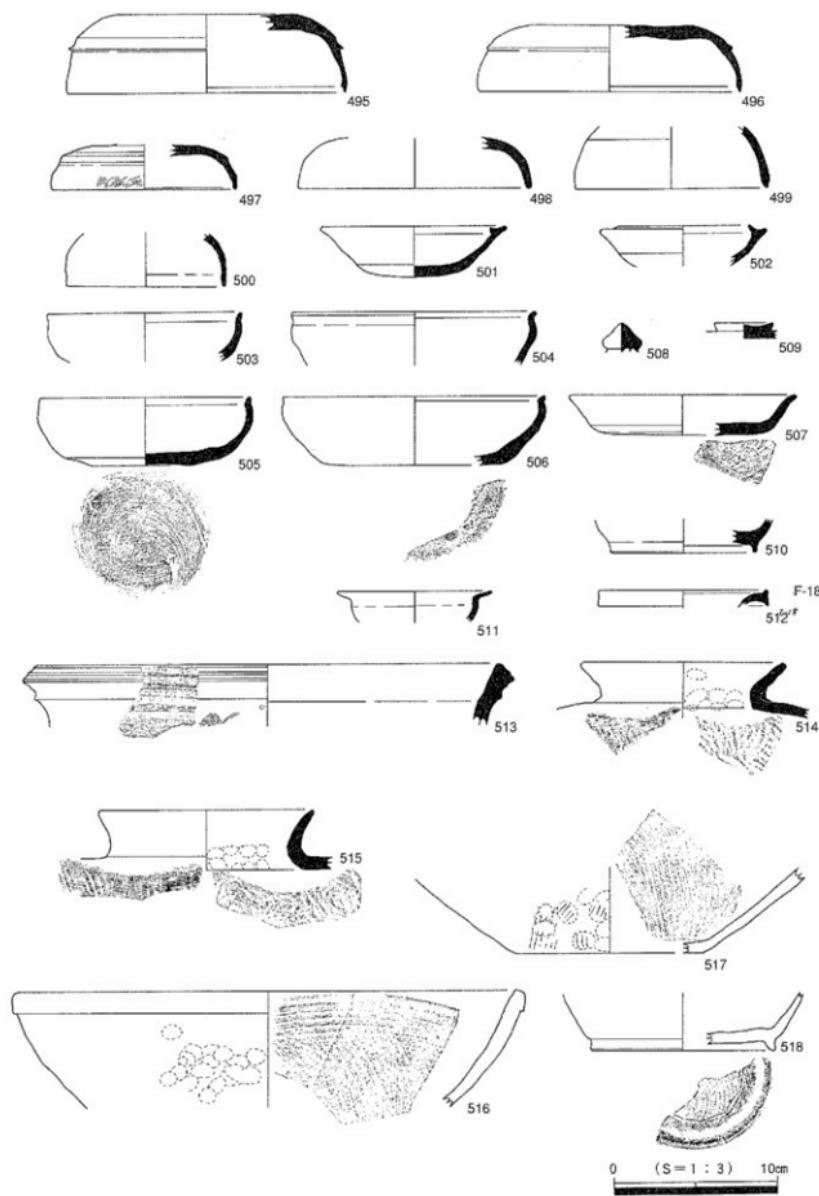
第50図 出土遺物実測図30 (E区・F区・G区)



第51図 出土遺物実測図31（南水路・北水路）



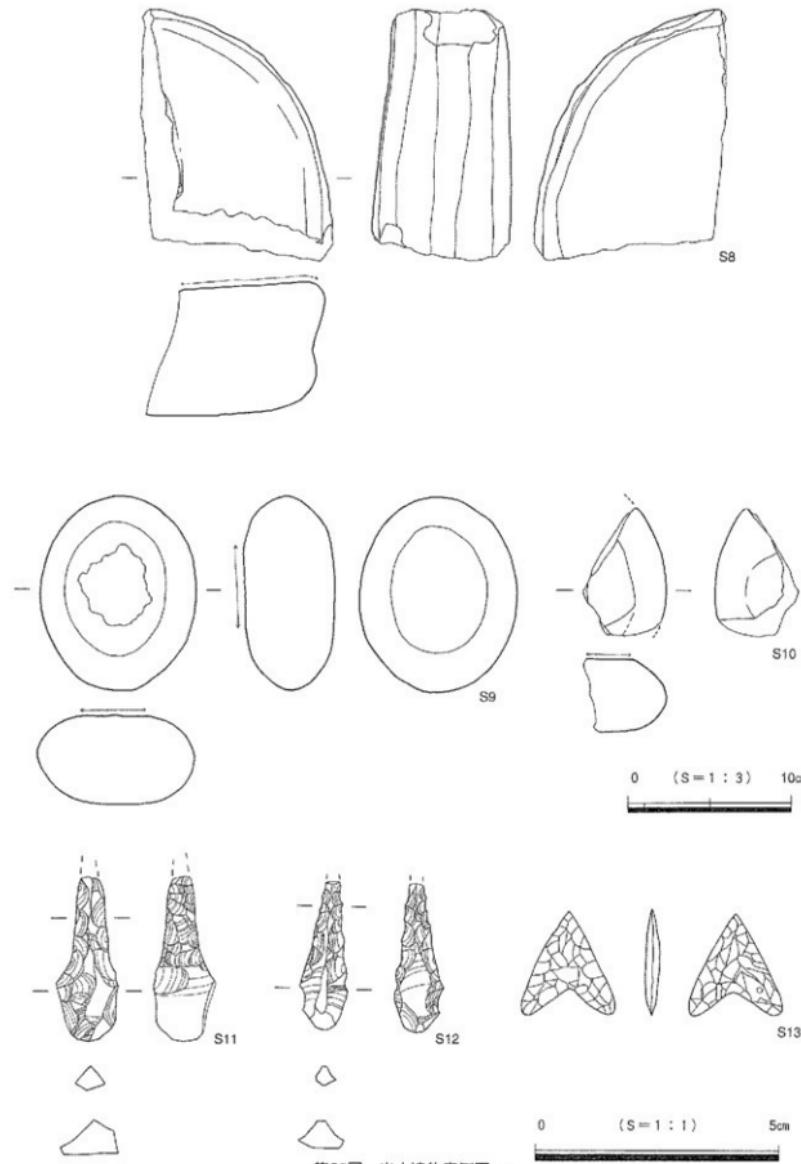
第52図 出土遺物実測図32（北水路）



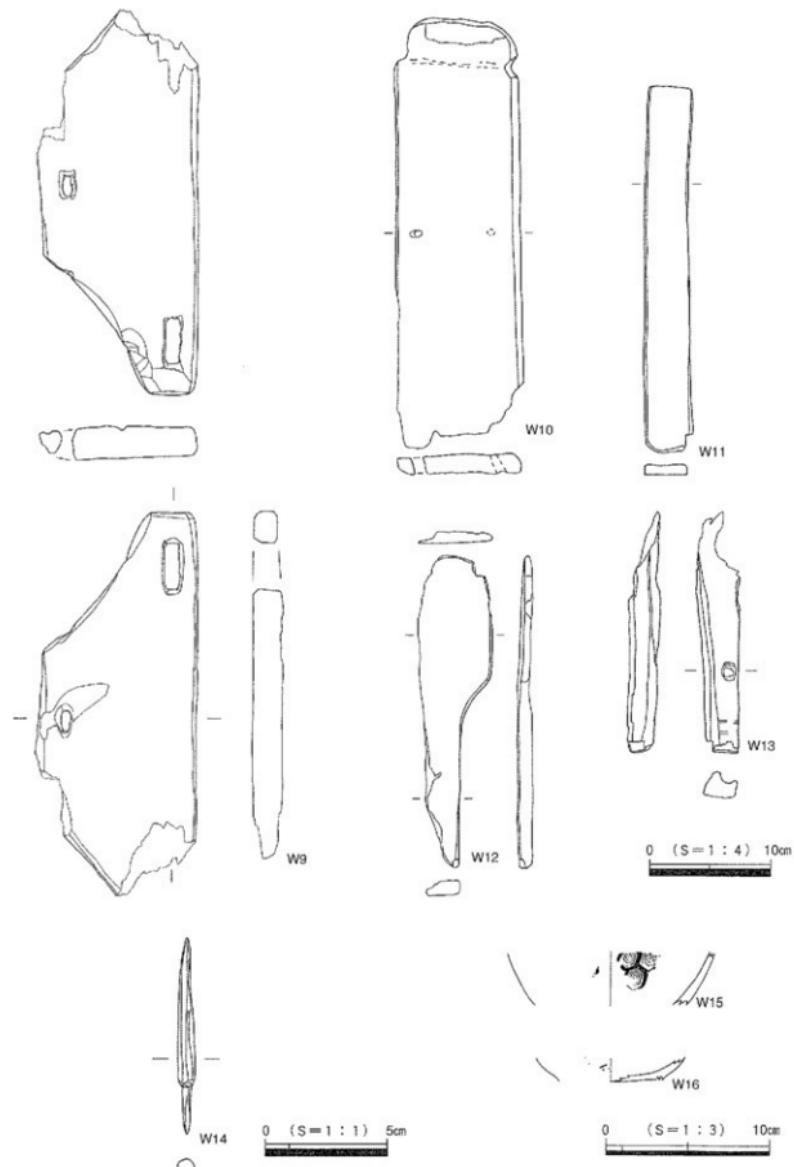
第53図 出土遺物実測図33



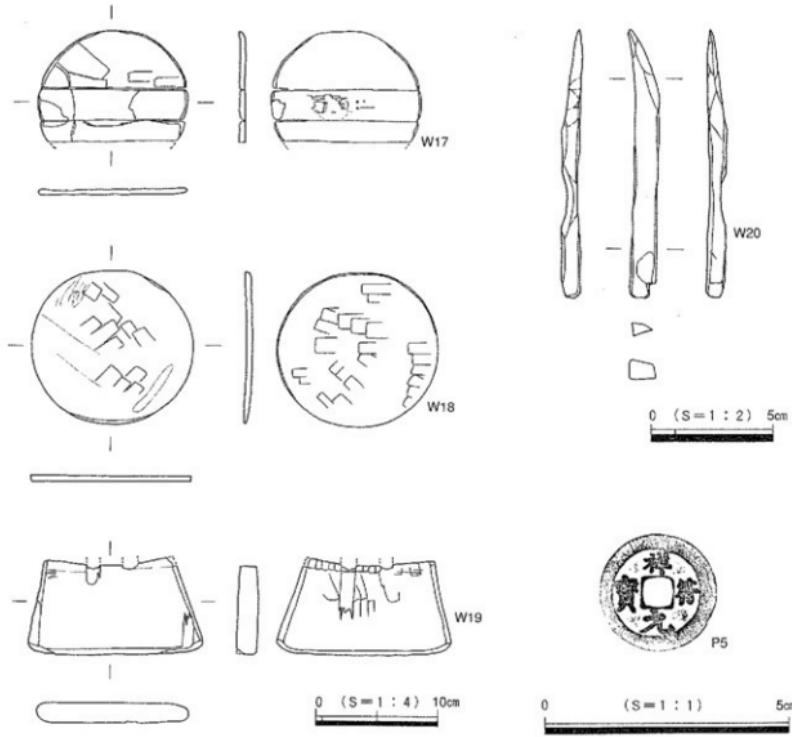
第54図 出土遺物実測図34



第55図 出土遺物実測図35



第56図 出土遺物実測図36



第57図 出土遺物実測図37

遺物観察表(縦文土器・弥生土器)

遺物 番号	捕獲 番号	種別	地区	法量(cm)		焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高					
1 11		要	SK-01	13.0	4.0	良好	淡褐色	密 1mm粒合	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縁焼部取引
2 11	小亞	C	SK-01		4.5	良好	褐色	密	内外面共ナデ	
3 16	要	C		9.0		良好	淡褐色	密 4mm粒合	調整不明	外面に突帯
4 17	要	C	14.2	5.8		良好	淡褐色	密 1.5mm粒合	(内)ナデ・ガニ (外)ナデ・ガニ	墻部・6cm凹線・斜突文
5 17	要	C	16.8	8.7		良好	(内)暗褐色 外)褐色	密 1~2mm粒合	(内)ナデ・ガニ (外)ナデ・ガニ	口縁焼部:面取・別突文 底部:6cm凹線・竹管文
6 17	要	C	18.8	10.8		良好	茶褐色	密 最大2mm粒合	(内)ナデ・ガニ・滑脂压痕 (外)ナハ・ナ・ナ	口縫焼部:面取
7 17	要	C	18.8	8.7		良好	淡褐色	密 最大2mm粒合	(内)ナデ・ナ・ナ (外)ナデ・ナ・ナ	
8 17	要	C	15.6	2.8		良好	淡褐色	密 0.5mm粒合	(内)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:肩目
9 17	要	D	13.7	4.1		良好	淡褐色	密 3mm粒合	(内)ナハ・ナ・ナ (外)ナデ・ナ・ナ	
10 17	要	-	23.2	4.0		良好	淡灰褐色	密 最大2mm粒合	口縫焼部:肩目 脚部:6cm凹線	
11 17	要	C	20.6	3.8		良好	(内)淡褐色 外)淡褐色	密 1~2mm粒合	(内)ナデ・ハケ目 (外)ナデ・ナ	脚部:6cm凹線
12 17	要	C	26.6	3.4		良好	淡茶褐色	密 1~2mm粒合	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	
13 17	要	C	16.6	3.3	14.5 (崩れ)	良好 (外)暗褐色	密 0. 5~4mm粒合	(内)結晶不明 (外)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	
14 17	要	C	23.8	3.4		良 淡褐色	密	良 最大2mm粒合	(内)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線
15 17	要	C	-	3.2		良 (内)淡灰褐色 外)黒色	密 0. 5mm粒合	(内)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	
16 17	要	C	-	3.1		良 (内)濃灰色 外)淡灰褐色	密 最大2mm粒合	(内)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	
17 17	要	C	19.2	4.6		良 淡灰褐色	やや密 0. 1~0. 3mm粒合	(内)ケズリ・ナデ (外)ナデ	口縫焼部:6cm凹線 脚部:10cm凹線	
18 17	要	G		4.6		良 淡灰褐色	やや密	(内)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:10cm凹線	
19 17	要	C		3.6		良好 (内)褐色 外)黑色	密 最大3mm粒合	(内)ナデ (外)ナデ	脚部:6cm凹線 脚部:4cm凹線	
20 17	要	C	20.8	4.9		良 淡褐色	密 最大2mm粒合	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
21 17	要	C	16.6	3.6		良 淡褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
22 17	要	C	14.2	3.5		良 淡灰茶褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
23 17	要	F	22.8	4.1	21.3 (崩れ)	良好 淡褐色	密 0. ~2. 5mm粒合	(内)ナデ (外)ナデ・凹線压痕	脚部:5cm凹線	
24 17	要	C	14.4	2.5		良好 淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
25 17	要	D	17.6	5.2		良 淡灰褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
26 17	要	倒溝	19.5	4.5		良 淡灰褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
27 17	要	倒溝	17.4	7.1		良 淡灰褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	削突文・スス付茎
28 17	要	D	16.6	6.9		良 淡灰褐色	密 0. 1mm粒合	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	
29 18	要	C	23.6	30.7	6.0	やや良 (崩れ)	やや良 淡褐色	密	(内)ナデ・ナ・ナ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎
30 18	要	C	15.4	2.6		良 淡灰褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
31 18	要	E	17.6	5.5		良好 (内)淡褐色 外)黒色	密 2mm粒合	(内)ナデ・ナ・ナ (外)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	削突文・スス付茎
32 18	要	F	20.5	6.1		良好 淡褐色	密 3mm粒合	(内)ナデ (外)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
33 18	要	C	18.6	18.8	6.8	良好 淡褐色	密 1~2mm粒合	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
34 18	要	E	22.2	17.4	7.4	良好 淡褐色	密 4mm粒合	(内)ナデ・ミガキ (外)ナデ・ミガキ	スス付茎	
35 18	要	C	14.8	19.2		良好 淡褐色	密 最大3mm粒合	(内)ナデ・ミガキ (外)ナデ・ミガキ		
36 18	要	E	22.2	5.6	22.0 (崩れ)	良好 (内)淡褐色 外)淡褐色	密 0. 5~3. 6mm粒合	(内)ナデ・ミガキ (外)ナデ・ミガキ		
37 18	要	D	22.0	7.9		良 淡褐色	密 0. 5~2mm粒合	(内)ナデ・ミガキ (外)ナデ・淡灰褐色	貼付突起剝離	
38 18	要	D	21.8	6.2		良 淡灰褐色	密	(内)ナデ・ミガキ (外)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:肩目 スス付茎	
39 18	要	B	14.6	3.6		良 淡褐色	密 1mm粒合	(内)ナデ (外)ナデ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	
40 18	要	C	13.4	3.2		良好 淡褐色	密 1~2mm粒合	(内)ナデ・ナ・ナ (外)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:肩目 脚部:4cm凹線	
41 19	要	倒溝	26.0	2.0		良好 淡褐色	密 1mm粒合	(内)ナデ・ナ・ナ (外)ナデ	口縫焼部:4条凹線・貼付厚 脚部:4cm凹線	
42 19	要	C	28.0	2.7		良好 淡褐色	密 1mm粒合	(内)ナハ・ナ・ナ (外)ナデ	口縫焼部:4条凹線・貼付厚 脚部:4cm凹線	
43 19	要	C	31.8	1.6		良好 褐色	密	(内)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:4条凹線	
44 19	要	C	28.0	2.3		良好 淡褐色	密	(内)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:4条凹線・貼付厚 脚部:4cm凹線・肩目	
45 19	要	D	22.0	2.5		良好 (内)淡褐色 外)褐色	密	(内)ナデ・ナ・ナ (外)ナデ	口縫焼部:4条凹線・肩目 脚部:4cm凹線	
46 19	要	C	29.0	1.9		良好 淡褐色	密	(内)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:4条凹線	
47 19	要	F	39.2	2.8		良好 淡褐色	密	(内)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:4条凹線・肩目 脚部:4cm凹線	
48 19	要	C	19.9	1.5		良好 淡褐色	密	(内)ナデ・ナ・ナ	口縫焼部:3条凹線・貼付厚 脚部:4cm凹線	
49 19	要	D	17.1	1.65		良好 淡褐色	密 0. 5~1mm粒合	(内)ナデ・ハケ目 (外)ナデ	口縫焼部:3条凹線・肩目 脚部:4cm凹線	

遺物觀察表(弥生土器)

遺物 番号	持回 番号	種別	地区	法値(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径					
50	19	壺	G	18.8	1.5		良好	淡褐色	密	最大1mm砂粒含 内外面共ナデ	口縁端部:波状文 口縁部:削文字・円孔・斜格子文
51	19	壺	D	20.1	1.8		良好	淡褐色	密	0.5mm砂粒含 内外面共ナデ	口縁端部:無・3mm凹線 頭部:貼付突起
52	19	壺	G	17.0	1.3		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部:2条凹線・削目
53	19	壺	G	18.0	1.4		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:1条凹線・削目
54	19	壺	C	19.5	1.4		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:3条凹線・貼付厚 文・削文字
55	20	壺	-	39.4	2.6		良好	淡褐色	密	0.5mm砂粒含 調整不規	口縁部:4条凹線・貼付厚 文・削文字
56	20	壺	D	29.0	2.2		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁部:5条凹線・削文字
57	20	壺	B	32.0	2.3		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫部:3条凹線・削目
58	20	壺	D	22.5	2.0		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫端部:4条凹線・削目
59	20	壺	G	27.0	2.2		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫部:4条凹線・削目
60	20	壺	D	32.6	2.9		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫端部:3条凹線・貼付厚 文・口縫部:貼付突起
61	20	壺	D	25.9	1.8		良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縫部:削褐色・削文字
62	20	壺	B	26.8	1.9		良好	褐色	密	内外面共ハケ目・ナデ	口縫端部:刮痕・削目
63	20	壺	F	26.0	2.5		良好	淡褐色	密	0.3~2mm砂粒含 内外面共ナデ	口縫部:削褐色・波状文
64	20	壺	G	6.8			良	淡灰褐色	やや密	(内)ナデ (外)ナデ・ハケ目	4条凹線・削文字
65	20	壺	側溝	8.8			良好	淡褐色	密	0.5~2mm砂粒含 (内)ハケ目・抱頭压痕 (外)ハケ目	外腹部:抱頭压痕 貼付突起
66	21	壺	C	38.6	3.0		良好	淡褐色	密	最大1mm砂粒含 (内)ナデ (外)ナデ・ハケ目	口縫部:削褐色・刮擦子文・粘付厚 文
67	21	壺	G	15.0	3.3		良	淡灰色	密	(内)ナデ (外)ナデ・ハケ目	口縫端部:削目
68	21	壺	C	16.8	2.0		良好	淡褐色	密	0.5mm砂粒含 内外面共ナデ	口縫端部:刮痕・削目
69	21	壺	C	15.6	2.1		良	淡灰褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ・ハケ目	頭部:貼付突起
70	21	壺	側溝	18.2	1.4		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫端部:1条凹線
71	21	壺	C	18.5	1.3		良好	暗褐色	密	内外面共ナデ	口縫部:削褐色・削文字
72	21	高杯	D	19.0	1.6		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫部:2条凹線
73	21	壺	G	13.6	3.5		良好	褐色	密	(内)ナデ (外)ハケ目・ナデ	口縫端部:1条凹線・削目
74	21	壺	G	18.7	3.8		良好	淡褐色	密	(内)ハケ目 (外)淡褐色	口縫部:4条凹線
75	21	壺	C	4.6			良好	淡褐色	密	最大3mm砂粒含 (内)ナデ (外)褐色	頭部:削目
76	21	熱顕鑿	G	15.7	4.4		良好	淡褐色	密	2mm砂粒含 (内)ナデ・ハケ目	口縫部:貼付突起痕
77	21	小型壺	-	10.5	4.5	11.2 (縦幅)	良好	淡褐色	密	3mm砂粒含 (内)ナデ	頭部:4角切線 頭部:削褐色・貼付突起
78	21	壺	C	16.8	2.6		良好	淡褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ・ハケ目	口縫部:4条凹線
79	21	壺	D	16.9	4.5		良好	淡褐色	密	0.3~1.5mm砂粒含 (内)ナデ・ハケ目	頭部:1条凹線 頭部:削付突起
80	21	壺	E	21.6	2.8		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫部:3条凹線
81	21	壺	D	16.5	2.7		良好	褐色	密	内外面共ナデ	頭部:削付突起
82	21	壺	-	20.4	4.8		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・指頭压痕 (外)ナデ	頭部:削目
83	21	壺	C	15.0	2.5		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	頭部:削付突起
84	21	壺	C	18.9	2.8		良好	淡褐色	密	0.3~3mm砂粒含 内外面共ナデ	口縫部:削付突起
85	21	壺	C	15.2	5.1		良好	淡褐色	密	1.5mm砂粒含 (内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	頭部:削文字
86	21	壺	D	4.8			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	頭部:貼付突起
87	21	壺	D	-	2.2		良	黑色・褐色	密	内外面共ナデ	頭部:黑斑層
88	22	壺	G	15.2	7.5		良	淡褐色	密	(内)ナデ・ハケ目 (外)ナデ・ハケ目	頭部:削付突起
89	22	壺	B	18.2	7.2		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ハケ目 (外)ナデ・ハケ目	頭部:削文字
90	22	壺	E	25.8	1.3		良好	淡黃褐色	密	1mm砂粒含 (内)ナデ	頭部:削痕
91	22	壺	G	27.5	1.2		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫端部:削目
92	22	壺	-	3.4			良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	頭部:削痕
93	22	高杯	-	2.4	8.2		良	淡黃褐色	密	0.5mm砂粒含 内外面共ナデ	頭部:3条凹線 頭部:貼付突起
94	22	壺	C	3.9	5.8		良	淡黃褐色	やや密	0.2mm砂粒含 (内)ナデ	2条凹線
95	22	壺	C	3.5	7.2		良好	淡褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ・ハケ目	頭部:削目
96	22	壺	F	2.1	5.65		良	淡灰褐色	密	0.1mm砂粒含 (内)ナデ	頭部:削痕
97	22	壺	G	14.2	8.0		良	淡灰褐色	密	砂粒多・含 (内)ナデ	黒斑付
98	22	壺	E	15.8	8.4		良好	淡褐色・淡褐色	密	(内)ケズリ・ミガキ (外)ミガキ・ナダ	口縫部削痕文
99	22	高杯	C	24.6	3.0		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縫部:削目・斜格子文

遺物観察表(弥生土器)

番号	種別	地区	口径 残存高 底径 段	焼成	色調	胎土	説明	備考
100 22 高坪 C 22.8 3.3	良好	褐色	密	内)ナデ-ハケ目 外)ナデ目	口縁部削り目 口縁部削り凹			
101 22 高坪 C 25.4 3.3	良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)面共ナデ	口縫部、削目			
102 22 高坪 C 23.6 2.4	良好	淡褐色	密 0.3~2mm砂粒含	内)頭部不明	口縁部削り目			
103 22 高坪 D 21.4 4.0	良好	淡褐色	密 磨砂粒含	内)ナデ-ミガキ 外)ナデ-ミガキ-ハケ目	口縫部削り目 底面付着			
104 22 高坪 C 25.0 4.6	良好	淡褐色	密	説明不明	口縁部削り取り			
105 22 高坪 G -	良好	3.5 11.3	密	内)ナデ-ナデ 外)ナデ目	3条回線			
107 22 高坪 -	良好	4.7 17.2	密	内)面共削り凹 外)ナデ-ケズリ	頭部、削付奥突			
108 22 高坪 C 11.1	良好	淡褐色	密	内)ナデ 外)ナデ-ミガキ	4条沈継			
109 22 高坪 B 5.5	良好	淡褐色	密	内)ナデ 外)ナデ-ケズリ	口縫部削り目			
110 22 高坪 G 3.7 12.0	良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部、1条回線-刮目			
111 22 高坪 刷済 2.5 14.0	良	淡褐色	密	内)面共ナデ	口縫部削り目			
112 22 高坪 陶器 4.1 15.6	良好	淡褐色	密 0.5~2. 5mm砂粒含	内)ナデ-ミガキ 外)ナデ-ハケ目	底面削-4条回線			
113 22 海外 陶器 1.8 11.6	良好	淡褐色	密	内)面共ナデ	底面削-4条回線			
114 22 海外 陶器 2.8 16.2	良好	淡褐色	密 0.5~2. 5mm砂粒含	内)面共ナデ 外)面共ナデ	底面削、4条回線			
115 23 葵 C 17.9 1.5	良好	淡褐色	密	内)面共ナデ	口縫部3条回線			
116 23 葵 C 13.6 3.8	良好	淡褐色	密	内)ナデ-ナデ 外)ナデ	口縫部3条回線			
117 23 東 刷済 - 1.2	良	淡褐色	密	内)面共ナデ	口縫部、3条回線			
118 23 直 C 13.9 5.0	良好	褐色	密	内)ナデ-リナデ 外)ナデ	口縫部3条回線			
119 23 直 D 19.6 3.4	良好	淡褐色	密	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部、2条回線			
120 23 直 C 14.8 6.4	良好	淡褐色	密 0.5~1.5mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ	口縫部、4条回線			
121 23 姿 C 13.0 5.2	良	淡褐色茶褐色	密	内)ナデ-ハケ目 外)ナデ-ナデ	口縫部2条回線			
122 23 直 C 13.8 5.6	良好	淡褐色	密 磨砂粒含	内)面共ナデ-ハケ目	口縫部、2条回線			
123 23 直 C 12.0 4.7	良好	淡褐色	密 粗大1mm砂粒含	内)ナデ-ハケ目	口縫部-3条回線-刷目			
124 23 姿 C 19.2 10.9	良好	淡褐色	密 磨砂粒含	内)面共ナデ-ハケ目	口縫部、4条回線			
125 23 直 D 17.4 3.4	良	淡褐色	密 0.1~0.5mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部、5条回線 丸付着			
126 23 葵 D 18.0 4.5	良好	淡褐色	密	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部、2条回線			
127 23 葵 D 16.0 3.5	良	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ-ハケ目	口縫部、2条回線			
128 23 葵 C 8.2 4.1	良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部、4条回線			
129 23 葵 O 18.4 6.0	良好	淡褐色	密	内)ナデ-リナデ 外)ハケ目	口縫部3条回線			
130 23 葵 E 130.0 2.6	良	褐色	密	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部、4条回線			
131 23 葵 E 15.7 3.0	良好	淡褐色	密 0.1~1mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部-5条回線 丸付着			
132 23 姿 B 15.4 5.4	良好	褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ-ハケ目	口縫部-7条回線			
133 23 葵 D 17.5 4.7	良好	淡褐色	密	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部-2条回線			
134 23 葵 刷済 14.6 3.0	良	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部-4条回線			
135 23 葵 E 17.0 2.2	良好	淡褐色	密	内)面共ナデ	口縫部-3条回線			
136 23 直 C 12.4 5.6	良好	淡褐色	密 粗大1mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ-ハケ目	口縫部、4条回線			
137 23 葵 C 15.0 4.9	良	淡褐色	密	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部4条回線 刷付着			
138 24 葵 C 18.6 2.7	良好	内)淡褐色 外)粗褐色	密	内)面共ナデ	口縫部11条回線			
139 24 葵 E 13.4 4.4	良好	淡褐色	密	内)ミネ-ケズリ 外)ナデ-ハケ目	口縫部削-面取り			
140 24 姿 C 16.8 3.6	良	淡灰褐色	密	内)ミネ-ナデ	口縫部-多点回線			
141 24 葵 E 19.0 4.0	良	褐色	密 0.5~1mm砂粒含	内)面共ナデ	口縫部-5条回線 刷付着			
142 24 葵 D 23.8 6.1	良	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部-口縫部削-刷付着			
143 24 葵 刷済 18.7 4.0	良好	淡褐色	密	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部多朱捺錆			
144 24 葵 刷済 20.7 6.85	良好	淡褐色	密 0.5~1mm砂粒含	内)面共ナデ	口縫部-逐次削-5条回線			
145 24 葵 D 18.2 4.35	良	淡褐色	密 0.5~1. 5mm砂粒含	内)面共ナデ	口縫部-逐次削-刷付着			
146 24 姿 C 14.6 3.4	良好	淡褐色	密	内)ナデ-ミガキ 外)ナデ	口縫部削-皮文			
147 24 直 C 17.8 6.3	良好	淡褐色	密 0.5~1.5mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部-7条回線			
148 26 葵 B 14.9 7.7	良好	淡褐色	密 0.5~1.5mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ-ハケ目	口縫部削-面取り			
149 26 葵 B 12.7 4.75	良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ-ハケ目	刷付着			
150 26 葵 B 13.8 4.35	良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)面共ナデ	口縫部削-皮文			
151 26 葵 B 16.9 6.05	良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ	口縫部削-面取り			
152 26 葵 B 14.4 6.6	良好	褐色	密	内)ナデ-ケズリ 外)ナデ-ハケ目	口縫部削-面取り			

遺物観察表(土師器)

遺物番号	拂回番号	種別	地区	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径					
153	26	壺	B	12.1	7.6		良好	淡灰褐色	密	0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
154	26	壺	B	—	5.0	12.8 (底径)	良好 外)暗褐色	内)暗褐色 外)暗褐色	密	0.3~1.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 肩部:波状文
155	26	壺	側溝	14.2	7.3		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 口縁部削り取り
156	26	瓶	側溝	—	6.35		良好	黄灰褐色	密	0.5~3mm砂粒含	内)ナデ・ハケ目 外)ナデ・ナデ
157	26	瓶	側溝	—			良好	褐色	密		
158	28	壺	C	14.0	8.1		良好	黄灰褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
159	28	壺	C	25.4	7.1		良好	褐色	密		内)ナデ・接触圧痕 外)ナデ・ハケ目
160	28	壺	C	14.4	14.2		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内外部共ナデ
161	28	甕	C	21.4	4.6		良好	淡褐色	密		内外部共ナデ
162	28	甕	C	21.2	5.0		良好	褐色	密		内)ナデ・ケズリ・接触圧痕 外)ナデ・ハケ目 口縁部削り取り
163	28	壺	C	24.4	10.8		良好	褐色	密		内)ナデ 外)ナデ・ハケ目
164	28	壺	C	21.4	8.7		良好	褐色	密		口縁部削り取り
165	28	壺	C	23.8	10.0		良	淡灰褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内表面削りぼり痕
166	28	壺	C	22.7	16.85		良好	淡灰褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
167	28	壺	C	16.2	7.8		良	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
168	28	壺	C	21.5	8.7		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
169	28	甕	O	16.2	6.6		良好	褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
170	29	甕	C	22.7	4.8		良好	淡褐色	密		内)色斑共ナデ
171	29	甕	C	23.2	9.2		良好	褐色	密		内)ナデ 外)ナデ・ハケ目 内)接触部削り取り
172	29	甕	C	23.8	8.4		良好	褐色	密		内)色斑共ナデ
173	29	甕	C	20.5	5.8		良好	褐色	密		内)色斑共ナデ 頭部:波状文・複雑压痕
174	29	甕	C	—	9.8		良好	褐色	密		内)ナデ 外)ナデ・ハケ目 内)接触部削り取り
175	29	甕	C	—	15.8		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
176	29	甕	C	9.4	4.1		良好	淡褐色	密		内)色斑共ナデ
177	29	甕	C	13.0	5.3		良好	暗褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
178	29	甕	C	13.6	10.2		良	淡灰褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内)頭部剥離痕
179	29	甕	O	13.5	3.1		良好	淡褐色	密		内)ナデ 外)ナデ後子・ナデ 口縁部削り取り
180	29	甕	C	11.4	9.3		やや良	淡褐褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
181	29	甕	C	9.8	4.0		良好	褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
182	29	甕	C	9.8	4.0		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
183	29	甕	C	15.6	8.2		良好	褐色	密		内)色斑共ナデ
184	29	甕	C	18.0	6.6		良好	褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
185	29	甕	C	17.5	6.8		良好	褐色	密		内)色斑共ナデ
186	30	甕	C	17.3	21.1	29.7 (胴径)	良好	淡灰褐色	密	0.5~1mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ・接触圧痕 外)ナデ・ハケ目 口縁部削り取り1条沈線 肩部剥離痕
187	30	甕	C	17.2	7.9		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
188	30	甕	C	12.5	5.2		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 口縁部削り取り
189	30	甕	O	7.7	6.0		良好	褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ 肩部:波状文
190	30	甕	C	9.1	5.3	11.7 (胴径)	良好	淡灰褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
191	30	甕	C	10.4	4.6		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
192	30	甕	C	10.4	8.5		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
193	30	甕	C	10.2	5.2		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
194	30	甕	O	8.4	2.25		良好	淡灰褐色	密		内)外画共ナデ 内)接触部削り取り
195	30	甕	C	10.1	5.8		良好	褐色	密	0.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
196	30	甕	C	4.8	2.1		良	淡黃褐色	密		内)外画共ナデ 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
197	30	甕	C	8.4	22		良	淡灰褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
198	30	甕	C	6.9	8.6		良好	暗褐色	密		内)ナデ・ケズリ・接触圧痕 外)ナデ
199	30	甕	C	—	4.1	25.5	良好	淡灰褐色	密	0.5~1.5mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
200	31	甕	C	10.6	10.0		良好	褐色	密	4mm砂粒含	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
201	31	甕	C	12.8	11.1		良好	褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目 口部:木片状混入痕
202	31	甕	C	13.8	11.2		良好	淡褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目
203	31	甕	C	13.4	7.4		良好	褐色	密		内)ナデ・ケズリ 外)ナデ 肩部:4条擦擦

遺物観察表(土器部)

遺物 番号	捕獲 番号	種別	地区	法量(cm)		焼成	色調	胎土	調整	備考	
				口径	底存高						
204	31	甕	C	14.2	5.4	良好	暗褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ		
205	31	甕	C	14.5	7.0	良好	暗褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目		
206	31	甕	C	12.2	3.6	良好	淡灰褐色	密	内)ナデ共ナデ		
207	31	甕	C	16.0	5.2	良好	褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目		
208	31	甕	C	15.2	4.6	良好	淡褐色	密 2mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ		
209	31	甕	C	14.4	5.2	良好	淡灰褐色	密	内)ナデケズリ 外)墨色		
210	31	甕	C	12.8	8.95	良好	淡灰褐色	密 0.5~1mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	肩部:刻文	
211	31	甕	C	14.8	5.7	良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目		
212	31	甕	C	14.5	5.2	良好	淡灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ		
213	31	甕	C	17.4	5.4	良好	暗褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ		
214	31	甕	C	10.2	3.7	良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)灰褐色		
215	31	甕	C	13.8	4.8	良好	内)淡褐色 外)灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ		
216	31	甕	C	18.0	4.3	良好	褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ		
217	31	甕	C	10.7	8.1	14.5	良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
218	32	甕	C	15.7	15.6		良好	内)淡灰褐色 外)淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
219	32	甕	C	11.2	15.0	14.8 (胸径)	良好	淡灰褐色	密 0.5~1mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
220	32	甕	C	16.0	16.1	20.8 (胸径)	良好	淡灰褐色	密 0.5~1mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
221	32	甕	C	12.1	6.9		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
222	32	甕	C	12.4	9.8		良好	褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	
223	32	甕	C	14.2	4.8		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	
224	32	甕	C	14.8	5.0		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ	
225	32	甕	C	14.3	4.9		良好	暗灰褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ	
226	32	甕	C	15.4	6.0		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
227	32	甕	C	14.4	5.2		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	
228	32	甕	C	11.7	9.9		良好	褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
229	32	甕	C	11.3	5.6		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	
230	32	甕	C	16.3	5.0		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデミガキ	
231	32	甕	C	12.0	8.9	19.1 (胸径)	良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデミガキ	
232	32	甕	C	10.4	4.4		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	
233	33	甕	C	46.2	12.2		良好	褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	口縁部面取り
234	33	甕	C	37.0	19.95		良好	淡灰褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	口縁部面取り
235	33	甕	C	20.6	15.3		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	口縁部面取り 肩部:波状文
236	33	甕	C	20.1	20.6	29.6 (胸径)	良好	褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	口縁部面取り 肩部:波状文
237	34	甕	C	13.4	8.9		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	
238	34	甕	C	20.6	5.9		良好	灰褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
239	34	甕	C	16.0	4.9		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
240	34	甕	C	19.45	5.85		良	淡灰褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
241	34	甕	C	14.4	5.8		良	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
242	34	甕	C	20.3	6.8		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
243	34	甕	C	16.0	4.9		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
244	34	甕	C	15.3	7.7		良好	淡灰褐色	密 0.5~1mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデハケ目	口縫部面取り
245	34	甕	C	13.2	6.4		良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
246	34	甕	C	15.6	5.5		良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
247	34	甕	C	16.8	4.5		良好	淡褐色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
248	34	甕	C	15.2	4.1		良好	内)褐色 外)墨色	密	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
249	34	甕	C	15.2	5.0		良好	黑褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
250	34	甕	C	14.0	4.4		良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	内)ナデケズリ 外)ナデ	口縫部面取り

造物類別表(土師器)

遺物番号	種類番号	種別	地区	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	残存高	底径					
251	34	甕	C	14.9	4.5		良好	内)褐色 外)黒色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
252	34	甕	C	16.7	5.1		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り 肩部:削突文
253	34	甕	C	15.6	8.5		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り
254	34	甕	C	16.7	5.5		良好	褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
255	34	甕	C	13.8	4.4		良好	淡褐色	白 1mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
256	34	甕	C	14.5	4.9		良好	内)淡褐色 外)淡灰褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
257	35	甕	C	23.6	9.0		良好	淡褐色	白 4mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
258	25	甕	C	16.0	6.8	21.7 (横径)	良好	淡褐色	白 1.5mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
259	35	甕	C	13.9	10.0		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
260	35	甕	C	15.4	6.8		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
261	35	甕	C	20.6	3.9		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
262	35	甕	C	13.6	5.6		良	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
263	35	甕	C	13.8	4.5		良好	青色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
264	35	甕	O	14.2	5.3		良好	内)淡褐色 外)黒色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
265	35	甕	C	14.6	4.7		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
266	35	甕	C	15.2	8.4		良好	褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
267	35	甕	O	15.2	7.3		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 内)淡褐色	口縫部面取り
268	35	甕	C	16.3	6.4		良好	内)淡褐色 外)淡灰褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
269	35	甕	O	15.7	4.2		良好	淡褐色	白 0.5mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
270	35	甕	C	14.4	5.5		良好	淡灰褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
271	35	甕	C	17.4	5.9		良	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
272	35	甕	C	13.8	5.2		良好	淡褐色	白 1mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
273	35	甕	C	14.4	4.3		良好	褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
274	36	甕	O	17.1	15.9	22.2 (横径)	良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り 肩部:削突文
275	36	甕	C	12.2	7.7		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り 肩部:削突文
276	36	甕	C	14.1	6.8		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
277	36	甕	C	19.2	5.4		良好	褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
278	36	甕	C	15.6	5.5		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
279	36	甕	O	16.0	4.6		良好	淡褐色・灰褐色	白 1mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
280	36	甕	O	16.4	6.1		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
281	36	甕	C	14.2	4.5		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
282	36	甕	C	13.4	3.7		良好	淡褐色	白 0.5mm砂粒含	(内)ナデ・ハケ目 内)淡黄色	口縫部面取り
283	36	甕	C	17.4	7.1		良好	淡灰褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
284	36	甕	C	19.4	6.5		良好	淡褐色	白 1mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
285	36	甕	C	14.6	9.5		良	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
286	36	甕	C	12.8	4.25		良好	淡灰褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
287	36	甕	G	12.6	5.5		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り
288	36	甕	C	27.6	6.3		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
289	36	甕	C	9.0	4.7		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
290	37	甕	C	14.6	8.0		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
291	37	甕	C	15.6	6.6		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り 肩部:削突文
292	37	甕	C	15.2	4.7		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縫部面取り 肩部:削突文
293	37	甕	O	11.7	8.4		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
294	37	甕	C	15.2	12.8		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
295	37	甕	O	12.2	4.3		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ハケ目 内)淡黄色	肩部:削突文
296	37	甕	C	26.6	8.7		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縫部面取り
297	37	甕	O	14.6	7.7		良好	淡褐色	白	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	

遺物観察表(土器部)

遺物番号	捕獲番号	種別	地区	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考	
				口径	残存高	底径						
298	37	壺	C	13.6	6.2		良	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ	口縁埋部面取り	
299	37	壺	C	14.4	14.6		28.8 (焼成)	良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	口縁埋部面取り
300	37	壺	C	20.1	4.3		良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	口縁埋部面取り	
301	37	壺	C	14.8	5.0		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ	口縁埋部面取り	
302	37	壺	C	15.0	12.4		良好	内:稍褐色 外:褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	口縁埋部面取り	
303	37	壺	C	12.7	3.8		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ	口縁埋部面取り	
304	37	壺	C	11.5	3.4		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ	口縁埋部面取り	
305	37	壺	C	14.0	4.4		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	口縁埋部面取り	
306	38	壺	C	13.7	7.0		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	肩部:波状文	
307	38	壺	C	10.6	15.0		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
308	38	壺	C	11.4	10.2		良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	口縫埋部面取り 肩部:斜文文	
309	38	壺	C	10.6	5.8		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ		
310	38	壺	C	10.6	13.0	21.1 (焼成)	良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	口縫埋部面取り 肩部:斜文文	
311	38	壺	C	9.7	6.0		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
312	38	壺	C	9.1	4.1		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
313	38	壺	C		8.8		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
314	38	壺	C		6.3		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	肩部:波状文	
315	38	壺	C	7.3	14.8		良好	内:淡褐色 外:淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
316	38	壺	C		14.8		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
317	39	壺	C	14.8	4.4		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ		
318	39	壺	C	14.4	4.75		良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ	口縫埋部面取り	
319	39	壺	C	15.8	3.3		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ		
320	39	壺	C	12.0	3.3		良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ		
321	39	壺	C	11.3	6.3	14.9 (焼成)	良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
322	39	壺	C	18.7	4.9		良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
323	39	壺	C	21.4	6.9		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
324	39	壺	C	15.8	7.5		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
325	39	壺	C	15.4	5.6		良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
326	39	壺	C	18.6	4.5		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
327	39	壺	C	22.6	4.4		良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ		
328	39	高杯	C	18.4	5.7		良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
329	39	高杯	C	20.6	4.7		良好	淡灰褐色	密	(内)环部不明 (外)ナデ	环部	
330	39	高杯	C	17.8	3.2		良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
331	39	高杯	C		8.5	10	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
332	39	高杯	C		1.7	11.4	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
333	39	高杯	C		4.1	16	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
334	39	高杯	C		1.9	12.1	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
335	39	高杯	C	13.0	3.8		良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
336	39	高杯	C		2.1	6.6	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
337	39	高杯	C		1.6	4.2	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
338	39	高杯	C		1.6	6.6	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
339	39	高杯	C		1.6	5.8	良好	褐色	密	O. Saa 細粒質 (内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目	环部	
340	39	酒台	C	19.4	4.7		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
341	39	酒台	C	20.2	3.0		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
342	39	酒台	C	17.0	3.1		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
343	39	器台	C		4.3	17	良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
344	40	器台	C		3.2	15.0	良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
345	40	器台	C		3.1	14.5	良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
346	40	器台	C		1.9	23.4	良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
347	40	壠	C	11.8	3.0		良好	淡褐色、褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
348	40	壠	C		10.7		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
349	40	埴生土器	C		10.4		良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
350	40	手捏土器	C	6.5	3.7		良好	褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		
351	40	小壺	C	3.4	4.2	4.8 (焼成)	良好	淡褐色	密	(内)ナデ ^ケ ズリ (外)ナデ ^ハ ッサ目		

遺物觀察表(土師器)

遺物 番号	種別	地区	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考
			口径	残存高	底径					
352 40	壺	側溝	14.5	14.9	20.1 (胴径)	良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
353 40	壺	側溝	11.6	5.4		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
354 40	壺	側溝	14.3	8.2		良	黄灰褐色	密	0.5~1mm砂粒含 (内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
355 40	壺	側溝	13.2	3.9		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
356 40	高杯	側溝	10.8	3.9		良	淡褐色	密	内外面共にガキ (内)ハケ目・ケズリ (外)ケズリ後ナデ	坪部
357 40	小型壺	側溝		4.3		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
358 42	壺	D	23.2	8.7		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
359 42	壺	D	21.3	7.55		良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縁磨削面取り
360 42	壺	D	22.8	12.9		良	淡褐色	密	1mm砂粒含 (内)ナデ・ハク目	口縁磨削面取り 内面剥離し延び直
361 42	壺	D	20.6	6.8		良	淡褐色	密	(内)ナデ (外)ナデ・ハク目	内面剥離し延び直
362 42	壺	D	22.1	15.7	25.1 (胴径)	良好	淡灰褐色	密	0.5~1mm砂粒含 (内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫跡加面取り 頸部付付突毫 肩部棱折状
363 42	壺	D	24.6	15.6		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	頸部:波状紋 内面露部:しばり板 肩部刻痕深
364 43	壺	D		14.6		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
365 43	壺	D	—	10.4		良	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
366 43	壺	D	12.8	5.5		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
367 43	壺	D	17.0	5.4		良好	淡褐色	密	内面露部ナデ (内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縁埋削面取り
368 43	壺	D	16.0	5.5		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫埋削面取り
369 43	壺	D	14.6	7.1		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り
370 43	壺	D	12	3.0		良好	淡灰褐色	密	(内)ハク目 (外)ナデ・相間斑点	
371 43	小壺	D	3.1	6.0	0.7 (胴径)	良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
372 43	小壺	D	7.1	6.8		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
373 43	法口土器	D		7.3		良好	淡褐色	密		引刀
374 43	壺	D	18.6	9.4		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り
375 43	壺	D	18.4	5.6		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
376 43	壺	D	11.3	10.9		良好	淡褐色	密	4mm砂粒含 (内)ナデ・ハク目	
377 43	壺	D	13.4	5.3		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
378 43	壺	D	14.0	4.4		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
379 43	壺	D	15.8	4.5		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
380 43	壺	D	15.0	11.5		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	
381 44	壺	D	15.4	5.1		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り
382 44	壺	D	13.8	7.8		良好	褐色	密	(内)ナデ・ハク目 (外)墨色・墨褐色	口縫端斜面取り
383 44	壺	D	12.4	4.9		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り
384 44	壺	D	16.6	4.7		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り
385 44	壺	D	13.4	4.2		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)墨色	口縫端斜面取り
386 44	壺	D	13.0	4.6		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)墨色	口縫端斜面取り
387 44	壺	D	15.6	5.4		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	
388 44	壺	D	14.2	6.3		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縫端斜面取り
389 44	壺	D	14.2	3.7		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縫端斜面取り
390 44	壺	D	16.2	7.0		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縫端斜面取り
391 44	壺	D	16.4	5.7		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り
392 44	壺	D	14.2	4.4		良好	褐色	密	(内)ナデ・ハク目 (外)墨色	口縫端斜面取り
393 44	壺	D	18.4	7.2		良好	褐色	密	(内)ナデ・ハク目 (外)ナデ	口縫端斜面取り
394 44	壺	D	14.7	20.0	22.2 (胴径)	良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り・凹捲
395 44	壺	D	20.0	5.2		良好	褐色	密	内外面共にナデ	口縫端斜面取り
396 44	壺	D	18.3	5.5		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縫端斜面取り
397 44	壺	D	11.7	8.4	13.7 (胴径)	良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハク目	口縫端斜面取り

遺物観察表(土師器)

遺物 番号	持因 番号	種別	地区	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考
				口径	既存高	底径					
398	45	甕	D	15.0	6.9		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
399	45	甕	D	13.0	5.4		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
400	45	甕	D	14.0	8.3		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り
401	45	甕	D	15.4	5.2		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り
402	45	甕	D	16.0	4.6		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
403	45	甕	D	14.2	5.7		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り
404	45	甕	D	9.2	5.6		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り 周部:絞文
405	45	甕	D	8.6	4.7		良好	淡褐色	青	内)ナデ・スリ 外)ナデ・ハケ目	
406	45	甕	D	10.0	4.4		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
407	45	甕	D	12.6	4.4		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
408	45	甕	D	16.0	6.9		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	肩部:質粒文
409	45	甕	D	11.0	5.3		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
410	45	甕	D	14.8	4.4		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
411	45	甕	D	21.6	7.0		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
412	45	甕	D	23.6	7.2		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
413	45	甕	D	9.4	4.4		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
414	45	高坏	D	19.0	4.8		良	灰褐色	青	内)外面部ガキ	坪部
415	45	高坏	D	20.8	5.2		良	淡灰褐色	青	内)ナデ 外)ガキ	坪部
416	45	高坏	D	7.5	11		良	淡褐色	青	内)ナデ・ハケ目 外)ナデ・ハケ後ケズリ	脚部
417	46	坏	D	11.4	3.2		良好	褐色	青	内)ナデ・ハケ目	
418	46	高坏	D	2.8	14.4		良	淡灰褐色	青	内)外底部ナデ	脚部
419	46	器台	D	4.0	15.4		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
420	46	器台	D	2.2	13.7		良	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
421	46	小甕	D	4.8	4.6	1.8 (耐候)	良好	褐色	青	砂多く含 内)外面部ナデ・種類圧痕	
422	46	土錐	D	5.1		2.0	良好	褐色	青	ナデ・指連延痕	
423	46	甕	D	11.9	4.2		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り
424	46	甕	D	12.2	4.7		良好	灰褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
425	46	甕	D	15.7	6.9		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
426	46	甕	D	10.8	4.0		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
427	46	甕	D	20.8	4.8		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
428	46	甕	D	10.8	4.0		良	灰褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
429	46	甕	D	11.4	3.5		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	脚部圧痕
430	46	手捏土器	D	4.8	2.3		良好	灰褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
431	46	手捏土器	D	5.6	3.5		良	淡灰褐色・墨色	青	0.5mm粒含 内)ナデ・ケズリ・種類圧痕	
432	48	甕	E	20.1	9.2		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り
433	48	甕	E	18.4	5.2		良	淡褐色	青	内)外底部ナデ	
434	48	甕	E	14.0	5.4		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
435	48	甕	E	20.2	8.4		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
436	48	甕	E	17.8	7.2		良	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
437	48	甕	E	21.6	8.3		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
438	48	甕	E	17.2	5.9		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
439	48	甕	E	20.8	7.0		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
440	48	甕	E	15.6	10.0		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
441	48	小型甕	E	8.2	4.55		良好	灰褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	
442	48	甕	E	17.6	6.8		良	淡灰褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	肩部5条凹線
443	48	甕	E	16.6	13.2		良好	淡褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り
444	48	甕	E	21.0	6.4		良好	褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁部面取り
445	48	甕	E	15.8	6.7		良	乳灰褐色	青	内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハケ目	

遺物観察表(土師器)

遺物番号	種別	地区	法量(cm)			焼成	色調	胎土	調整	備考	
			口径	残存高	底径						
446	48	夏	E	18.8	5.9	良	淡黄褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
447	48	夏	E	13.8	4.5	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
448	50	夏	E	12.8	8.5	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目	口縁部面取り	
449	50	夏	E	10.0	3.9	良好	赤褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	肩部:波状文	
450	50	夏	E	13.6	5.1	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目		
451	50	夏	F	11.6	2.4	良	淡黄褐色	黒	(内)無共ナデ		
452	50	夏	F	—	5.5	良好	淡褐色	黒	(内)課除不	波状文・3系凹線	
453	50	夏	E	16.6	2.8	良	淡褐色	黒	(内)無共ナデ		
454	50	器台	E	—	2.5	19.6	良好	淡褐色	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
455	50	高杯	E	—	5.1	良	淡褐色	黒	(内)無共ナデ	脚部:波状文	
456	50	平底土器	E	—	2.4	良	淡灰褐色	黒	1ms粉粒含 (内)ナデ・指跡压痕 (外)ナデ		
457	50	手擦土器	E	—	3.1	良	淡褐色	黒	1ms粉粒含 (内)ナデ・指跡压痕 (外)ナデ		
458	50	夏	E	17.4	4.9	良	暗褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
459	50	瓶	E	—	—	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
460	50	瓶	E	—	—	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
461	50	夏	F	14.1	7.65	良好	淡灰褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目		
462	50	夏	F	13.1	5.4	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
463	50	夏	F	15.0	4.5	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縁部面取り	
464	50	夏	F	13.0	4.0	良好	淡褐色	黒	(内)無共ナデ		
465	50	器台	G	17.6	5.3	良好	褐色	黒	(内)無共ナデ		
466	50	器台	F	—	2.2	15.8	良好	淡褐色	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
467	50	器台	G	—	1.8	17.0	良好	暗褐色	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
468	51	夏	南側溝	19.8	9.1	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
469	51	夏	南側溝	19.6	7.7	良	淡褐色	黒	(内)無共ナデ (外)無共褐色 1ms压痕褐色		
470	51	夏	南側溝	19.0	5.2	良好	淡褐色	黒	(内)無共ナデ (外)ナデ・ケズリ (内)ナデ・ハケ目		
471	51	夏	南側溝	14.9	9.1	良	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
472	51	夏	南側溝	29.0	4.5	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縁端部面取り	
473	51	夏	南側溝	14.4	6.2	良	淡灰褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目	口縁端部凹線	
474	51	夏	南側溝	23.6	5.6	良好	淡黄褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
475	51	夏	南側溝	11.1	5.9	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縁端部面取り	
476	51	夏	南側溝	13.6	3.7	食好	内)淡褐色 (外)因縫褐色・淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り	
477	51	夏	南側溝	11.6	6.4	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目		
478	51	器台	南側溝	—	5.1	17.4	良	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目 (内)ナデ・ナデ	
479	51	夏	北側溝	25.4	4.7	良好	淡褐色	黒	(内)無共ナデ		
480	51	春	北側溝	10.2	4.7	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
481	51	夏	北側溝	9.0	5.7	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目		
482	51	夏	北側溝	16.0	8.7	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目		
483	51	夏	北側溝	17.0	5.6	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
484	51	夏	北側溝	14.5	4.8	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
485	51	夏	北側溝	11.0	4.2	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目		
486	51	夏	北側溝	14.5	4.2	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)淡褐色		
487	52	夏	北側溝	17.6	10.3	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り	
488	52	夏	北側溝	16.5	6.2	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縁端部面取り	
489	52	夏	北側溝	16.2	6.0	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ		
490	52	夏	北側溝	15.9	5.9	良好	褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ	口縁端部面取り	
491	52	夏	北側溝	18.4	11.3	良好	淡褐色	黒	(内)ナデ・ケズリ (外)ナデ・ハケ目	口縁端部面取り	
492	52	鬲	北側溝	—	5.8	10.8	良	淡褐色	(内)無共ナデ	細孔	
493	52	鬲	北側溝	—	1.6	11.3	良好	淡褐色	(内)ナデ・ケズリ・裡頸圧痕 (外)ナデ		
494	52	夏	北側溝	22.6	5.8	良好	褐色	黒	(内)無共ナデ		

遺物観察表(須器・瓦質土器)

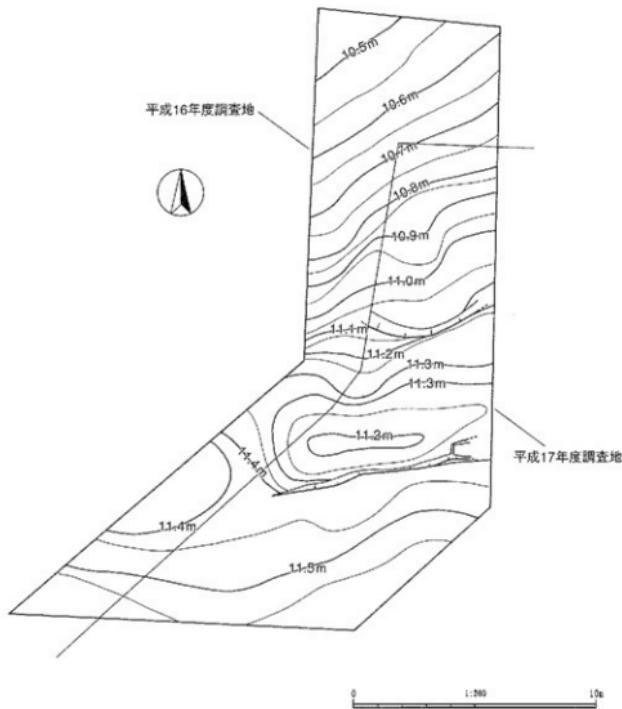
遺物	捕図 番号	種別	地区	法量(cm) 口径 残存高 底径 傑	焼成	色調	胎土	調整	備考	
495	53	环底	C	17 4.85	良好 (内)灰白色 (外)暗灰色	褐紅 内)灰褐色 (外)暗灰色	緻密	ナデ・ケズリ		
496	53	环底	C	16 4.1	良好 (内)暗灰色	褐紅 内)暗灰色	緻密	ナデ・ケズリ	暗青褐色自然鉢	
497	53	环底	D	11.2 2.7	良好 (内)暗灰色	褐紅 内)暗灰色	緻密			
498	53	环底	C	14 3.2	良好 (内)暗灰色	褐紅 内)暗灰色	緻密			
499	53	环身	E	11.8 3.8	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密	ナデ		
500	53	环身	F	9.6 3.2	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密	ナデ・ケズリ		
501	53	环身	D	11 3.1	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密含む 1mmの砂粒含む	ナデ・ケズリ	へら印	
502	53	环身	BIC開窓	7.8 2.5	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密	ナデ		
504	53	环身	D	14.6 3.3	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密含む 1mmの砂粒含む	ナデ	反色輪	
505	53	环身	C	12.8 4.2	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密	ナデ・ケズリ	回転糸切	
506	53	环身	C	16 4.3	良好 (内)青灰色	褐紅 内)青灰色	緻密	ナデ・ケズリ	回転糸切	
507	53	环身	—	13.6 2.5	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密含む 1mmの砂粒含む	ナデ	静止系胡	
508	53	盖	C	1.9	2.4(つまみ)	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密	ナデ	
509	53	蓋	C	1.2	3.4(つまみ)	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密	輪状	
510	53	高台付坪	F	2.1	8.6	良好 (内)赤味がかった 暗灰色	褐紅 内)暗灰色	緻密含む 1mmの砂粒含む	ナデ	
511	53	塔	B	9.2 1.9	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密含む 1mmの砂粒含む	ナデ		
512	53	壺	F	10.2 1.1	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密	ナデ	緑色自然釉	
513	53	壺	D	—	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	緻密含む 1mmの砂粒含む	ナデ		
514	53	瓶瓶	B	12.2 3.4	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	密秘含む 1mmの砂粒含む	ナデ・印記		
515	53	瓶瓶	E	13 3.7	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	密秘含む 1mmの砂粒含む	ナデ・印記		
516	53	サリ鉢	C	30.2 1.2	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	密秘含む 1mmの砂粒含む	ナデ		
517	53	サリ鉢	C	5.2 10.6	良好 (内)暗褐色	褐紅 内)暗褐色	密秘含む 1mmの砂粒含む	ハケ目・ナデ		
518	53	高台付坪	D	3.6 1.1	良好 (内)暗褐色	褐紅 (内)暗褐色	密秘	ナデ	底部回転系きり	

遺物観察表(石製品)

遺物	捕図 番号	種別	地区	法量(cm) 長さ 幅 厚さ 重量(g)	石材
S1	54	石斧	C	14.8 8.5 3.1 468	無板昌安山岩
S2	54	石斧	G	10.0 5.55 3.6 383	無色片岩
S3	54	石斧	G	15.0 6.0 4.0 560	安山岩
S4	54	理状石斧	F	11.3 4.75 3.7 216	花崗岩
S5	54	理状石斧	—	7.3 3.9 2.6 108	花崗斑岩
S6	54	石鎚	D	7.0 4.8 2.1 109	安山岩
S7	54	用途不明	E	10.6 4.2 2.85 142	安山岩
S8	55	石皿	F	15.5 11.8 8.5 1,860	砂岩
S9	55	断石	C	11.9 9.5 5.5 992	花崗岩
S10	55	断石	F	7.9 5.3 4.6 222	安山岩
S11	55	塊	—	3.35 1.2 0.8 2	基岩
S12	55	塊	E	3.1 0.95 0.7 1	基岩
S13	55	石盾	—	2.15 1.9 0.3 1	頂高安山岩

遺物観察表(木製品)

遺物	捕図 番号	種別	地区	法量(cm) 長さ 幅 厚さ 重み	木材
W1	11	縫葉材	S K-01	95.0 21.6 9.5	ヒノキ利アスナロ
W2	11	縫葉材	S K-01	76.0 8.5 1.5	ヒノキ利アスナロ
W3	12	用途不明	S K-01	108.0 18.4 4.6	ヒノキ利アスナロ
W4	12	塊	S K-01	46.5 11.2 2.0	スギ利スギ
W5	13	杭	S K-01	19.7 3.6 2.6	ブナ利クリ属クリ
W6	14	杭	S K-01	143.6 13.5 13.0	ブナ利クリ属クリ
W7	14	用途不明	S K-01	133.5 30.5 5.9	スギ利スギ属久ギ
W8	15	縫葉材	S K-01	270.0 22.4 10.4	スギ利スギ属久ギ
W9	55	三角折	D	13.2 31.9 2.8	スギ利スギ属久ギ
W10	55	用途不明	C	35.2 10.1 1.6	スギ利スギ属久ギ
W11	55	用途不明	C	30.1 3.8 0.9	ヒノキ利アスナロ
W12	56	用途不明	—	25.7 6.0 1.2	
W13	56	用途不明	—	2.2 1.9 0.3	
W14	56	セヌ	樹溝	8.1 0.9 0.8	
W15	56	漆器柄	C	— 3.3 —	
W16	56	漆器柄	—	— 1.5 —	
W17	57	曲物	C	12.2 0.5	
W18	57	曲物	C	13.2 12.7 0.5	
W19	57	下狀	—	7.9 14.2 1.8	
W20	57	用途不明	E	11.0 1.1 0.8	



第1図 古市六反田遺跡最終地形測量図

第4章 古市六反田遺跡の調査

第1節 調査の経過と方法

現地調査は、用水路部分を平成16（2004）年12月22日から開始し、平成17（2005）年1月11日、残りの部分を平成17（2005）年6月1日から開始し平成17（2005）年6月17日まで行った。調査面積は250m²で、調査地の南側では現地表面から約50cm掘り下げたところで地山である白色粘土の岩盤が検出されたが、深い位置では約1.6mの深さまで掘り下げた。調査地は吉谷龜尾前遺跡の西側に位置し、南側に位置する丘陵の裾野に当たる、標高11.6mの水田地であった。

地表面から約40cm、現在の耕作土を重機にて除去した後、かなりの湧水が考えられたため、周囲に溝を設定したうえで、人力により1面ずつ掘り下げていった。西側の壁面で土層観察を行った。

遺物の取上げについては、トータルステーションを使用した。調査の結果、遺構は確認できなか

った。遺物は土師器が多く出土しているが、吉谷龜尾前遺跡のものと比較するとかなり状態は悪いものが多かった。

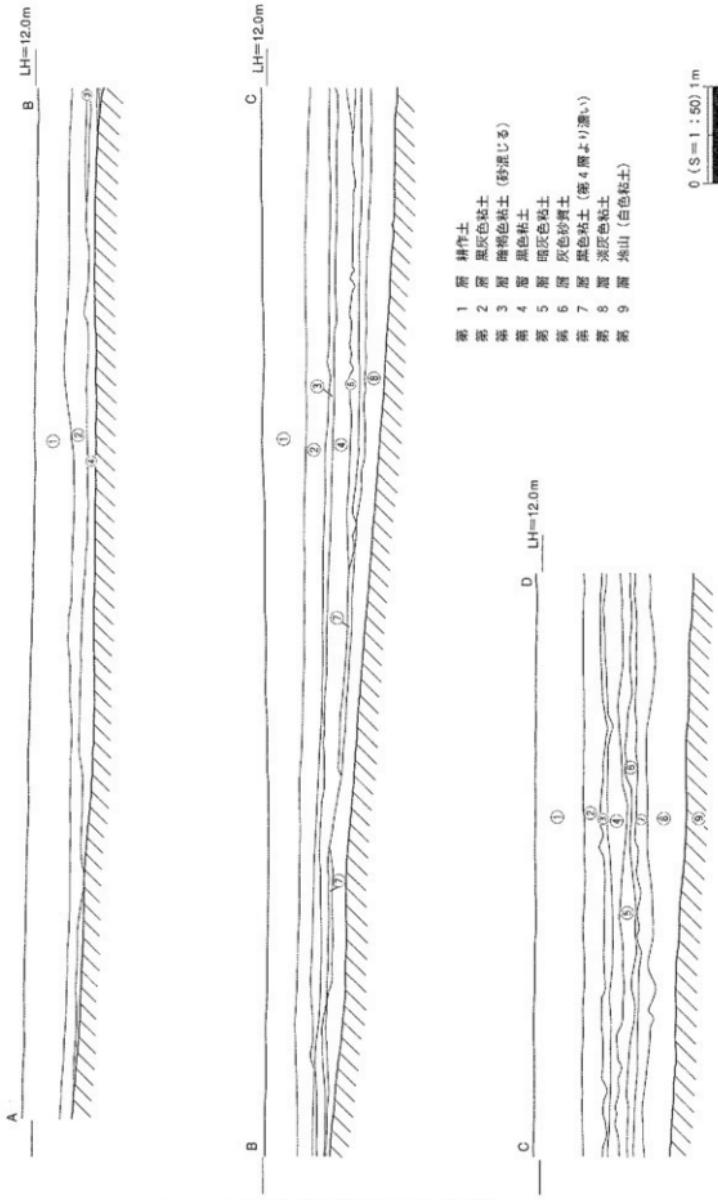
第2節 調査区内の堆積

調査地の地形は、母塚山から派生する小丘陵の裾野にあたることから、調査地の南側から北側に向けて緩やかに傾斜する。土層観察は調査地の西側壁面で行った。

調査区の堆積は、南側では北側に向かって緩やかに傾斜しているが、全体的にはほぼ水平に堆積している。

- 第 1 層 耕作土
- 第 2 層 黒灰色粘土
- 第 3 層 暗褐色粘土（砂混じる）
- 第 4 層 黒色粘土
- 第 5 層 喰灰色粘土
- 第 6 層 灰色砂質土
- 第 7 層 黒色粘土（第4層より濃い）
- 第 8 層 淡灰色粘土
- 第 9 層 地山（白色粘土）

第1層は現在の耕作土、第2層は旧耕作土と思われる層である。第3・6層はそれぞれ暗褐色粘土・灰色砂質土で砂粒を含んでいることから、流れ込みの層である。第4層及び第7層はほとんど混じりのない安定した粘土層で、第5・8層は暗灰色粘土である。第9層は真白な粘性の大変強い層である。遺物は第4層・第7層及び第8層の上面で出土している。



第2図 古市六反田遺跡土層断面図

第3節 遺物について（第3図・第4図・第5図）

遺物は、第4層及び第7層の黒色粘土層において集中して出土した。コンテナに約3箱程度の遺物が出土したが、そのほとんどは風化が著しく図示できるものは少なかった。

弥生時代の遺物

No.1～No.6は中期の土器で、No.1・No.2は頸部が「く」の字に屈曲する甕型土器、No.3は頸部に貼付突帯を付した甕型土器である。No.5は壺型土器の頸部部分で貼付突帯を付す。No.6は高坏の脚部である。No.7・No.8は後期の壺土器で、口縁部を上下に肥厚させ、端部には数条の沈線を施す。No.15は蓋で対応する2箇所に紐を通すための穴を穿つ。

古墳時代以降の遺物

No.9・No.11～No.13は複合口縁の壺型土器で、口縁部は大きく「逆八の字」に開く。No.9・No.12は頸部に綾文を施す。

No.16～No.31はいずれも複合口縁を呈する甕型土器である。No.30・31が直立気味にやや内傾して立ち上がるほかは、「逆八の字」に開く口縁部を呈する。No.16・18・19・20・21は口縁端部に面取りを施し、それ以外は丸くおさめる。

No.32～No.38は鼓型器台、No.14No.39～No.42は高坏、No.43～No.47は低脚坏である。

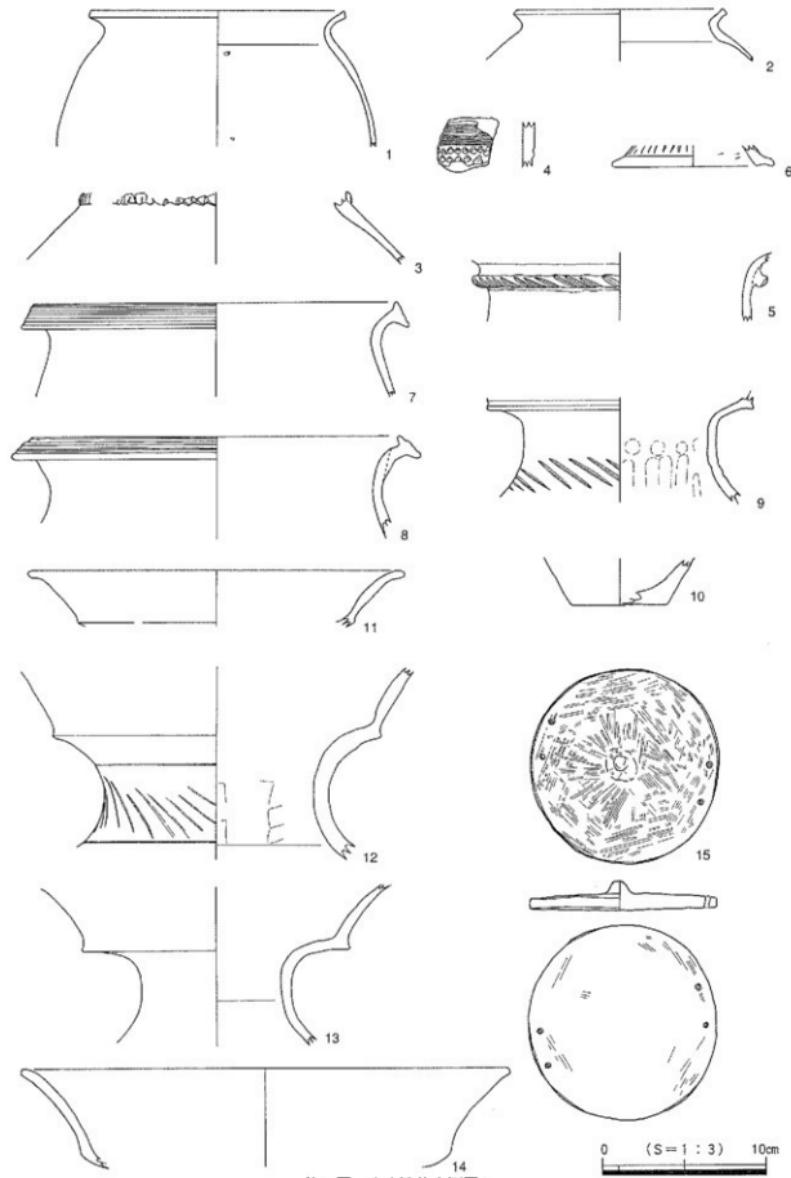
その他No.48は手捏ね土器、No.49は小型壺、No.50は瓶、No.51は羽釜、P1は土製の勾玉である。

第5章まとめ

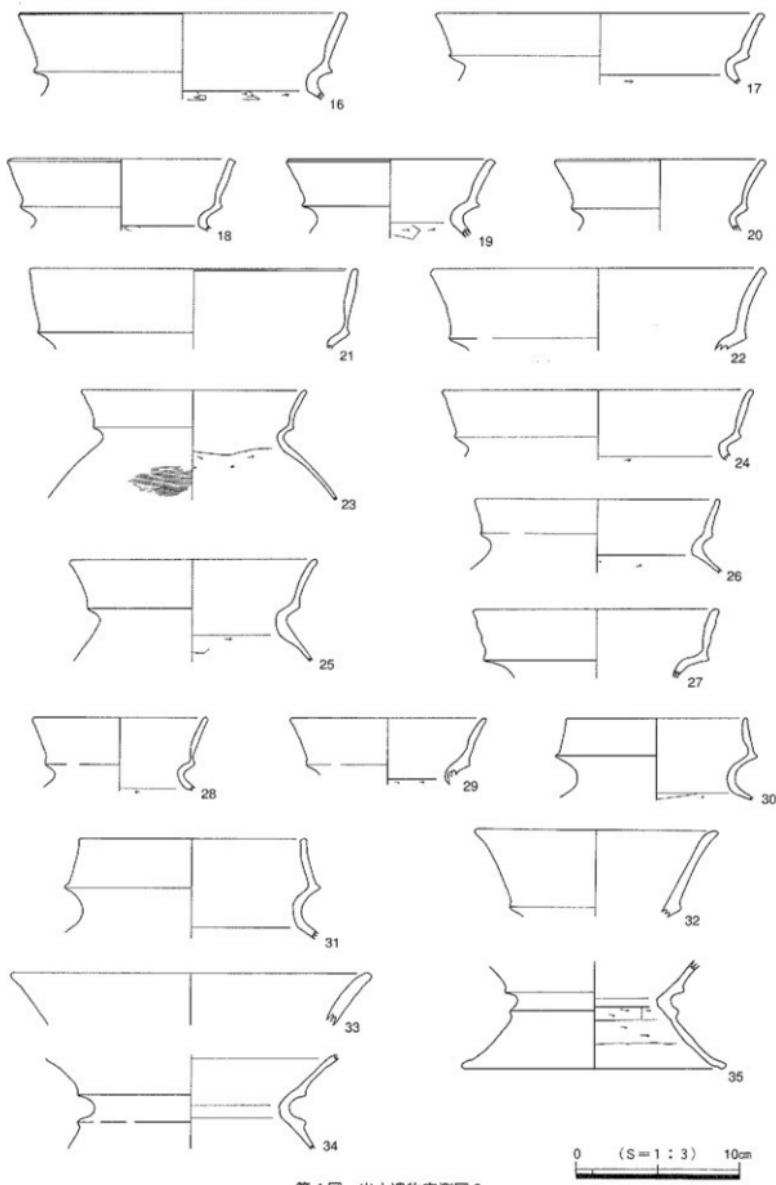
今回の調査では、吉谷龜尾前遺跡において多量の遺物を検出した。一部の木製品を除いてすべてが流れ込みの遺物であった。出土状況からみて、弥生時代中期、弥生時代末から古墳時代前期、古墳時代以降の大きく3時期の遺物の堆積層が考えられる。これらの遺物の時期に該当するもっとも近い遺跡は、平成12年度に調査が行われた吉谷龜尾ノ上遺跡である。ここでは弥生時代から古墳時代の住居が数棟確認されているが、住居に伴う遺物はあまり出土していない。位置的に見て今回出土した遺物がこれらの住居に伴うものと考えることは十分可能であると思われる。ただし、土器の量から見てかなりの数の住居等が推定されることから、吉谷龜尾ノ上遺跡で確認された以外にもこの周辺には、数多くの住居があったと推定される。住居等の広がりについては今後の調査の機会に委ねることにしたい。

今回の調査で注目したいのが、弥生時代末から古墳時代前期の遺物堆積である。他の時代の遺物が比較的調査区全体に散布しているのに対して、この時代の遺物はC区で特に集中して出土している。調査地は、A区からG区に向かって緩やかに傾斜しているのだが、A・B区ではほとんど出土していない。遺物が集中する地形的な要因も見られない。また隣接する古市六反田遺跡で出土した遺物が、かなり摩耗し、小片化しているのと比較しても、状態のよい遺物が多く、単に流れ込んだものとは考えにくい。後世の人間によって何らかの意図を持ってC区付近に一括廃棄され、その遺物がD～G区に散布した可能性が十分考えられるが、その意図を窺い知ることは今回の調査ではできなかった。

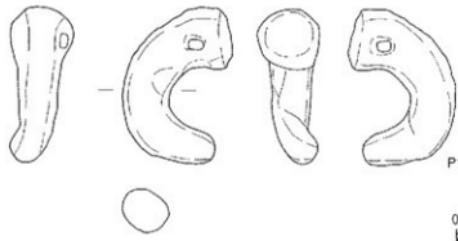
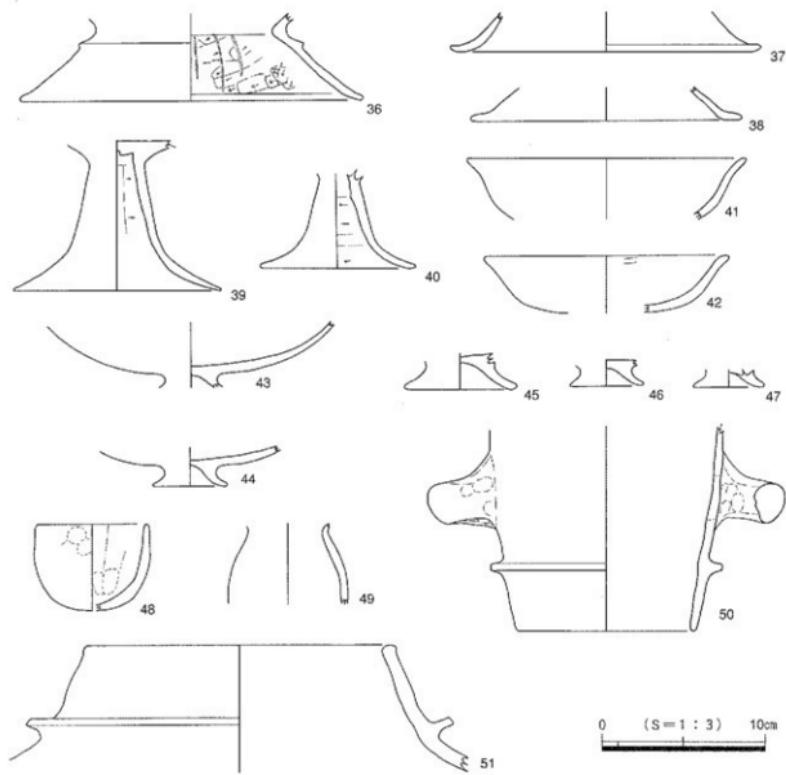
最後になりましたが、今回の調査において多数の方々に協力していただき、末筆ながら記して感謝の意を表します。



第3図 出土遺物実測図1



第4図 出土遺物実測図2



第5図 出土遺物実測図3

遺物観察表(古市六反田遺跡)

遺物 番号	掲回 番号	種別	法量(cm) 口径 残存高 底径			焼成	色調	胎土	調整	備考
			口径	残存高	底径					
1	3	甕	15.4	8.3		良好	褐色	密	(内)ケズリ 外)ナデ	
2	3	甕	12.5	3.2		良好	淡黄褐色	密	(内)ケズリ 外)ナデ	
3	3	甕		4.4		良好	淡褐色	密	(内)ケズリ 外)密著不明	
4	3	甕		2.8		良好	褐色	密	(内)ケズリ 外)ナデ	底部・貼付突起 沈線・削突文
5	3	甕		4.2		良好	淡褐色	密	調整不明	貼付突起
6	3	高坏		1.6	9.6	良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	削突文
7	3	甕	22.0	5.5		良好	淡黄褐色	やや密 0.3mm砂粒含	0.3~3mm砂粒含	4条凹痕
8	3	甕	23.1	6.3		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	0.5~1mm砂粒含	4条凹線
9	3	甕		6.4		良好	淡灰褐色	密	内外面共ナデ	
10	3	甕		2.9	5.3	良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
11	3	甕	22.4	3.4		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
12	3	甕		11.8		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	底部・削突文
13	3	壺		9.8		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
14	3	高坏	29.4	6.1		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
15	3	甕	11.5	1.6		良好	褐色	密 3mm砂粒含	3mm砂粒含	円孔有
16	4	甕	19.2	5.3		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
17	4	甕	10.2	4.4		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	1mm砂粒含	口縁端部面取り
18	4	甕	13.2	4.4		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
19	4	甕	12.4	4.8		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	口縁端部面取り
20	4	甕	12.4	4.4		良好	褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
21	4	甕	19.9	4.8		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
22	4	甕	20.0	5.1		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	口縁端部面取り
23	4	甕	13.6	6.7		良好	淡白褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ・ハゲ目	
24	4	甕	18.4	4.3		良好	暗茶褐色	密 2mm砂粒含	1mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
25	4	甕	14.8	6.3		良好	暗青褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
26	4	甕	14.7	4.6		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
27	4	甕	14.6	4.2		良好	褐色	密	内外面共ナデ	
28	4	甕	10.5	4.5		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
29	4	甕	11.8	4.1		良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
30	4	甕	11.0	5.1		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	1mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
31	4	甕	13.6	6.2		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
32	4	器台	14.5	5.4		良好	淡褐色	密	内外面共ナデ	
33	4	甕	15.4	8.3		良好	褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
33	4	器台	21.2	3.2		良好	褐色	密	内外面共ナデ	
34	4	器台		5.8		良好	淡褐色	やや密	内ナデ・ケズリ 外)ナデ	
35	4	器台		6.6	15.3	良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
36	5	器台		5.4	20.6	良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	0.5mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
37	5	器台		17.9	2.4	良好	淡褐色	密	調整不明	
38	5	器台		2.0	15.5	良好	淡褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
39	5	高坏		12.5		良好	淡灰褐色	密	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ	
40	5	高坏		6.0	8.1	良好	淡灰褐色	密 0.5~1mm砂粒含	0.5~1mm砂粒含	(内)ナデ・ケズリ 外)ナデ
41	5	高坏	16.8	3.8		良好	褐色	密	内ナデ・共ナデ	
42	5	低脚坏	14.8	3.5		良好	淡褐色	密 0.5mm砂粒含	0.5mm砂粒含	(内)ナデ・共ナデ
43	5	低脚坏		4.0		良好	淡褐色	密 2mm砂粒含	2mm砂粒含	内ナデ・共ナデ
44	5	低脚坏		3.4	4.3	良好	淡褐色	密 1.5mm砂粒含	1.5mm砂粒含	内ナデ・共ナデ
45	5	低脚坏		2.2	5.4	良好	淡褐色	密	内ナデ・共ナデ	
46	5	低脚坏		1.8	4.2	良好	淡褐色	密	内ナデ・共ナデ	
47	5	低脚坏		1.1	4.2	良好	淡褐色	密 磨砂難含	磨砂難含	内ナデ・共ナデ
48	5	手型土器	6.6	5.3		良好	褐色	密	内ナデ・共ナデ	
49	5	手型土器		4.9		良好	淡褐色	密 1mm砂粒含	1mm砂粒含	(内)ナデ
50	5	甕		12.8	10.7	良好	暗茶褐色	密	外)頂部不規則	内ナデ・共ナデ
51	5	甕	18.4	7.8		良好	淡褐色	密	同上	調整不明

第6章 「吉谷龜尾前遺跡調査における自然科学分析」

文化財調査コンサルタント株式会社

まえがき

吉谷龜尾前遺跡は鳥取県米子市吉谷町地内に立地する遺跡である。

当調査業務は、米子市教育文化事業団が文化財調査コンサルタント株式会社に委託して実施したものである。

当分析調査では、遺跡近辺での古植生復元および堆積環境の推定を目的として、花粉分析およびプラントオパール分析を実施した。

1 分析試料について

平面図・土層図は、米子市教育文化事業団（埋蔵文化財調査室）より提供を受けた原図とともに作成した。土層の説明は、米子市教育文化事業団（埋蔵文化財調査室）の観察に従った。また、各種分析試料は米子市教育文化事業団（埋蔵文化財調査室）と協議の上、文化財調査コンサルタント（株）が採取したものである。

1-1 調査区配置および試料採取地点

図1-1に試料採取を行った平面図を示す。「●」で分析用試料を採取した。

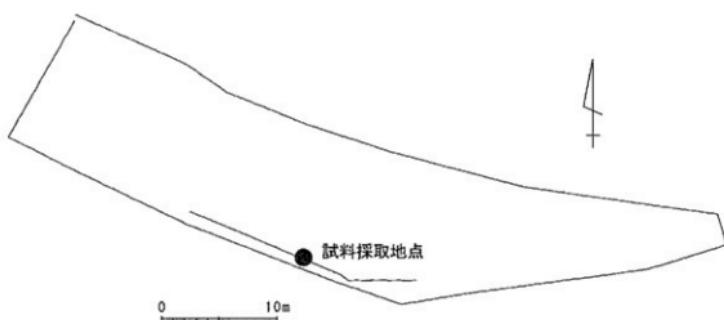
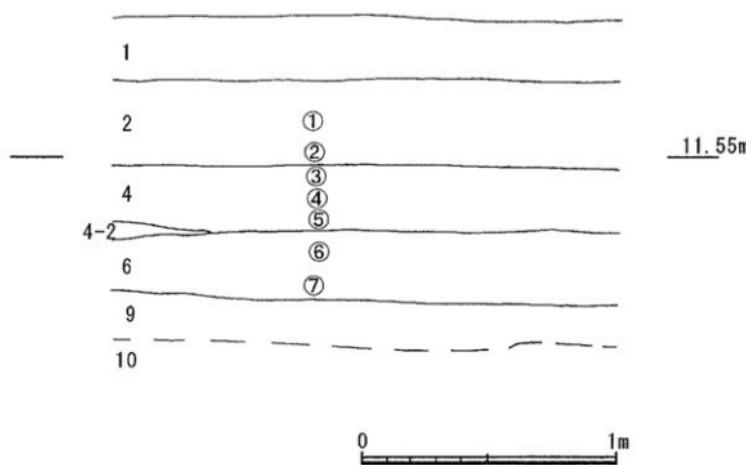


図1-1 試料採取地点

1-2 試料採取層準

図1-2に土層図を示す。①～⑦で試料を採取した。



1：耕作土 2：旧耕作土（暗灰色粘土）鉄分含み固くしまる 4：やや淡い黒灰色粘土

4-2：4より若干粘性強 6：黒色粘土 9：灰白色粘土（6と10の混じり層）

図1-2 1区No.1地点の土層図

2 分析方法

2-1 花粉分析方法

(1) 原理

粘土層などの堆積物や遺跡の土壤には、動物性もしくは植物性の微小な化石（＝微化石）が含まれており、それらを物理・化学的処理によって抽出し、顕微鏡で化石の種類や数を検定し、種々の目的にそった調査を行う方法が微化石分析であって、花粉分析はそのひとつである。

堆積物に含まれる花粉化石は、その堆積当時陸上に生育した樹木や草が生産した花粉が、水系や大気系を経由して堆積物粒子とともに埋積したものである。

陸上に生育する樹木や草、つまり“植生”は気候の変化や時代とともに変化し、その変化が堆積物中の花粉化石の構成や量の変化として反映する。

従って、花粉構成や消長データは、地層の識別や対比、古植生の復元に利用することができる。

(2) 分析処理法

① 分析試料

分析に供する試料は、シルト又は粘土で、その量は10—200 g（湿潤重量）である。試料は花粉化石の形状を保持するため湿潤状態のまま使用する。

分析に供する試料の採取間隔は、堆積層の状態と目的によって数センチメートルから数メートルと異なるが、遺跡調査の場合は、一般に遺物に基づく土層区分に対応した採取間隔をとることが多い。

② 分析処理

分析処理の手順は図2-1に示す分析フローのとおりである。1ミクロン振動マイクロフィルターを使用することによって、粒径処理を確実にするとともに、処理過程の再現性を高めている。

分析処理に要する薬品・器具設備の概要は以下のとおりである。

- 1) 処理薬品 : 水酸化カリウム、硫酸、フッ化水素、塩化亜鉛 他
- 2) 処理器具、設備 : 遠心分離機、振動マイクロフィルター、他一般分析器具

③顕微鏡による検定・計数

抽出した花粉化石はグリセリンゼリーと混合してスライドグラス上に滴下し、カバーグラスをかけて封入してプレパラートとする。各試料につき2~3枚のプレパラートを作成する。プレパラートを顕微鏡（パノックスAHBLB1万能顕微鏡）により400~1000倍率で観察し、メカニカルステージによる帶分析で通常木本花粉で100個から250個の検定、計数を行い、同時に出現する草本花粉の検定、計数も行う。

(3) 解析法

花粉分析結果の解析は以下の手順で進める。

- 1) 各花粉種類の出現率（パーセント表示）計算と花粉ダイアグラムの作成
- 2) 各地点における花粉消長パターンの読みとりと花粉帶分帯
- 3) 地層対比や古植生・古気候の復元

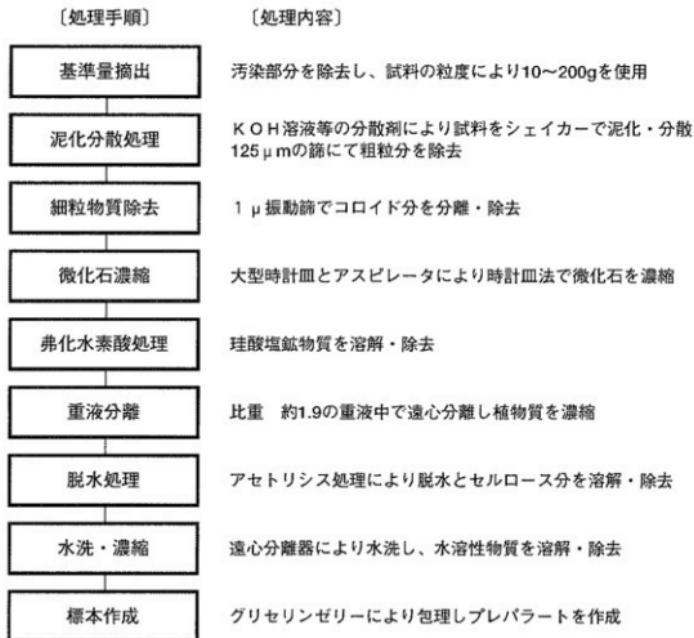


図2-1 花粉分析処理フロー

2-2 プラント・オパール分析方法

(1) 分析処理

分析処理の手順は、図2-2に示す分析フローのとおり行った。

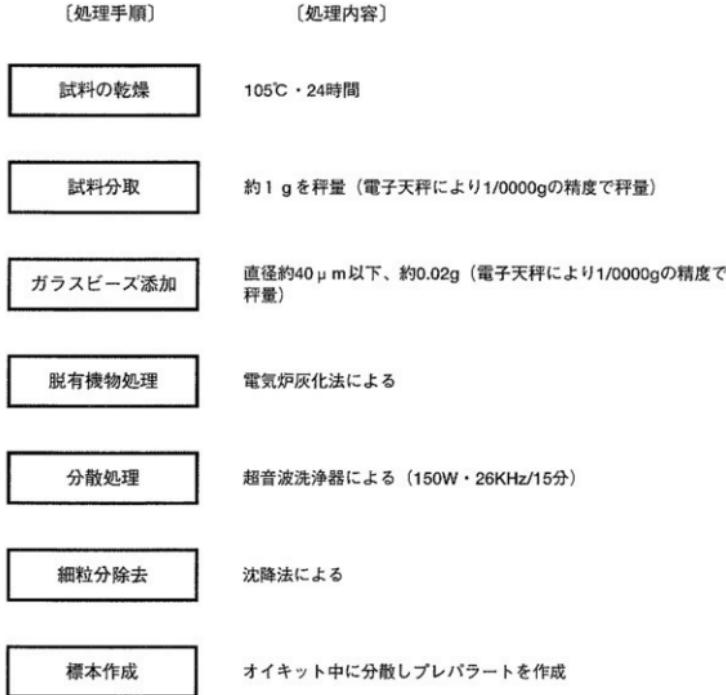


図2-2 プラント・オパール分析処理フロー

(2) 顕微鏡による検定・計数

同定はイネ科のうち、イネのほか数種類のプラント・オパールを対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行う。計数は、ガラスピース個数が300以上になるまで行った。試料1gあたりのガラスピース個数に、計数されたプラント・オパールとガラスピース個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求める。

3 分析結果

3-1 微化石概査結果

花粉分析用プレパラート、および花粉分析処理残渣を用いた微化石の概査結果は、表3-1とおりである（植物片、炭は花粉分析用プレパラートを観察した。珪藻、火山ガラス、植物珪酸体は、花粉分析処理の残渣を観察した）。

表3-1 微化石概査結果

試料No.	花 粉	炭	植物片	珪 藻	火山ガラス	プラント・オパール
1	○	△×	△×	○	△	○
2	○	△×	△×	○	△×	○
3	○	△	△×	○	○	○
4	○	△	△×	○	△	○
5	○	△×	△×	○	△	○
6	○	○	△×	○	△	○
7	○	○	△×	○	△	○

凡例 ○：十分な数量が検出できる

○：少ないが検出できる

△：非常に少ない

△×：極めてまれに検出できる

×：検出できない

3-2 花粉分析結果

（1）花粉化石の含有状況

7試料の花粉分析を行った結果、全ての試料から統計処理に十分な量の花粉化石が検出された。

（2）検出された花粉化石の種類

検出された花粉化石は表3-2に示す52種類であった。これらのうち、全試料を通じて花粉組成を特徴づける種類は、以下に示すようなものであった。

① 卓越木本花粉

マツ属（複維管束亞属）、スギ属、アカガシ亜属、コナラ亜属

② 卓越草本花粉（栽培種および栽培の可能性のあるものを含まない）

カヤツリグサ科、イネ科（40ミクロン未満）、アブラナ科、ヨモギ属

③ 栽培種花粉（栽培の可能性のあるものを含む）

イネ科（40ミクロン以上）、ソバ属、ソラマメ属

表3-2 検出花粉化石の種類一覧表

[樹木花粉種類]

8 Abies	(モミ属)
13 Pinus(Diploxyylon)	(マツ属：複維管束亞属)
23 Tsuga	(ツガ属)
24 Sciadopitys	(コウヤマキ属)
26 Cryptomeria	(スギ属)
27 Cupressaceae	(ヒノキ科)
46 Juglans-Pterocarya	(クルミ属—サワグルミ属)
50 Alnus	(ハンノキ属)
51 Betula	(カバノキ属)
53 Carpinus-Ostrya	(クマシデ属—アサダ属)
54 Corylus	(ハシバミ属)
58 Castanopsis-Pasania	(シイノキ属—マテバシイ属)
59 Fagus	(ブナ属)
61 Cyclobalanopsis	(アカガシ亚属)
62 Quercus	(コナラ亚属)
65 Aphananthe-Celtis	(ムクノキ属—エノキ属)
66 Ulmus-Zelkova	(ニレ属—ケヤキ属)
69 Moraceae-Urticaceae	(クワ科—イラクサ科)
71 Salix	(ヤナギ属)
93 Zanthoxylum	(サンショウ属)
98 Acer	(カエデ属)
99 Aesculus	(トチノキ属)
100 Ilex	(モチノキ属)
103 Oleaceae	(モクセイ科)
109 Araliaceae	(ウコギ科)
133 Lonicera	(スイカズラ属)

[草本花粉種類]

202 Alisma	(サジオモダカ属)
203 Sagittaria	(オモダカ属)
207 Typha	(ガマ属)
208 Liliaceae	(ユリ科)
223 Aneilema	(イボクサ属)
230 Cyperaceae	(カヤツリグサ科)
232 Gramineae (<40)	(イネ科：40ミクロン未溝)
233 Gramineae (>40)	(イネ科：40ミクロン以上)
255 Ranunculaceae	(キンポウゲ科)
257 Thalictrum	(カラマツソウ属)
263 Cruciferae	(アブラナ科)
269 Caryophyllaceae	(ナデシコ科)
270 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	(アカザ科—ヒユ科)
276 fagopyrum	(ゾバ属)
279 Echinocaulon-Persicaria	(ウナギツカミ節—サナエタデ節)
282 Rumex	(ギシギシ属)
289 Fabaceae	(マメ科)
292 Vicia	(ソラマメ属)
295 Vitaceae	(ブドウ科)
298 Umbelliferae	(セリ科)
300 Rotala	(キカシグサ属)
322 Patrinia	(オミナエシ属)
340 Lamiaceae	(シソ科)
347 Carduoideae	(キク亜科)
349 Artemisia	(ヨモギ属)
350 Cichorioideae	(タンボボア科)

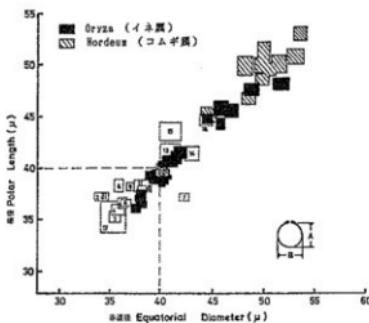
(3) イネ科の細分について

イネ科花粉を粒径から、40ミクロン以上と40ミクロン未満に区分した。

稻作が行われる前の自然堆積物では、イネ科（40ミクロン未満）花粉が高率となることはあるが、イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることはほとんどない。これに対し、稻作が広範に行われたと考えられる弥生時代以降においては、自然堆積物でもイネ科（40ミクロン以上）花粉が高率となることが多くなる。さらに稻作遺構での分析結果では、ほとんどの場合イネ科（40ミクロン以上）花粉が高率で検出される。

一方図3-1に示すように、イネ科（40ミクロン以上）花粉はイネ属（Oryza）を含んでいながら、すべてがイネ属であるわけではない。

これらの状況証拠と事实から、弥生時代以降に高率で検出されるイネ科（40ミクロン以上）花粉について、すべてがイネ属に由来するわけではないが、その多くはイネ属に由来すると推測される。



図中のイネ・コムギ以外のイネ科】

1. Zizania latifolia (マコモ)
2. Imperata cylindrica var. koenigii (チガヤ)
3. Triisetum bifidus (カニコリグサ)
4. Arthraxon hispidus (コナグサ)
5. Digitaria adscendens (メヒシバ)
6. Echinochloa crusgalli subsp. edulis
7. Polypogon australiensis (ヒシガエリ)
8. Phalaris arundinacea (オサコシ)
9. Beckmannia syzigachne (カズノコグサ)
10. Echinochloa crusgalli var. longisteta
11. Alopecurus aequalis var. austrensis (スズメノテッポウ)
12. Echinochloa crusgalli
13. Paspalum thunbergii
14. Alopecurus japonicus
15. Echinochloa crusgalli var. oryzicola
16. Agropyron ciliare var. minus (アオカモジグサ)
17. Phragmites communis (アシ)

図3-1 イネ科花粉の粒径比較図（中村,1974）

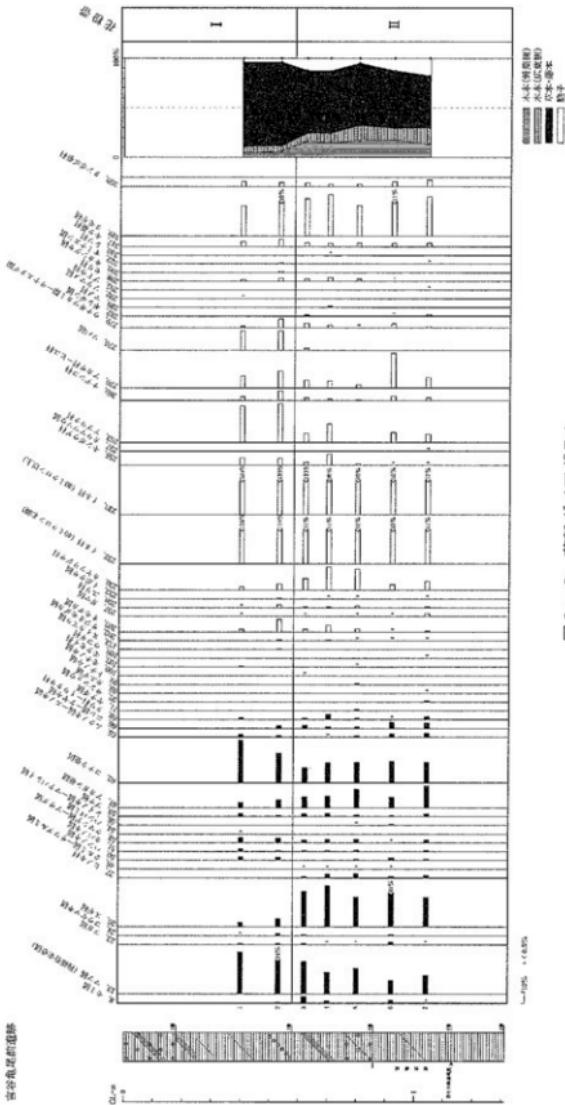


図3—2 花粉ダイアグラム

表3-3 花粉化石組成表

試料番号		1	2	3	4	5	6	7
8 Abies	モミ属	2	12	5	2	0	3	1
13 Pinus(Diploxyylon)	マツ属：複維管束亞属	74	87	50	41	40	23	33
23 Tsuga	ツガ属	30%	44%	28%	19%	23%	11%	16%
24 Sciadopitys	コウヤマキ属	2	2	1	1	1	1	1
26 Cryptomeria	スギ属	1	4	2	0%	0%	2%	0%
27 Cupressaceac	ヒノキ科	0%	22%	1%	1%	1%	1%	1%
46 Juglans-Pterocarya	クルミ属—サワグルミ属	6	4	65	79	54	45	54
50 Alnus	ハンノキ属	3%	3%	3%	2%	2%	2%	1%
51 Betula	カバノキ属	5	2	2	2	2	2	2
53 Carpinus-Ostrya	クマシテ属—アサダ属	2%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
54 Corylus	ハシバミ属	9	8	5	6	6	1	5
58 Castanopsis-Pasania	シノキ属—マテバシイ属	4%	4%	2%	3%	4%	1%	2%
59 Fagus	ブナ属	6	2	5	6	3	2	5
61 Cyclobalanopsis	アカガシ亜属	3%	1%	2%	1%	1%	1%	1%
62 Quercus	コナラ亜属	9	14	20	24	19	10	10
65 Aphananthe-Celtis	ムクノキ属—エノキ属	76	51	28	38	40	38	37
66 Ulmus-Zelkova	ニレ属—ケヤキ属	37%	26%	13%	17%	18%	18%	18%
69 Moraceae-Urticaceae	クワ科—イラクサ科	4%	4%	3%	3%	2%	1%	1%
71 Salix	ヤナギ属	1	1	1	4%	3	0%	2%
93 Zanthoxylum	サンショウ属	1	2	1	1	1	1	1
98 Acer	カエデ属	1	1	1	1	1	1	0%
99 Aesculus	トチノキ属	1	1	1	1	1	1	1
100 Ilex	モチノキ属	2	1%	0%	1	0%	1	0%
103 Oleaceae	モクセイ科	1	1	1	1	1	1	1
109 Araliaceae	ウコギ科	1	1	1	1	1	1	1
133 Lonicera	スイカズラ属	1%	1%	1%	1%	1%	1%	1%
202 Alisma	サジオモダカ属	2	2	2	1	1	1	1
203 Sagittaria	オモダカ属	5	22	5	13	6	1	1
207 Typha	ガマ属	2%	11%	2%	6%	3%	0%	1%
208 Liliaceae	ユリ科	1	1	1	1	1	1	1
223 Aneilema	イボクサ属	0%	5%	1%	0%	0%	1%	1%
230 Cyperaceae	カヤツリグサ科	6	1	22	44	42	10	10
232 Gramineae(<40)	イネ科：40ミクロン未満	3%	6%	10%	20%	19%	5%	5%
233 Gramineae(>40)	イネ科：40ミクロン以上	279	227	86	113	117	100	86
255 Ranunculaceae	キンポウゲ科	13%	14%	4%	5%	5%	4%	4%
257 Thalictrum	カラマツソウ属	13	12	5	21	3	1	1
263 Cruciferae	アブラナ科	6%	6%	2%	10%	1%	0%	0%
269 Caryophyllaceae	ナデシコ科	7	17	5	2	8	5	5
270 Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科—ヒユ科	3%	0%	2%	1%	1%	4%	3%
276 Fagopyrum	ゾバ属	21	20	14	13	6	6	10
279 Echinocaulon-Persicaria	ウナギツカミ節—サナエタデ節	10%	15%	7%	6%	3%	3%	3%
282 Rumex	ギシギシ属	3	15	6%	5	1	1	1
289 Fabaceae	マメ科	1%	1	1	1	1	1	1
292 Vicia	ソラマメ属	1	1	1	1	1	1	1
295 Vitaceae	ブドウ科	0%	1	1	1	1	1	1
298 Umbelliferae	セリ科	3	5	4	7	4	1	0%
300 Rotala	キカシグサ属	1%	2	1	1	1	1	1
322 Patrinia	オミナエシ属	1%	4	1	1	1	1	1
340 Lamiaceae	シソ科	1	1	1	1	1	1	1
347 Carduoideae	キク亜科	9	13	7	6	7	6	6
349 Artemisia	ヨモギ属	4%	7%	3%	3%	3%	3%	3%
350 Cichorioideae	タンボポ亜科	54	97	68	70	70	84	71
402 MONOLATE-TYPE-SPORE	單条孔胞子	26%	40%	32%	36%	26%	41%	34%
403 TRILATE-TYPE-SPORE	三条孔胞子	S1	39	86	78	19	45	49
		25%	41%	30%	35%	25%	32%	25%
		30	28	21	38	10	43	76
		14%	14%	10%	17%	7	21%	36%
木本花粉総数		207	200	212	221	225	206	210
草本花粉総数		11%	12%	25%	25%	32%	30%	30%
胞子総数		1628	1445	539	565	439	404	369
		89%	63%	63%	63%	63%	54%	52%
		91	67	107	117	39	42	33
		4%	4%	12%	13%	5%	13%	18%

(4) 分析結果

花粉分析の結果を、下記の花粉ダイアグラムと花粉化石組成表に示す。

花粉ダイアグラムでは、計数した木本花粉を基數にし、各々の木本花粉、草本花粉について百分率を算出してスペクトルで表した。

右端の花粉総合ダイアグラムでは、木本花粉を針葉樹花粉、広葉樹花粉に細分し、これらに草本花粉、胞子の総数を加えたものを基數として、それぞれの分類群毎に累積百分率として示した。

〔花粉ダイアグラム〕

図3-2 花粉ダイアグラム

〔花粉化石組成表〕

表3-3 花粉化石組成表

花粉組成の特徴を以下に示す。また、花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向かって記す。

試料No.7～3では、スギ属が26～41%と高率を示すほか、マツ属（複維管束亞属）が11～28%と増加傾向を示し、アカガシ亞属は19～9%と減少傾向を示すほか、コナラ亞属が13～18%で安定した出現傾向を示す。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が46～133%の出現率を示すほか、イネ科（40ミクロン未満）も50%程度の出現率を示す。この他カヤツリグサ科、ヨモギ属が高い出現率を示す。

試料No.2、1では、マツ属（複維管束亞属）が36、44%、コナラ亞属が26、37%と高率を示す。草本花粉ではイネ科（40ミクロン以上）が400%を超えるほか、イネ科（40ミクロン未満）も100%を超える出現率を示す。また栽培種のソバ属も17%と比較的高率を示す。

3-3 プラント・オパール分析結果

(1) プラント・オパール化石の含有状況

5試料のプラント・オパール分析を行った結果、全ての試料から充分な量のプラント・オパール化石が検出された。検出されたプラント・オパール化石は表3-4に示す4種類である。

(2) プラント・オパール分析結果

イネ科の分類可能な種類のうち、水田耕作の推定に重要な4種類について計数を行った。その結果、表3-4に示すとおり4種類全てが検出され、計数を行った。プラント・オパール分析の結果を、下記のプラント・オパールダイアグラムとプラント・オパール分析組成表に示す。

表3-4 検出プラント・オパール化石種類一覧表

2 イネ
5 ヨシ属
14 ススキ属型
50 タケ亜科

表3-5 プラント・オパール化石組織表

	2	3	5	6	7
2 イネ	1 7 0.2	3 23 0.67	2 12 0.36	1 8 0.22	
5 ヨシ属	1 7 0.43	2 15 0.95	1 6 0.38		
14 ススキ属型	9 61 0.76	12 91 1.12	12 73 0.9	11 84 1.04	7 71 0.88
50 タケ亜科	13 88 0.42	28 212 1.02	30 181 0.87	36 274 1.32	13 132 0.63
プラント・オパール総数	24	45	45	48	20
カウントガラスピース数	450	400	500	400	300
カウント総数	474	445	545	448	320
試料重量（×0.0001g）	7000	7000	6999	6999	6999
ガラスピース重量（×0.0001g）	116	115	115	116	116

上段 検出個数

中段 検出密度（単位；×100個/g）

下段 推定生産量（単位；kg/m²・cm）

(3) プラント・オパール組成の特徴

分析を行った5試料の内、試料No.7を除く4試料でイネが検出できた。ただし、検出量は2300粒/gまでと比較的少量であった。

4 考察

4-1 花粉分帯

花粉分析の結果を基に局地花粉帯を設定した。以下に各花粉帯の特徴を示す。また、本文中では花粉組成の変遷を明らかにするために、下位から上位に向けて記載し、試料No.も下位から上位に向かって記した。

(1) II帯（試料No. 7～3）

スギ属が卓越し、マツ属（複維管束亜属）、アカガシ亜属、コナラ亜属を伴う。これらのうちマツ属（複維管束亜属）は増加傾向を示し、アカガシ亜属は減少傾向を示す。

(2) I帯（試料No. 2、1）

マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が卓越する。

4-2 各花粉帯の示す年代について

(1) II帯

9層上面の弥生時代中期の遺構面を覆う、古墳時代前期の遺物を含む6層と、さらに上位の4層からなる。

II帯はスギ属が卓越することから渡辺ほか（2003）のアカガシ亜属—シイノキ属帯スギ亜帯に対比可能である。またアカガシ亜属—シイノキ属帯スギ亜帯は、およそ3000yr.B.P.頃以降、古墳時代から中世の植生を表すと考えられている。

以上のことから今回のII帯は、弥生時代中期から中世頃までの植生を表していると考えられる。

(2) I帯

現地での観察で旧耕作土と推定された2層からなるが、時期について明確でなかった。

I帯ではマツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属が卓越し、從来米子市内で得られた花粉組成とは異なる傾向であった。スギ属が低率であることから、アカガシ亜属—シイノキ属帯スギ亜帯より上位に対比される。またアカガシ亜属が低率であることから、コナラ亜属が高率であるもののイネ科花粉帯マツ属亜帯に対比される可能性が高い。イネ科花粉帯マツ属亜帯は中世末から近世にかけての植生を示すと考えられており、I帯は中世末から近世にかけての植生を示すと考えられる。

4-3 古環境変遷

(1) II带期（弥生時代中期から中世頃）

①調査地近辺

草本花粉でイネ科（40ミクロン以上）が高率を示し、調査地近辺での稲作が示唆される。

下部の6層は腐植質粘土で、イネ科（40ミクロン未満）、カヤツリグサ科なども高率を示し、イネのプラント・オパールの検出量が少い。これらのことから、6層堆積時に調査地点は湿地であり、周辺に存在した水田からイネ科（40ミクロン以上）花粉が混入した可能性が高い。ただし、調査地点が水田であった可能性も若干残る。

上部の4層は細砂からシルトから成る。下部の6層同様イネ科（40ミクロン未満）、カヤツリグサ科なども高率を示す。一方、イネ科（40ミクロン以上）花粉は増加傾向を示し、イネのプラント・オパールの検出量も少ないものの最上部の試料No.3で小ピークを成す。4層下部の堆積時には、調査地点は引き続き湿地であった可能性が高い。しかし、4層上部堆積時には周辺の開発が進み、調査地点近辺にも水田が広がっていったと考えられる。

②周辺の丘陵

人間活動が活性化することにより、低地ばかりでなく丘陵から山地の開発も進み、従来カシ類、シイ類を主要要素としていた照葉樹林が伐採され、アカマツ林やコナラ林などの二次林に変わっていたと考えられる。また、アカマツ林、コナラ林は現在の代表的な里山（薪炭林）の姿であり、中世という時期を考えると、この時期の後半には周辺の丘陵あるいは中国山地縁辺は里山として管理されていた可能性もある。一方この時期のスギ属の卓越傾向は、米子市西部の日久美遺跡（渡辺ほか、2003）、淀江平野でも（渡辺ほか、2000）認められている。この時期（あるいは直前におこった）いわゆる弥生の小海退の影響で砂州あるいは扇状地が急激に発達し、本来山地斜面などに分布するスギが、平地（扇状地上）にも分布するようになったと考えられる。

(2) II带期（弥生時代中期から中世頃）

①調査地近辺

草本花粉でイネ科（40ミクロン以上）花粉の出現率が極めて高い。イネプラント・オパールの検出量は少ないものの、調査地での稲作が示唆される。また、ソバ属花粉も10%を超す出現率を示し、畦や休耕田を利用したソバ栽培が推定できる、その他花粉が検出されることからマメ類（ソラマメ類）、ナタネ類（アブラナ科花粉）についても栽培の可能性が示唆される。

②周辺の丘陵

スギ属花粉が激減しており、前時期に見られた扇状地上のスギ林は伐採・開墾され田畠へと変わった可能性が高い。一方マツ属（複維管束亜属）、コナラ亜属花粉が卓越傾向にあり、周

吉谷龜尾前遺跡

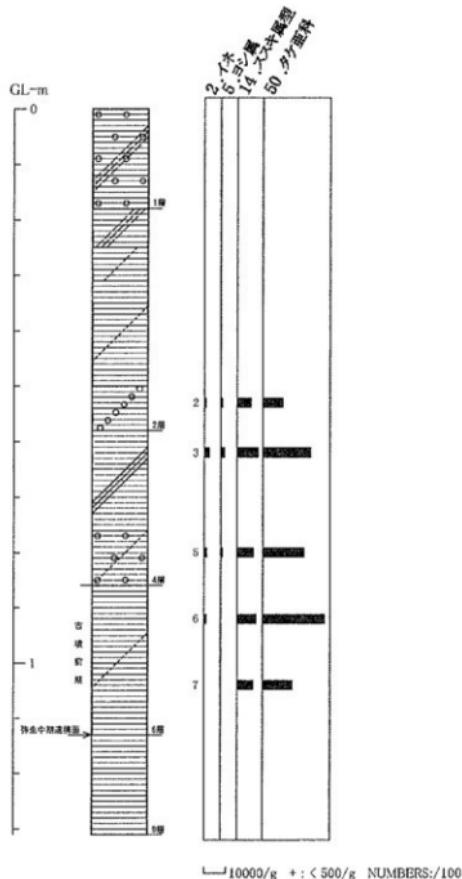


図4-3 プラント・オパールダイアグラム

辺の丘陵から中国山地縁辺にかけてはアカマツ、ナラ類を主要素とする薪炭林（里山）で被われていたと考えられる。

5 まとめ

吉谷龜尾前遺跡発掘調査に伴う自然科学分析（花粉分析、プラント・オパール分析）を基に・遺跡周辺地域の古環境変遷を推定した。特筆すべき点は以下の事柄である。

- ①花粉分析結果より、局地花粉帯Ⅱ、Ⅰ帯の2帯を設定した。
- ②各花粉帯と目久美遺跡の花粉帯の対比を行い、それぞれの花粉帯が示す時期を検討した。
- ③弥生時代中期以降の古環境変遷を推定した。特筆すべき点は以下の事柄である。

1) 調査地点は・Ⅱ帯前半には湿地であったのが、Ⅰ帯後半には水田へと変化したと考えられる。

2) Ⅰ帯期には周辺には水田が広がり、ソバ、マメ類、ナタネ類などが裏作などの形態で栽培されていたと考えられる。

3) 中世以降・里山（薪炭林）の要素であるマツ属（複維管束亞属）、コナラ亜属花粉が卓越した。コナラ亜属花粉を伴うこの花粉組成は、従来の目久美遺跡では認められなかった事柄である。

6 引用文献

- 中村 純（1974）イネ科花粉について、とくにイネを中心として、第四紀研究、13、187–197。
渡辺正巳・中村唯史・荒川賢太（2000）淀江平野の完新世古環境変遷、島根大学地球資源環境学研究報告、31–35、島根大学地球資源環境学教室。
渡辺正巳・佐伯純也・平木裕子（2003）目久美遺跡発掘調査における花粉層序の成果、鳥取地学会誌、7、1–9。

図版

図版1（吉谷龜尾前遺跡）



調査前風景



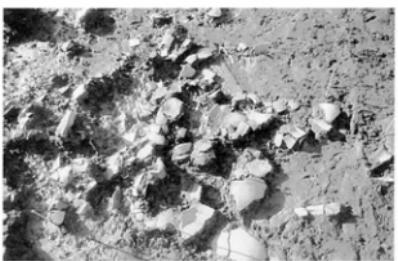
遺物出土状況



遺物出土状況



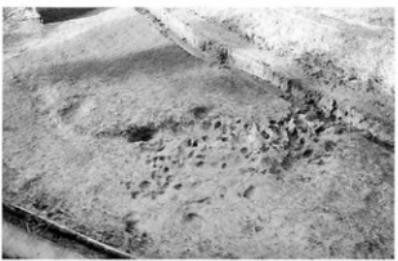
遺物出土状況



遺物出土状況



作業風景



SD-01



SK-02

図版2
(吉谷龜尾前遺跡)



SK-01 (南側より)



SK-01 (東側より)



SK-01粘土除去後 (南側より)



SK-01断面



SK-01粘土除去後 (西側より)



調査後状況 (西側より)

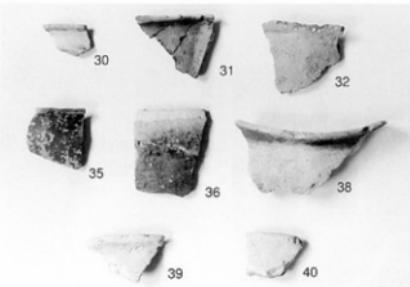
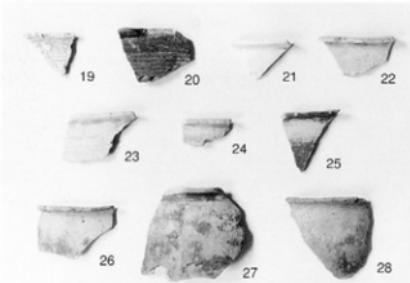
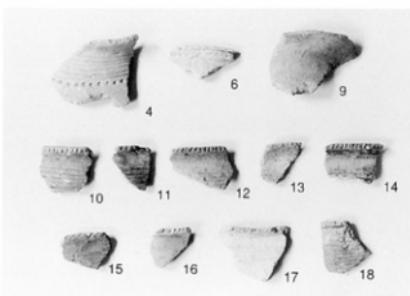
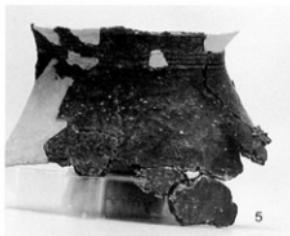
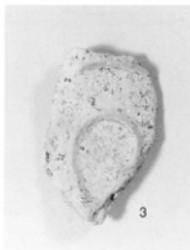


調査後状況 (東側より)

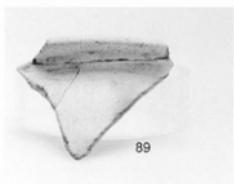
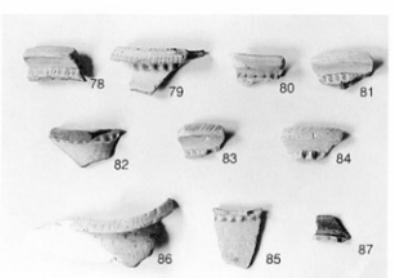
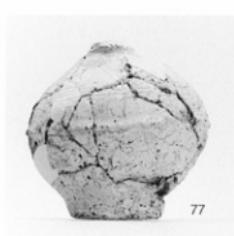
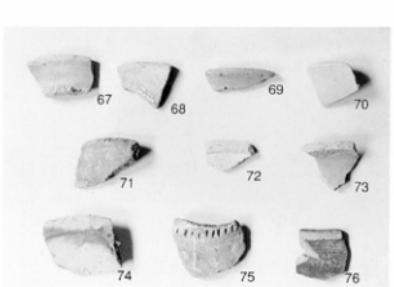
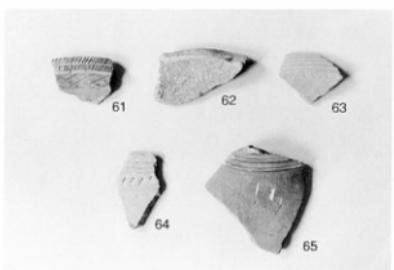
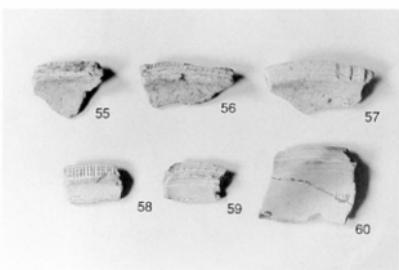
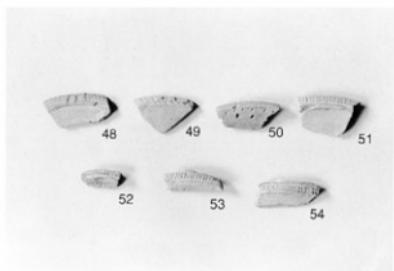
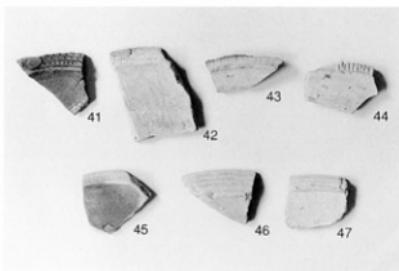
図版3（吉谷龜尾前遺跡）



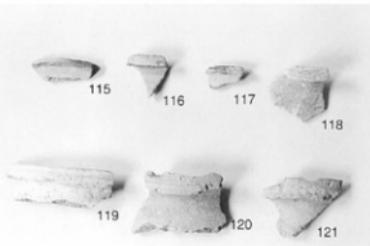
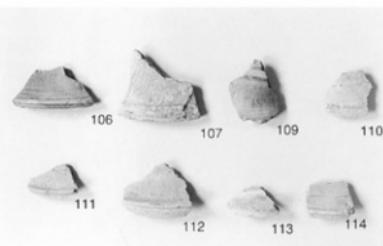
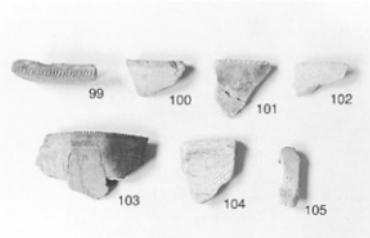
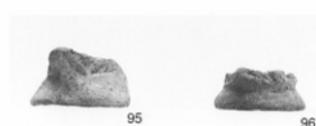
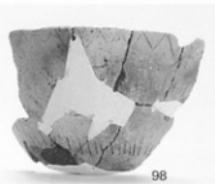
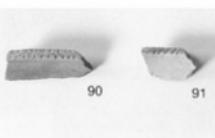
図版4
(吉谷龜尾前遺跡)



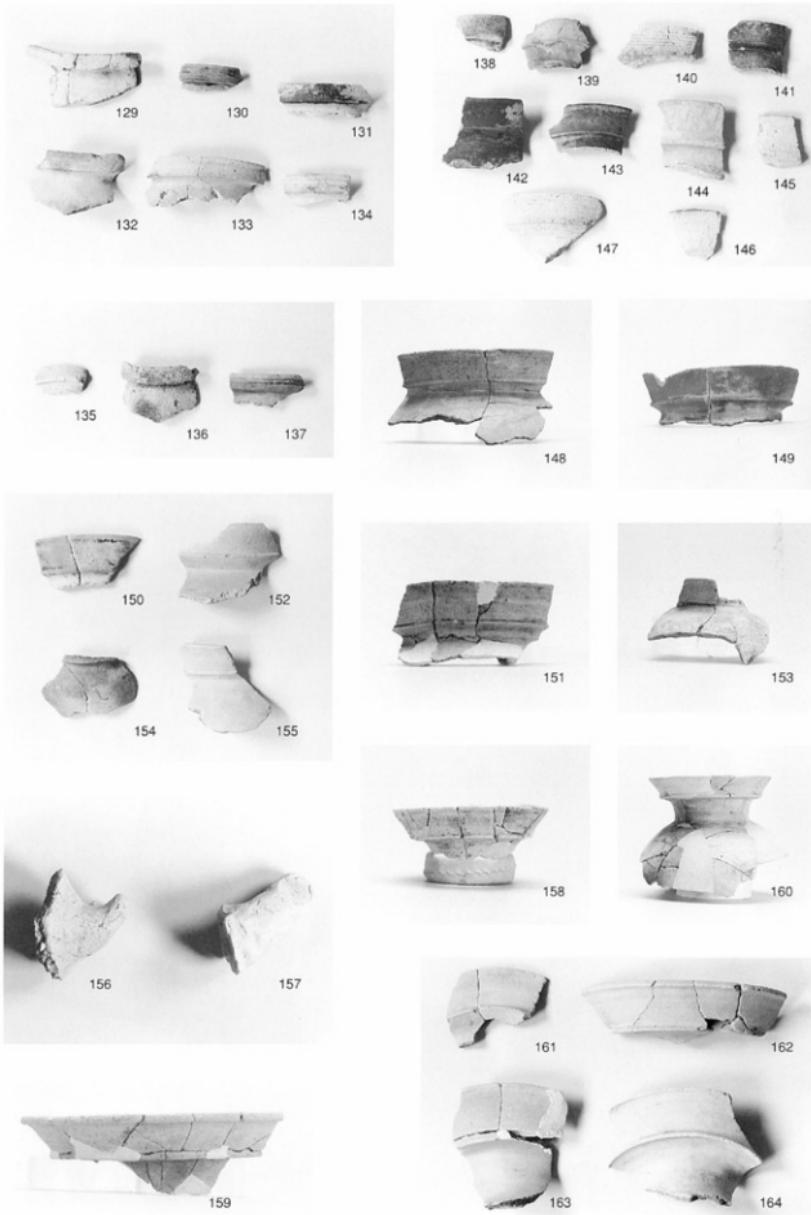
図版 5
(吉谷龜尾前遺跡)



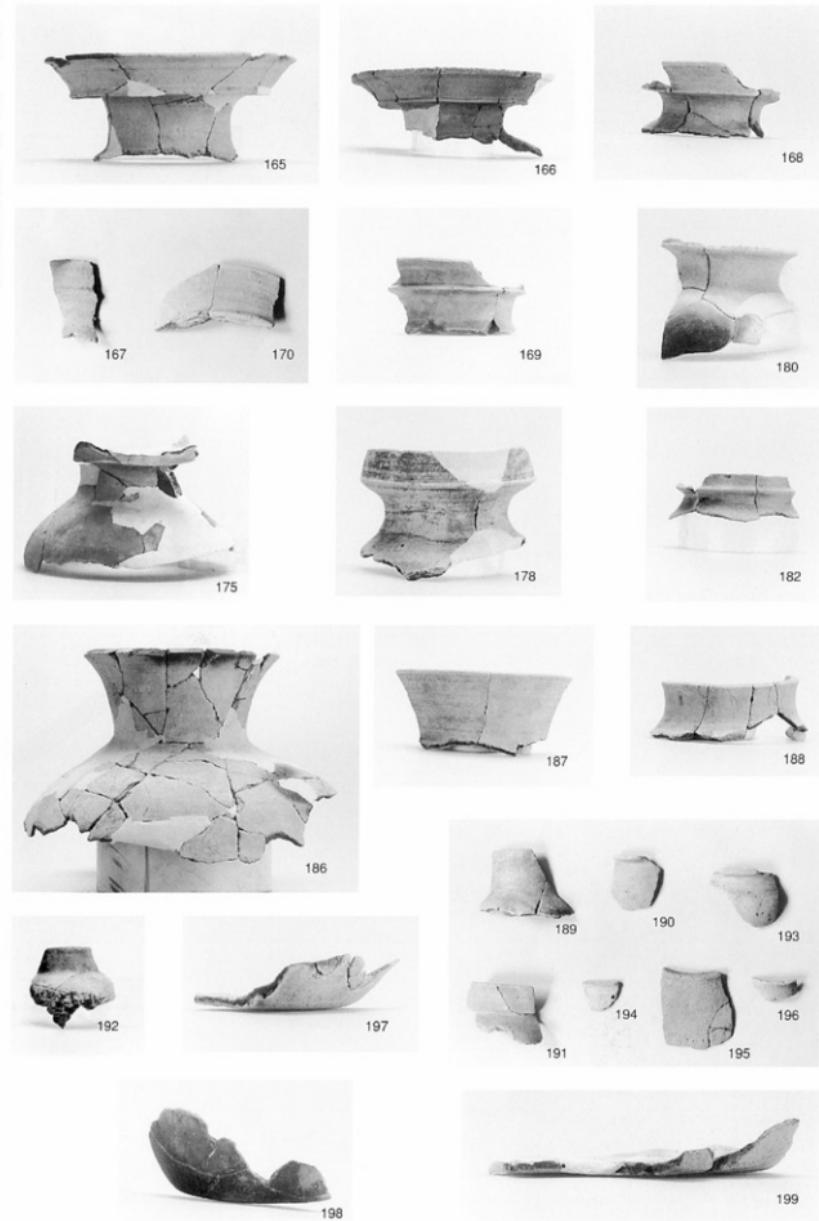
図版6
(吉谷龜尾前遺跡)



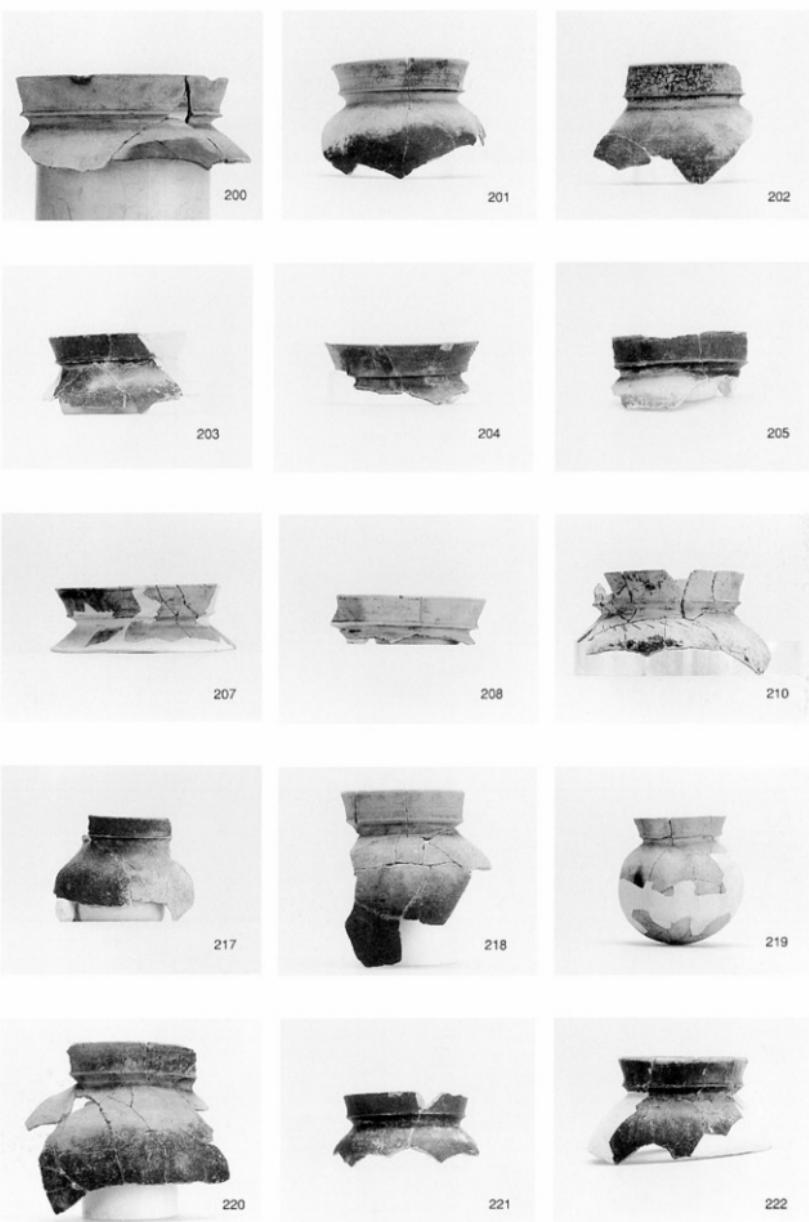
図版7 (吉谷龜尾前遺跡)



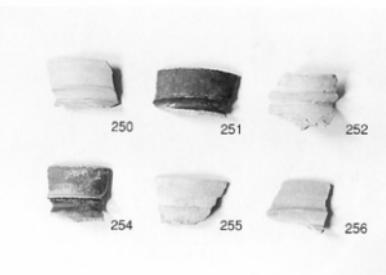
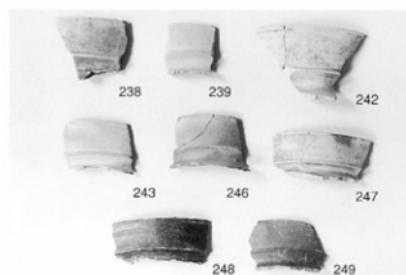
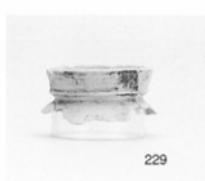
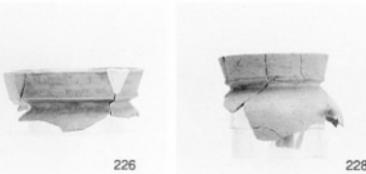
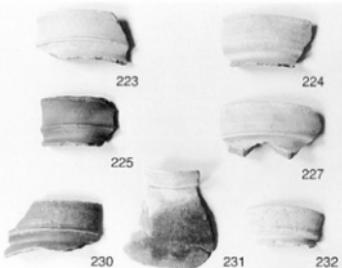
図版 8 (吉谷龜尾前遺跡)



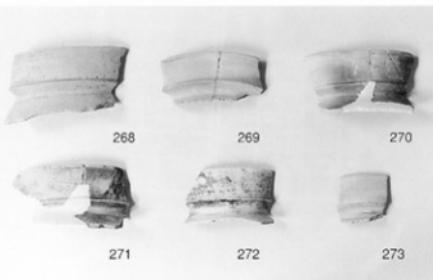
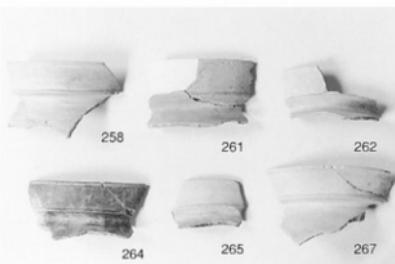
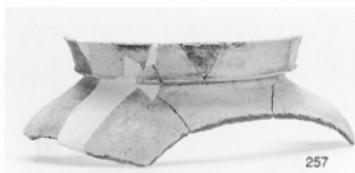
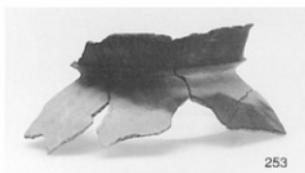
図版 9 (吉谷龜尾前遺跡)



図版 10
(吉谷龜尾前遺跡)



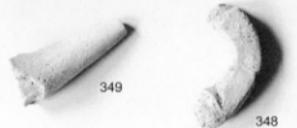
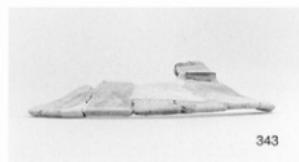
図版 11
(吉谷龜尾前遺跡)



図版 12
(吉谷龜尾前遺跡)



図版 13
(吉谷龜尾前遺跡)



図版 14
(吉谷龜尾前遺跡)



352



353



354



358



359



360



362



364



365



363



366



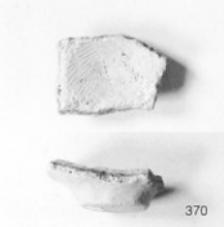
368



369



371



370

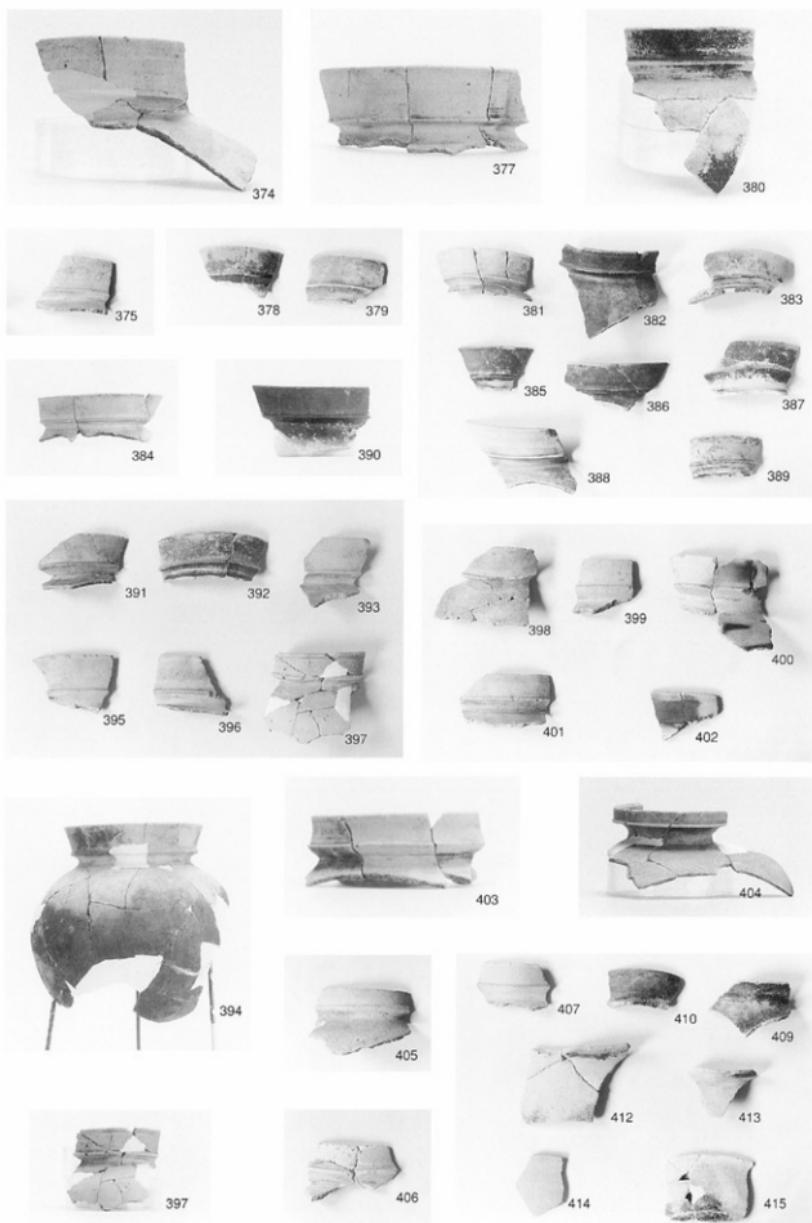


373



372

図版 15
(吉谷龜尾前遺跡)



図版 16
(吉谷龜尾前遺跡)



408



411



416



421



P3



430



431



422



423



424



432



433



434



425



426



428



429



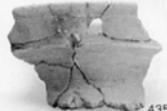
436



438



439



435



437



442



440

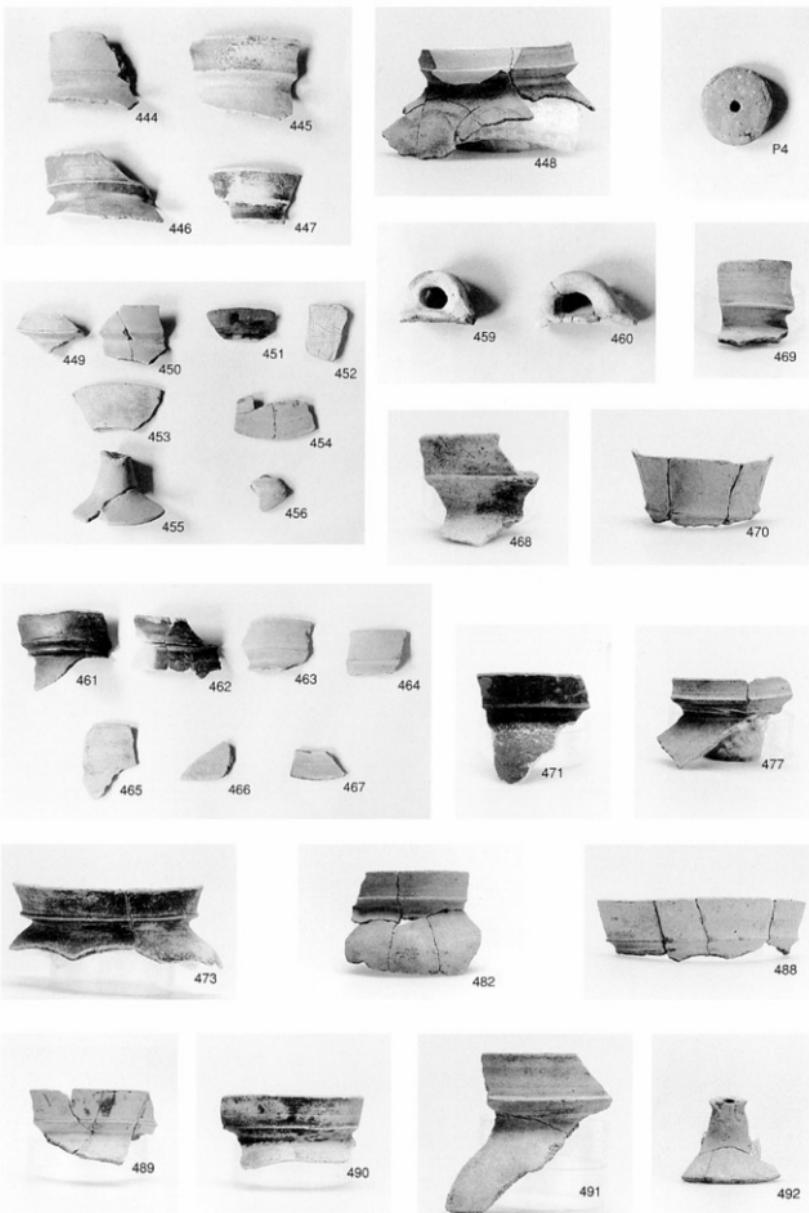


441



443

図版 17
(吉谷龜尾前遺跡)



図版 18
(吉谷龜尾前遺跡)



495



497



503



501



508



509



515



516



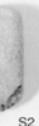
517



S1



S3



S2



S9



S4



S10



S11



S12



S13



S8



P5

図版19
(吉谷龜尾前遺跡)



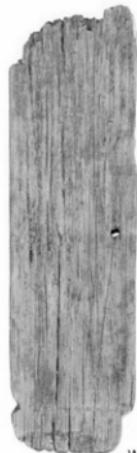
W9



W17



W18



W10



W11



W12

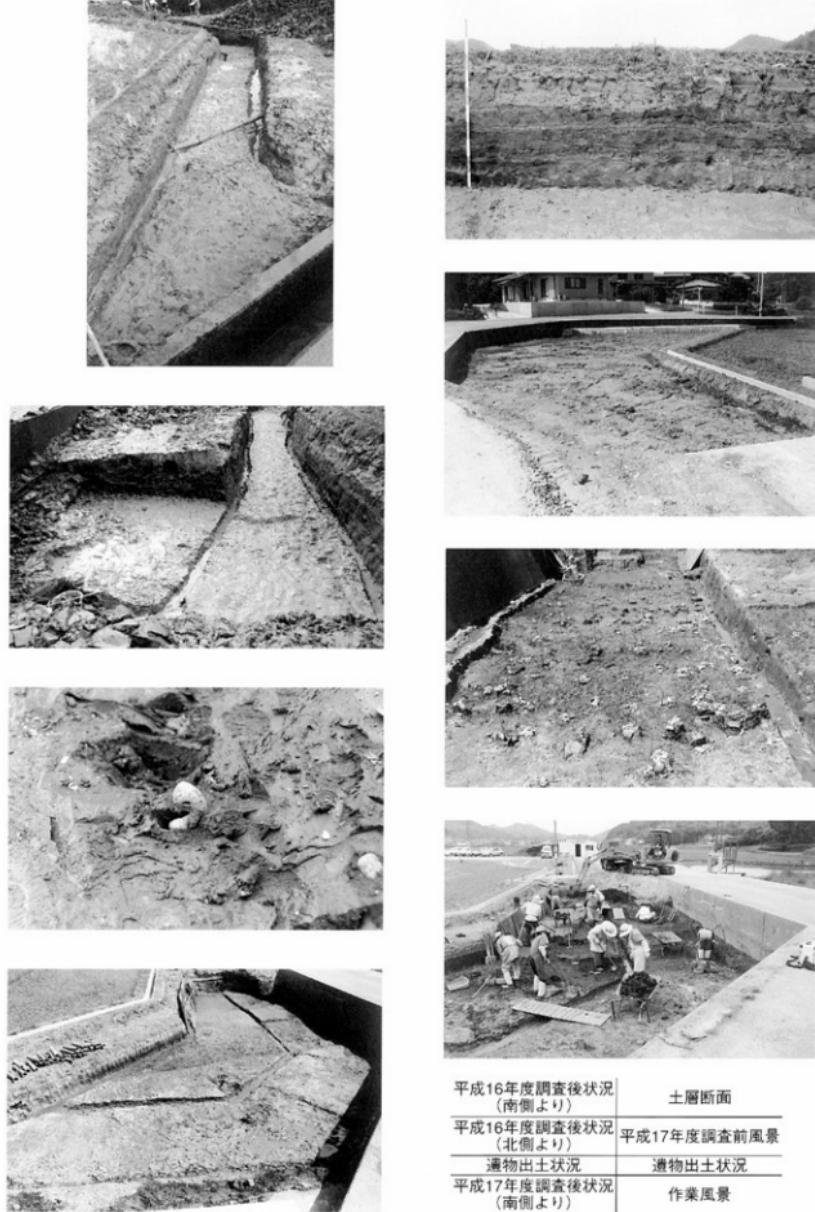


W14

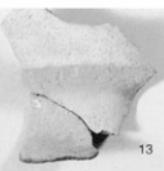
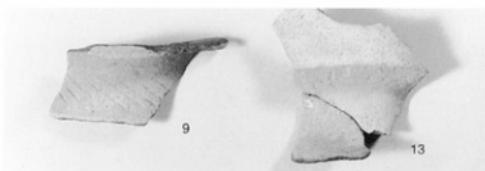
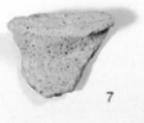


W20

図版1（古市六反田遺跡）



図版2 (古市六反田遺跡)



図版3
(古市六反田遺跡)



23



25



27



29



30



39



32



14



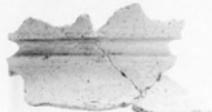
36



40



34



35



42



41

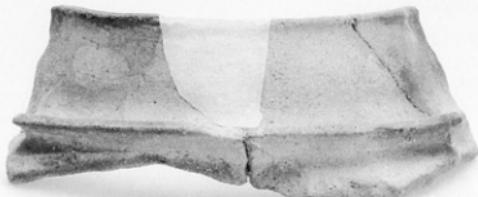


38



43

図版4（古市六反田遺跡）



報 告 書 抄 錄

(財)米子市教育文化事業団文化財発掘調査報告書 51

吉谷龜尾前遺跡・古市六反田遺跡

2006年3月

編集・発行 財團法人 米子市教育文化事業団

〒683-0033 烏取県米子市長砂町935-1

印 刷 (有)米子プリント社